

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 大塚・榎永・水谷・林)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: http://www.lbn.go.jp

## ～ 目次 ～

## 1. 事務局からのお知らせ

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- ① うおの会 ② 淡海スケッチの会 ③ 近江はたおり探検隊  
 ④ 大津の岩石調査隊 ⑤ 温故写新 ⑥ 暮らしをつづる会 ⑦ 古琵琶湖発掘調査隊 ⑧ 湖(こ)をつなぐ会  
 ⑨ ザ! ディスカバはしかけ ⑩ 里山の会 ⑪ 植物観察の会 ⑫ たんさいぼうの会 ⑬ 田んぼの生き物調査グループ  
 ⑭ タンポポ調査はしかけ ⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 ⑯ びわたん ⑰ ほねほねくらぶ ⑱ 緑のくすり箱  
 生活実験工房からのお知らせ

## 3. 新グループ「森人」発足のお知らせ

## 4. その他の事項

会員数・・・292人

グループ数 19 グループ

(2016年4月1日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

## (1) 更新手続きについて

更新手続きがまだの方は、至急、手続きをお願いします。更新受付票の提出(FAX、メール添付など)と合わせて、ボランティア活動保険料450円の納入をお願いします。ただし、はしかけ以外の活動団体ですすでにボランティア保険に加入されている方は、不要です。

納入方法を、郵便振替口座への振替あるいは振込に限定させていただきます。郵便振替口座(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)宛に、450円の振り込み(手数料別)をお願いします。

4月1日以降は、保険料を毎月の月末までとし、翌月初めに一括で加入手続きをさせていただきます。そのため保険証と名札をお送りするまでに、1ヶ月あまりのお時間を頂くことがありますことをご了承ください。

なお、18歳未満単独での登録には、保護者の同意が必要です。更新受付票の裏面に必要事項をご記入ください。

## (2) 2016年度第1回はしかけ登録講座

第1回を5月8日(日)に開催します。

場所: 琵琶湖博物館セミナー室 受付: 13:15～ 開講: 13:30～

各グループの活動紹介をお願いします。(約2分間活動紹介と、終了後の質問に対する回答)

第2回以降の日程は未定です。4月10日頃までに決定して、ウェブページと次号ニューズレターでお知らせします。

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



## ①うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 33名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbn.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

## 【お知らせ】

うおの会への参加には、はしかけ会員更新とは別に、年度ごとに会員登録(更新)が必要です。更新手続きが未済の方、および新たに入会ご希望の方は、会員登録票(会 HP から DL 可)に必要な事項を記入し、うおの会事務局(uonokai@lbn.go.jp)まで送信してください。もちろん、手渡しも可能です。

会の連絡は電子メールで行っています。会員登録票のメールアドレス記入欄には、アドレスを間違いなくご記入ください。

## 【活動報告】

■2月21日(日) 運営会議 10:00～12:00 場所: 琵琶湖博物館生活実験工房 参加者: 11名

議題1. 午後の「まとめの会」の内容と進行留意点の確認

議題2. 総会と来年度調査の方針・活動計画について検討と確認

議題3. 琵琶湖環境科学研究センターへの情報提供についての検討

■2月21日(日) 勉強会「データまとめの会」13:00~15:00 場所:琵琶湖博物館生活実験工房 参加者:22名

恒例となっている年度末のまとめの会を行いました。今年度の8回の調査で見つかった魚種を確認し、魚種シールを白地図上に張り付けました。参加者はそれぞれの魚種の形態を確認したり、調査時のことを振り返りながら、和気あいあいと魚の絵をハサミで切り抜き楽しい時間を過ごしました。

別の白地図には調査地点をプロットしました。今年度は昨年度に引き続いてカネヒラの稚魚調査を行ったため、湖岸にたくさんのプロットがちらばりました。今年度は、3年間の調査で初めて南湖西岸側でカネヒラ稚魚が確認されました。会員の粘り強い調査の成果です。

定例調査の地点が多かったため、定例調査地点を示す赤丸シールがあと少しでなくなってしまいそうです。来年までに買っておかないでは! (報告 石井千津)

### 【活動予定】

■3月27日(日) 運営会議 10:00~12:00

■3月27日(日) 総会 13:30~15:00 場所:琵琶湖博物館会議室

■4月17日(日) 第117回定例調査 大戸川、大石川(大津市) 集合:10:00

■5月15日(日) 第118回定例調査 喜撰川(大津市) 集合:10:00

4月から定例調査が再開されます。集合場所の詳細等は、約10日前に送信する出欠確認メールに記載しますので、ご確認ください。



## ②淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原 徹・榎永一宏

### 【活動報告】

1月の活動は悪天候のためお休みをしました。

### 【今後の活動】

■2016年3月27日(日) 安土城考古博物館周辺スケッチ

■ " 4月24日(日) 場所は未定

3月・スケッチ会

日にち 2016年 3月27日(日)

集合時間 午前10時00分(解散時間 午後3時)

集合場所 安土城考古博物館入口

※安土駅より徒歩30分ぐらいかかりますので、電車を利用される方は淡海スケッチの会金山(080-5709-8634)までご一報ください。安土駅で参加者の車に乗っていただけるかもしれません。持ち物 画材、お弁当、飲み物。館内のレストランも利用できます。

※4月以降の活動につきましては3月のスケッチ会で相談する予定です。

<申し込み>

ファックス・電話はグループ担当職員さんまで。または、金山の携帯電話へご連絡をお願いします。



## ③近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: oumihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

#### 織姫の会

■1月23日(土)(参加者:6名)

前回と同様に今年の体験に向けて、ビニールテープで作る籠作りを練習しました。簡単な籠でも時間がかかるので、1時間の体験には向かないかも。

■2月10日(水)(参加者:4名)

引き続きカゴ作り。止め方を工夫すれば作りやすくなることがわかりました。

■2月20日(土)(参加者:4名)

Kさんにこぎん刺しを習う。小さな作品だと比較的簡単にできるので、ワークショップに向けて練習することにしました。

■3月2日(水)(参加者:7名)

前回から引き続き、こぎん刺しを作ってみました。小型のブローチだと1時間程度で作れました。



3月2日 こぎん刺しの練習

【活動予定】

■織姫の会 3月26日(土)、4月16日(土)、27日(水)、5月14日(土)、25日(水)、6月11日(土)、23日(木)

(辻川智代)



④大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: ganseki@lbn.go.jp

グループ担当者: 里口保文

【活動報告】

■薄片作成・岩石等の報告 2016年2月2日(水) 10:00-16:00 実習室1にて 参加者8名。

前回に続き、岩石の分析に必須の手法である薄片作成の実習をした。全員、二次研磨を終えた。中野特別研究員、里口学芸員に見て頂き、判定をして頂いた。また、試作資料と薄片標本を用いて分析評価と教育をして頂いた。今年の新しい企画として、隊員による興味ある岩石関係の報告に関してはリン鉱石を主体に燐に関する広範囲の報告があった。視野が広がった。

■岩石の基礎教育の勉強会、研究セミナー参加 2016年3月18日(金) 10:00-13:50 実習室1・会議室 参加者9名

午前中は、中野特別研究員の岩石の基礎評価手法である偏光顕微鏡の教育を受講した。また、前回に試作した薄片の相互評価を進めた。変更顕微鏡の観察には光源が極めて重要であることが分かった。午後は研究セミナーに参加し、里口学芸員の琵琶湖の生い立ちの仮説を聞いた。琵琶湖の成因に関しては何度か聞いていたが未確定であることも多いのに驚いた。

【活動予定】

4月16日(土)に新入隊員の歓迎会を兼ねて大津の音羽山周辺の断層の調査とハイキングを行う。



⑤温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: onkosyasin@lbn.go.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■2月

担当学芸員が長期出張で不在のため、活動はお休みでした。

■3月13日(日) 9:30~12:00 博物館会議室 参加者7名

2015年度の総会を開催し、今年度の活動をふりかえりました。今年は活動10周年ということもあり、様々な撮影会や新空間での展示を行ない、それらの結果や今後の展開などを話し合いました。

また2016年度の活動計画をたてました。来年度は「琵琶湖」をテーマに撮影を行なうため、さまざまなおでかけ撮影会を企画し、リニューアルや様々な展示に活用できる写真撮影をしていこうということになりました。

【今後の予定】

■4月9日(土)9:30~15:00 おでかけ撮影会 ~高島の湖岸編~

集合:琵琶湖博物館 9:30 or JR 湖西線の駅など

交通費など別途必要、おやつの上限なし

新旭町や安曇川町付近で琵琶湖の風景を撮影します。

参加される方は、必ず金尾学芸員(kanao@lbn.go.jp)までご連絡ください。

■5月14日(土)9:00~15:00 おでかけ撮影会 ~沖島編~

集合:琵琶湖博物館 9:00 or JR 近江八幡駅、堀切港など

交通費など別途必要、おやつの上限なし

沖島に船で渡り、島の風景や琵琶湖の風景を撮影します。

参加される方は、必ず金尾学芸員(kanao@lbn.go.jp)までご連絡ください。

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行ないません。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



## ⑥くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

### 【活動報告】

8月からの多羅尾水害の展示に向けて、準備をしています。  
2月、3月は多羅尾に伺い、水害のお話をお聞きしています。  
2月11日は、多羅尾コミュニティセンターにお邪魔して、水害の当時22歳から25歳ぐらいだった皆さんにお話を聞くことができました。  
「水害の話は、残していかなとあかんと思ってた。聞いてくれてありがとう」と集まった皆さんが、それぞれに一生懸命にお話を聴かせて下さいました。  
多羅尾の展示に向けて、気の引き締まる思いです。  
今後も、自治会のみなさんや多羅尾小学校のみなさんにお手伝い頂き、準備を進めたいと思います。

(中尾京子)



### 【今後の予定】

引き続き、信楽町多羅尾などで地域の方からのお話を伺い、まとめていく予定です。  
活動にご関心がある方は、メール・電話などでお気軽にご連絡ください。

(大久保実香)



## ⑦古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 高橋啓一

### 【活動報告】

■続骨化石の強度補強と同定 琵琶湖博物館 参加者7名 実施日1月10日

クリーニングした骨化石の強度補強と同定を行いました。前回に引き続き、肋骨、椎骨の同定を主にしました。1回同定を経験しただけあって、前回よりもスムーズに同定することが出来、成長を実感しました。ただ、一部が損失している骨化石は、どうしても先生のアドバイスを受けないとわかりませんでした。実際の発掘では、きれいに化石が出てくることはあまりないので、一部損失した化石も同定を行い続け、同定のスキルをさらに高めていきたいと思っています。



前回よりもスムーズに同定出来ました



しかし同定が難しい骨化石もありました

## ■貝化石のクリーニング 多賀あけぼのパーク 参加者4名 実施日2月21日

多賀町四手での第三次発掘調査で発掘された貝化石のクリーニングを行いました。

事前にクリーニングのやり方や保存の方法の説明を受けました。既に9カ月余り経過している化石なので母岩の粘土が固くなっておりカッターナイフや千枚通しなどを駆使し、休憩時間も取らず皆さん必死で取り組んでおられました。

今回は「多賀町お助け隊」からも1名の参加者が来られ緊張の中でも、和気あいあいの雰囲気楽しく作業を行いました。

貝化石に限らず化石は発掘、整理、クリーニング、強度補強等、論文作成を経て初めて、ひと通りの作業が完了することを顧問の高橋先生から教えて頂いていますが素人集団ですので、なかなかたどり着く事ができません。あつと言う間に時間が過ぎてしまいました。

第四次発掘(計画中)では先に出た化石を優先的にクリーニングを確認し、今回は心配した怪我人もなく終了しました。今後の計画を十分に検討したいと思いますが稼働や日程の調整が難しそうです。それにしても、腰と肩が痛くてたまりませんでした。年のせいかもしれませんが。(個人の意見)



貝化石を取り巻く堅い泥



立って作業する人、座って作業する人  
それぞれのペースです

### 【今後の予定】

- 3月21日(月・祝) 第2回植物化石の勉強会
- 4月 第4次多賀四手発掘



## ⑧湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

3月6日に久しぶりにアトリウムで紙芝居を上演しました。リニューアル工事中で来館者が減少しており、紙芝居を見に来てくれる子どもたちがどれくらい集まってくれるか心配していました。1回目は何とか集まってくれ、年齢の低い子どもたちでしたが、水族展示にいた魚たちの事を思い出しながら、楽しい時間を過ごしました。2回目は午後3時からを予定していましたが、子どもたちの姿が少なく中止しました。

来年度の予定も話し合いましたが、リニューアル前は入館者が少なく、その後はたぶん極端に増えると思われるので、アトリウムでの開催はむづかしくなるかもしれないと想定のもと、いろいろな方法を考えながら活動を続けていくことにしました。

### 【活動予定】

未定



## ⑨ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@lbm.go.jp

グループ担当者: 澤邊久美子, 森智美, 片淵綾香

今年も恒例になったお手玉づくりを2月に行いました。みんなで針と糸を使って、お手玉の袋を縫い、好きな音の中身を選んで自分だけのお手玉を作りました。今年度最後のはしかけ登録講座では、3人で活動紹介をしました。新しい仲間が増えるでしょうか?? もうすぐ桜が咲きそうですね。春は色んな匂いのかぐのが楽しみな季節です。

**【活動報告】**

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけイベント	2月7日(日) 14:30~15:30	はしかけイベント「お手玉をつくろう！」	小豆以外に、ジュズダマや色々な種などを入れてお気に入りの音のお手玉を作りました。参加13名
はしかけイベント	3月12日(土)	はしかけ登録講座	ディスカバはしかけの活動について紹介しました。参加3名

～メンバーからのメッセージ～Vol.23

今年のお手玉づくりは、針の取り扱いについてみんなで考えて、イベントを行いました。保護者の方と参加してもらい、一緒に仕上げのお手玉づくりには、初めて針を使う子どもさんも参加されます。危ない、とやめてしまわずに、やってみて初めてできた時の気持ちを保護者の方と一緒に共有してもらいたいと思います。保護者の方が一緒にいることで、子どもも安心して一生懸命取り組み事ができます。そのような時間をディスカバの中でたくさん作っていきたいと思います。(澤邊)

**【今後の活動予定】**

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけイベント	4月以降	総会	28年度の活動予定を決めます。

ディスカバリアルームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！



**⑩里山の会**

**【活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】**

グループ代表アドレス: satoyama@lbgm.jp (登録会員数 35名)

グループ担当者: 安福俊幸, 楠岡 泰

**【活動報告】**

■2月27日(土) きのご菌打ち 参加者12名

博物館生活実験工房において、草木染 & きのご植菌を行いました。

草木染は1月のはしかけの森での里山体験教室で採取した①ヤシャブシの実と②玉ねぎの皮、③クサギの実の三種類の染色原料を使って、綿布を染めました。同じ材料を使った染にもかわらず出来上がった作品は十人十色、すばらしい出来に皆さん大満足。

きのご植菌は、しいたけ & クリタケ の原木栽培、今回はそれぞれ 10 本ずつ植菌しました。早ければ来年には採取でき、収穫祭ができそうです。(吉井)



■3月6日(日)総会&祝う会 参加者20名

里山の会総会と楠岡さんの定年退職を祝う会を行いました。総会では、今年度の活動・会計報告、世話人改選、次年度の活動計画立案を話し合い全員総意で議決されました。祝う会では、子どもたちだけでいちごスポンジケーキを作ってくれました。また、皆さんからいただいた楠岡さんへのメッセージや写真を編集して皆さんの思いのこもったアルバムを作成しました。楠岡さんへの感謝の言葉と「琵琶湖周航の歌」、「ふるさと」を合唱し本日の活動を締めくくりました。(吉井)



### 【活動予定】

- 4月10日(日) 里山体験教室(春)下見
- 4月17日(日) 里山体験教室(春)本番
- 5月15日(日) 春の大篠原里山遊び



## ⑪植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: shoku-kan@lbn.go.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

植物観察の会は、メンバーを限定せず、はしかけさんなら誰でも参加できる観察会を開催しています。2004年の企画展「植物がうごくとき～のびる・ひろく・ひろがる」の時に、多くのはしかけさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

カジュアルな観察会を長年にわたり開催してまいりましたが、2016年3月末で講師の布谷さんが三重県総合博物館の館長を退職されることになり、また琵琶湖博物館も7月中旬のC展示室と水族展示室のリニューアルオープンに向けて慌ただしくなるので、2016年度9月まで半年ほど、布谷さんを講師にお迎えする従来の観察会はお休みしようと考えています。

2016年10月以降は、年度内に1, 2回の観察会を開催する予定です。お休みの期間も、臨時で番外観察会や勉強会など何かする可能性もあります。その際は、ニューズレターでお知らせいたします。

### 【活動報告】

2016年3月19日(土)の観察会は、天候不順のため中止となりました。申し込んで楽しみにしてくださっていた皆さま、ご迷惑をおかけいたしました。前日に中止を決めたのですが、当日の天気は晴れ間もあり、少し残念でした。(芦谷)

### 【今後の活動】

上記の通り、今後の活動は2016年度前半は観察会の開催はお休みし、9月ごろから再開する予定です。1年間(3月は中止でしたが)続いた瀬田公園は、一旦終わりにして、次回は以前のように県内の他の場所で観察会を開催したいと考えています。行きたい場所などありましたら、担当のアドレスまでリクエストをいただけたら有難いです。(芦谷)



## ⑫たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: keisou@lbn.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

### 【活動報告】

2月、3月は、会としてのまとまった活動はありませんでした。しかし、多くの会員が入れ替わり立ち代わり交流室を訪れ、たくさんの顕微鏡写真を撮影しました。またメーリングリスト上では、長年の貢献があった会員の引退宣言や、「未来の最年少珪藻マスター」の誕生報告などがあり、盛んに情報交換が行われました。

9年越しの課題だった、山室湿原(米原市)の珪藻植生のまとめを、論文(短報)として投稿しました。現在審査中です。掲載の目途が立ったら、また報告いたします。また、この投稿原稿の概要をポスターにして、3月6日に行われた「地域自然史と保全研究発表会2016」で発表してきました。

3月の登録講座で、新たに1名の新入会員を迎えました。

## 【活動予定】

たんさいぼうの会第49回総会を、近江富士花緑公園で4月10日（日）10:00～12:00に行います。終了後は恒例の花見バーベキューです。

日本珪藻学会第37回大会（5月14・15日、神戸大学）で、4人の会員が発表をする予定です。発表者たちは、今からその準備で大忙しです。今からデータ解析をしていて、要旨作成に間に合うかな？

顕微鏡使用が混み合っていますので、ご使用を希望の方はメーリングリスト付属のカレンダーに記入するか、keisou@lbm.go.jp までメールでご一報ください。



## ⑬タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbm.go.jp

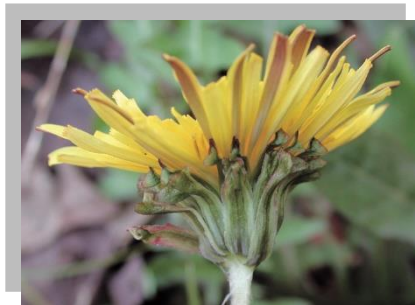
グループ担当者: 芦谷美奈子

＜タンポポ調査はしかけ、これからも活動します！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！＞

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」という西日本19府県(福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀)が参加するタンポポ調査に協力する目的で活動を始めたグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続していくつもりです。

2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、突っ込み型の調査や勉強をしています。



タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。  
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

＜2015年の調査が終わり、報告チラシ、報告書ができあがりました！＞

2015年度の調査は、5月末で終了しました。多くの方々にご協力いただき、滋賀県でも2年間で3,180の有効データを得ることができました。19府県の有効データの総数は、68,890件でした。各府県のデータも含めて、全体のタンポポの分布や雑種の問題、見られる種類などをまとめた報告書ができあがりました。

タンポポ調査はしかけに登録している方で、報告書入手の希望があれば、上記のアドレスまで連絡をください。事務局まで問い合わせる必要なく、琵琶湖博物館でお渡しできます。また、チラシも多めに注文しましたので、どこかで配布したいなどありましたら、遠慮なくお申し出ください。

＜引き続きメンバー募集中！＞

西日本の広域調査は終了しましたが、グループの活動は継続予定です。

今回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)がどうなるか、現時点では決まっていようですが、広域調査を通じて、種類の見分け方や雑種問題、分布域の違いなど、多くの課題が見えて来ています。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

## 【活動報告】

＜3月19日:「タンポポ調査・西日本2015」調査説明会@大阪＞

2015年の調査を総括して、大阪の駅前(大阪市立総合生涯学習センター)で説明会(報告会)が開催され、出席してきました。兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武さんによる「タンポポ調査・西日本2015」の報告があったあと、たんぽぽ研究者というユニークな肩書きの保谷彰彦さんによる講演がありました。保谷さんの講演は「私が見た日本のタンポポ～高山・里山から都心の空地まで～」というタイトルでしたが、個人的に興味を持ったのは高山のタンポポの色々のお話と、雑種が形成されるメカニズムなどのお話でした。活発に意見交換がなされ、調査の締めくくりの会としては充実していました。(芦谷)

## 【活動予定】

琵琶湖博物館では、現時点では展示や報告会を予定していませんが、4月になってから調査結果を新聞社などに資料提供しようと思っています。今後集まって何かするときは、メーリングリストで連絡をします。





## ⑭田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 26名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: 楠岡泰, M. J. グライガー

### 【活動報告】

#### ■1月30日(土) 13:30-16:30 出席12名

今年度調査の結果報告と検討が行われました。

##### 1. 信楽調査の結果

- ・2012年の調査に比較して地点内で生息筆が増えた所が多い。
- ・この地域でトゲカイエビが新確認されたことが注目される。
- ・2016年に一部地域を補足調査する。5年後くらいにもう一度調べる。

##### 2. 高島調査の結果

- ・安曇川より南側の地域にはホウネンエビとカイエビが少し見られたが、北側の地域には全く見られなかった。
- ・安曇川以南であっても、湿田が広がるデルタ域にはエビ類が見られなかった。
- ・来年度、新旭町の安曇川左岸域を少し詳しく調べる。

##### 3. 瀬田調査の結果

- ・エビの生息は昨年度と比べて大きな変化はなかったが、2種のカブトエビが混在する田んぼが見られた。
- ・これまでアジアカブトエビだけだった田んぼにアメリカカブトエビが新たに入っているのが確認された。
- ・アジアカブトエビの分布域ではカイエビが全く確認されず、トゲカイエビも少ない。

#### ■3月13日(日) 13:30-16:30 出席14名

今年度活動の総括と来年度に向けての体制整備、および来年度調査計画が決定しました。

##### 1. 来年度の体制について

楠岡さんの退官に伴い主担当がグライガーさんに、副担当が鈴木隆仁さんになる。

##### 2. 名簿の作成を決めた。

##### 3. 2015年の調査結果からみたエビ類の分布について

- ・信楽では分布が広がっているが、農機具の使用状況との関係はなさそう。
- ・安曇川以北の高島市地域を集中的に調べたが、今までと同様エビ類は見つからなかった。

##### 4. 個人調査による報告

- ・甲賀市東部に「いない」地域が線状に並んでいる。
- ・ブルーメの丘の手前から東方向に広がる水田地域にカブトエビが多数いる(この2~3年ではじめて出現)。
- ・トゲカイエビの分布が竜王町まで広がった(これまでは野洲とまり)。

### 【今後の予定】

今シーズンの調査予定は下記の通りです。従来とは異なりグループ単位の調査があります。参加希望の方はメールで申し込むか、担当学芸員に連絡してください。

5/28(土)	信楽調査	瀬田駅集合(9:30)
5/29(日)	安曇川周辺調査	堅田駅集合
5/29(日)	大津市北大路周辺調査	集合場所未定
6/5(日)	守山市今浜町付近の調査	守山駅集合(9:30)
6/12(日)	瀬田地域のカブトエビ調査	アルプラザ瀬田駐車場 4階琵琶湖側集合(9:00)

\*5月の調査前に、新人研修と調査準備の集まりがあります。詳細は決まり次第メールでお知らせします。

(石井)



## ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: [bck@lbm.go.jp](mailto:bck@lbm.go.jp)

グループ担当者: 大塚泰介

### 【活動報告】

#### ■2月14日(日)第1回活動(参加者5名)

琵琶湖博物館で第1回目の活動を行いました。朝10時に博物館に集合し簡単な自己紹介の後博物館前の湖岸でプランクトンや底生動物の採集を行いました。午後は顕微鏡で採集した生き物の観察を行いました。プラナリア、ミズ、ヨコエビ、エビ、ミジンコ、ワムシ、繊毛虫、珪藻、緑藻、渦鞭毛藻など多彩な生き物を観察することが出来ました。

今後しばらくの間の活動方針としてヨコエビを中心に観察することに決めました。

### ■3月21日(月)第2回活動(参加者8名)

琵琶湖博物館で第2回目の活動を行いました。烏丸半島北側の2か所でヨコエビを中心に採集を行い観察しました。とても心地の良い陽気の中楽しく採集することが出来ました。午後は簡単なヨコエビの説明の後、ヨコエビや珪藻、緑藻などの観察を行いました。ヨコエビは今回ナリタヨコエビとフロリダマミズヨコエビの2種類が採集できました。ナリタヨコエビは繁殖期だったため卵を持った大きな個体や生まれたばかりの稚エビが多く採れました。



#### 【活動予定】

次回の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。参加希望の方は上記のグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



### ⑩びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: biwatan@lbm.go.jp

グループ担当者: 間所 忠昌

わくわく探検隊は、リニューアル工事閉鎖にも関わらず多くの参加者をいただいております。毎回参加されるリピーターも増えてきています。12月と1月は生活実験工房を会場にしたプログラムでした。

#### 【活動報告】

##### ■2月13日(土) わくわく探検隊

「よし笛をつくろう」12家族27名 ヨシ博士: 芦谷さん

大人気のものづくりメニュー！たくさんの参加で2回転も必要かと心配していましたが、来館者が少なめだったこともあり、ほどよい参加人数となりました。今回の参加者は、お子様連れのご家族(8組)だけでなく、お年寄りのお一人での参加(2名)やご夫婦での参加(2組)など様々顔ぶれとなりました。幅広い年齢層の方に興味を持っていただけてとてもよかったです。

プログラムの流れは、芦谷博士の「ヨシ」のお話でスタート。写真やレプリカ、実物を駆使して、ヨシがどんなものでどんな働きがあるのかをわかりやすく伝えていただき、参加者にも大講評でした。後半は、ソラノシの音が出るように調整した3本のヨシを使った「よし笛作り」を楽しんでもらいました。笛をふくには少しコツが必要で、音を出すのに悪戦苦闘する参加者もおられました。どの方もできあがった笛を大事そうに持ち帰っていただけました。

びわたん(おかちゃん)

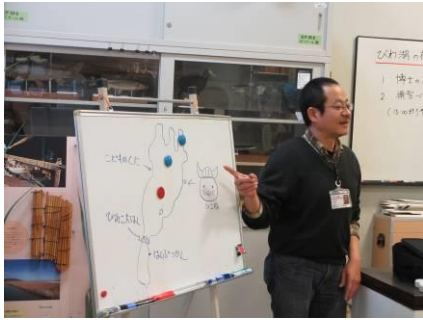


##### ■3月12日(土) わくわく探検隊

「琵琶湖の模型をつくろう」9家族36名 琵琶湖の博士: 芳賀さん

今年度最後のわくたんは、「琵琶湖の模型をつくろう」でした。

「琵琶湖の一番深いところはどこでしょう？」まず芳賀博士から問題が出されました。手を挙げてくれた3名のお子さんが、ホワイトボードに描かれた琵琶湖にカラーマグネットを置いてくれましたが、どれも正解からは少し外れていました。博士から、琵琶湖の深い所が西側に少しずれていることを学んで、琵琶湖の模型づくりに取り組みました。



【おゆまる】をお湯で温めて、琵琶湖の型枠に押し込みました。うまく押し込まないと最深部の突起ができません。完成した模型をドキドキしながら型枠から外している参加者たちが印象的でした。

今回のわくたんには、滋賀の教師塾から9名の学生が参加してくれました。彼らの協力なしでは成功しなかったと思います。本当に助かりました。  
びわたん(まどちゃん)

### 【活動予定】

次回のわくわく探検隊は2016年9月10日(土)となります。それまでの期間は、新しいワークショップの検討などを行う予定です。

- 4月9日(土)13:00~16:00 実習室2にて 4月定例会(新年度の予定と運営について、ワークショップ等)
  - 5月14日(土)13:00~16:00 実習室2にて 5月定例会(6月のゲリライベントについて、ワークショップ等)
- 「びわたん」の活動に興味のある方は、実習室2をのぞいてください。事前連絡は⇒ [biwatan@lbm.go.jp](mailto:biwatan@lbm.go.jp) まで



## ⑰ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス: [hone-hone@lbm.go.jp](mailto:hone-hone@lbm.go.jp)

グループ担当者: 高橋啓一

### 【活動報告】

#### ■1月31日(日) 参加者5名

ハクビシンの解剖、博物館のリニューアルで使用される標本の準備を行いました。

今回から博物館のリニューアルで使用されるオオサンショウウオの骨格標本(琵琶湖博物館所蔵のもの)の組み立てを始めました。と言っても、展示用の台座に穴を空けるだけだったのですが、オオサンショウウオは普段の活動ではまずお目にかかれない標本なので、この機会に目一杯堪能したいと思います。

#### ■2月20日(土) 参加者7名

高橋学芸員による解剖学講座第1回目を行いました(写真参照)。

今回は体節や神経支配について、動物の進化の過程を関連付けながら説明していただき、普段解剖で何気なく切断している組織が、実は非常に興味深いものであることが分かりました。解剖用に準備していたアナグマが予想以上に太って脂肪が厚いというトラブルはありましたが、丁寧に解剖し、神経1本1本を観察することで、神経の配置が非常に規則的であるという、普段気付かないようなことに気付くことができました。

#### ■2月27日(土) 参加者5名

カメの甲羅の組み立て、博物館のリニューアルで使用される標本の準備を行いました。

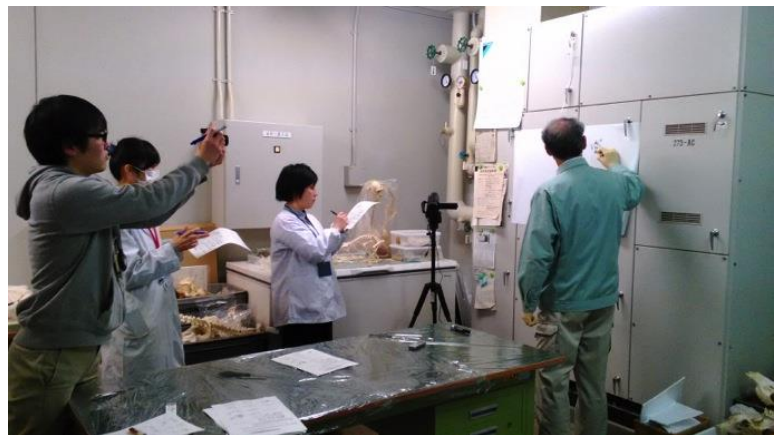
以前、カメの集中解剖フェアの際に解剖したカメの骨が、組み立てられていない状態だったので、苦勞を覚悟の上で組み立て始めました。普通の骨は、端から順番に接着していけば標本として組み上がるのですが、カメの甲羅は前後左右に結合面があり、角度を調節しながら接着しなければ、ズレが大きくなってしまい甲羅の形にならないため、思っている以上に困難な作業です

#### ■3月6日(日) 参加者1名

標本整理、収蔵準備を行いました。

#### ■3月13日(日)

はしかけ登録講座で活動紹介を行いました



### 【4月、5月の活動予定日】

4月の活動は10日(日)、30日(土)を予定しています。5月の活動日は未定です。

活動内容は、高橋学芸員の解剖学講座及び骨格標本作製を予定しています。

月に2回程度、土曜日・日曜日に活動しています。

動物、骨に興味がある方なら参加・見学大歓迎です。

活動見学を希望される方は、グループ代表メールに連絡をお願いします。

**【活動報告】**

■3月13日(日) 10時より、緑のくすり箱は総会を行いました。(参加者 11名)

**1. 今年度の活動の振り返りと会計報告**

- 4月 新年度総会・春の草花でしおりを作ろう(びわたんのお手伝い)
- 5月 薬草フェスタ(伊吹薬草の里センター) ヘッドマッサージ練習会  
朽木の春 セラピーの森を歩こう
- 6月 廃油キャンドル作り・ハンドマッサージ練習会
- 7月 びわ博フェスティバル ハンドマッサージ
- 8月 山科植物資料館 見学  
水族展示の見学
- 10月 伊吹山文化資料館見学ときゃんせの森で森林セラピー体験
- 12月 琵琶湖博物館でピザパーティ(ハーブの勉強会)
- 1月 七草粥作りと廃油石鹸

・会計報告では各イベントで必要となった材料費の確認をして頂きました。  
・会費は、年間1人1,000円ずつ回収していますが、なるべくその年度の活動で使いきろうということで決定しました。(次年度から辞める方もいらっしゃるため)

**2. 来年度の計画**

来年度、研究したい事ややってみたいことなどを、メンバーが積極的に意見を出し合い、充実した活動計画案が出来ました。  
(主な意見のまとめ)

- ・ヨモギについての研究  
ヨモギの種類や採取時期、方法などを学び、お餅やパンなどを作ります。  
また、乾燥させたヨモギを使い、もぐさ作りやバスソルトを作ります。
- ・ハーブチンキの活用  
数年前から行っているドクダミのチンキ作り。その他、かりんやゆずなどのチンキ活用した化粧水やクリームを作ります。
- ・健康ドリンクや健康茶を作る  
赤シソの種をプランターに蒔き、成長したら赤しそジュースを作ります。  
琵琶湖博物館で採取できる薬草を勉強し、びわ博フェスタでは「健康茶カフェ」を開けたらいいと思います。
- ・その他  
藍染体験や、水族展示の見学など。  
恒例となっている七草がゆ作りと廃油石鹸作り、また、好評だったハーブを使ったピザ作りなども行います。  
時期や担当について、大まかに決めましたが、4月の総会で再度、詳細に決定したいと思います。

**【今後の予定】**

- 4月23日(土) 10:00~12:00 新年度総会  
13:00~15:00 赤シソの種まき
- 5月(日程は未定) ヨモギの採取とお餅・パン作り



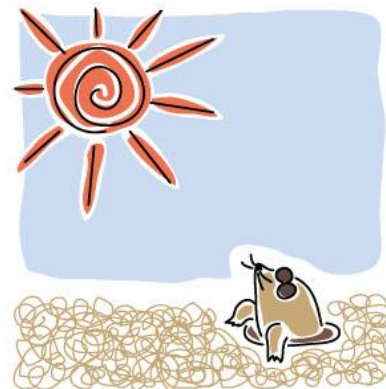
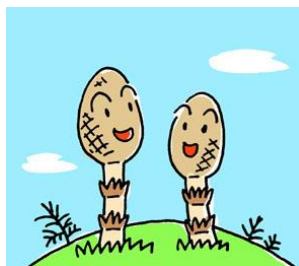
## 生活実験工房からのお知らせ

※春の訪れとともに、生活実験工房の田んぼ体験行事がはじまります。稲作づくり体験では、5月～10月までの活動日が決まりましたので、お知らせします。フィールドレポーターやはしかけの方の参加をお待ちしています。時間を見つけて、体験活動へのご参加をよろしくお祈いします。

### 【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

5月15日(日) 田植え  
 7月24日(日) 昆虫採集  
 9月11日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)  
 10月2日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)



※一般参加者の受付は、9:30からです。  
各自、長靴、着替え等をご用意ください。

## 3. 新グループ「森人」発足のお知らせ

3月12日に、はしかけの新グループ「森人」が発足しました。

「森人」(もりひと)

代表:福岡 敏雄

担当:林 竜馬

植物が好きな人たちが集まって、博物館の屋外展示の森を活用したガイドツアーや樹木の解説看板の設置などを博物館と共に行っています。2015年度のはしかフェの活動から生まれたグループです

4月5日に活動日などを決定する予定ですので、参加を希望される方はメールで代表アドレス([morihito@lbm.go.jp](mailto:morihito@lbm.go.jp))まで問い合わせください。

## 4. その他の事項

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの [hashi-adm@lbm.go.jp](mailto:hashi-adm@lbm.go.jp) まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) 活動中に事故が起きたら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成28年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。

2016

6-7月

# はしかけニューズレター

2016年度 第2号 通巻129号

2016年(平成28年)6月3日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 山本・大塚・下松・大久保)  
住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850  
電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: http://www.lbn.go.jp

## ～ 目次 ～

### 1. 新担当からのご挨拶

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- ① うおの会 ② 淡海スケッチの会 ③ 近江はたおり探検隊
- ④ 大津の岩石調査隊 ⑤ 温故写新 ⑥ 暮らしをつづる会 ⑦ 古琵琶湖発掘調査隊 ⑧ 湖(こ)をつなぐ会
- ⑨ ザ! ディスカバはしかけ ⑩ 里山の会 ⑪ 植物観察の会 ⑫ たんさいぼうの会 ⑬ 田んぼの生き物調査グループ
- ⑭ タンポポ調査はしかけ ⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 ⑯ びわたん ⑰ ほねほねくらぶ ⑱ 緑のくすり箱
- ⑲ 森人 ⑳ 生活実験工房からのお知らせ

### 3. その他の事項

会員数・・・308人  
グループ数 19 グループ  
(2016年6月1日現在)

## 1. 新担当からのご挨拶

このたび、はしかけ制度の主担当者となりました山本です。はしかけの担当者は前の主担当の大塚以外は3名とも入れ替わりの新人となりました。

今、当館はリニューアル直前ということで展示を更新するエリアの関係者はもちろん、そうでない人も、皆てんてこ舞いの日々を過ごしています。佳境を迎えている展示室の工事は、数日経つと様相がガラッと変わるなど、展示製作の状況を逐次チェックしなければならず、学芸員によっては気が抜けない日々となっています。水族展示を担当している私は、新たに展示する魚の段取りを済ませて、水槽が完成したら即座に収容するために待機しています。リニューアル開館直後はいろいろと混乱が予想されますが、はしかけ活動は、これまでと同様に地に足を付けた活動を行いつつ、新たにはしかけに興味をもたれる方にも参加いただいて、活動の幅を広げて行ければと思います。

みなさんと一緒に活動しながら、はしかけを運営・発展させていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。相談ごとがあれば、まずは電子メール hashi-adm@lbn.go.jp にお願ひします (山本充孝)。

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### ①うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 65名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbn.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

#### 【お知らせ】

うおの会への参加には、はしかけ会員更新とは別に、年度ごとに会員登録(更新)が必要です。更新手続きが未済の方、および新たに入会ご希望の方は、会員登録票(会HPからDL可)に必要事項を記入し、うおの会事務局(uonokai@lbn.go.jp)まで送信、または手渡しで提出してください。

#### 【活動報告】

■3月27日(日) 総会 13:30~15:00 場所: 琵琶湖博物館会議室 参加者: 23名

琵琶湖博物館にてうおの会の総会が開かれました。今年度の定例調査の成果、個人調査データ提出状況、観察会講師等の活動記録が報告されました。大きな成果としては、近々発売予定の滋賀県レッドデータブックの参考資料として、この3年間続けてきたカネヒラ稚魚調査の結果も使われるとのこと。この小さな積み重ねの結果は、うおの会の成果としてはとても大きなものだと感じます。

次に、次年度運営委員と役員を選出が行われ、長年にわたり会長、事務局長を歴任された村上さんが今年度をもって勇退

されることになりました。総会はここで一旦終了し、その後、この1年の調査を写真で振り返りました。調査場所の写真や確認された魚の写真、美しい琵琶湖の景色、楽しく魚つかみをしている参加者の写真などたくさん写真がありました。写真を見ながら、あれやこれやと話したり、自分の参加した班以外の様子を見ることができました。

たくさん写真を見ながら思ったのですが、うおの会って集合写真というものがないんです。定例調査は毎月参加者が違うのでいつ撮ったらいいのか、とも思うのですが、川や魚の姿の記録として写真を撮るのもいいですが、人の写真を撮るのも記録としてはいいかもしれないなあ、と思った総会でした。（報告 竹元冴矢）

■4月17日(日) 第117回定例調査 10:00~14:00 場所:大戸川、大石川 参加者:23名

前夜からの雨が朝まで残り開催も危ぶまれたのですが、早朝より中尾会長が下見に行ってお下り、大規模な増水も無いことが確認され予定通り実施となりました。

今シーズン最初となる定例調査は、新会員の小学生を含めて20人を超える賑やかなものとなりました。雨は集合時に一旦上がったものの、調査開始後も雨雲が通過するたびに激しく降られてしまいましたが、昼前には快晴になりました。

大石川と萱尾川、それに大戸川周辺2地域の、4班に分かれて調査し、いずれの班もカワムツ・ドンコ・ヨシノボリを中心に、10種近い魚種を確認できました。さらに複数の班では、スナヤツメの幼生も確認されました。

今シーズンよりシマドジョウ類(ニシシマドジョウ、オオシマドジョウ)の調査も併せて実施しており、採集したシマドジョウ類をサンプリングすることになりましたが、今回は3つの班でサンプルを集めることができ、石井(千)さんに琵琶湖博物館まで届けていただきました。サンプルから倍数性の解析を行い、県内のシマドジョウ類の分布状況を調べる予定です。

(報告 高田昌彦)

■5月15日 第118回定例調査 10:00~13:00 参加者19名 場所:喜撰川

前年は大雨で十分な調査が出来なかった、喜撰川の定点調査を行いました。今年は朝から晴天に恵まれ、新会員2名も加わり、昨年の2箇所に加えて村上さんのアドバイスをもとに上流域(栗原集落付近)を追加して3ヶ所にて実施しました。

河口~下流担当の班では多数のアユをはじめ、ウキゴリ、外来魚など8種類の魚を確認し、堰から上流担当の班ではカワムツなど6種類、上流域担当の班では天然アマゴを含む2種類の魚を確認できました。渋滞に巻き込まれ集合に間に合わなかった2名の会員は和邇川で調査を行い、アユ、ウツセミカジカ、タカハヤ等が確認されました。

来月はうおの会でもあまり調査していない米原市の天野川上流です。数多くの皆さまの参加をお願いいたしますm(\_\_)m。ホテルに注意して調査しましょう。(報告 田中治男)

【活動予定】

■6月19日(日) 第119回定例調査 10:00~14:00 天野川中・上流域

■7月17日(日) 第120回定例調査 10:00~14:00 場所:高時川

■8月には親睦会を計画中です。



②淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原 徹・榎永一宏

【活動報告】

■4月24日 スケッチ会(近江八幡) 活動会員数 4名

日牟禮八幡宮の鳥居前に集合し、八幡掘各所にて昼食を挿みながら思い思いにスケッチ。

ミーティングの後、赤煉瓦の里周辺を散策。解散。

■5月21日 スケッチ会(近江今津および新旭水鳥観察センター) 4名

石田川の築を見学。思い思いの場所にてスケッチ。

ミーティングの後、新旭水鳥観察センター付近を散策。

【活動予定】

■6月26日(日) 余呉スケッチ会 現地 午前9時30分~午後3時

■7月24日(日) 琵琶湖博物館付近をスケッチ(蓮の群生地など) 湖岸駐車場にて9時30分集合。午後3時解散予定。

- ▶ 初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください  
持ち物 画材、お弁当、飲み物。レストランも利用できます。



### ③近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ代表アドレス:oumihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員:渡部圭一

今回から担当が林竜馬さんから渡部圭一さんに代わりました。今後ともよろしくお願いします。

#### 【活動報告】

織姫の会

■3月26日(土)(参加者:7名)

前回と同様、こぎん刺しの練習をしました。

■4月16日(土)(参加者:6名)

春になりましたね。工房周辺のタケノコ、ヨモギなどをもらって、ヨモギモチを作りました。ヨモギを摘むところから始めたのは初めてでしたが、おいしくできました。

■4月27日(水)(参加者:3名)

こぎん刺しを使ったマカロン縫いの方法を学びました。材料は厚紙、ファスナー、裏布など。まず、表布にするこぎん刺しを作らないと。

■5月14日(土)(参加者:8名)

各自作業。綿繰り、糸紡ぎ、こぎん刺し、機織りなど。久しぶりに地機を織ってもらいました。まだたくさん残っているので、せっせと織って次の糸をかける準備をしたいと思います。

#### 【活動予定】

■織姫の会 5月14日(土)、25日(水)、6月11日(土)、23日(木)

(辻川智代)



### ④大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)4名】

グループ代表アドレス:ganseki@lbm.go.jp

グループ担当者:里口保文

#### 【活動報告】

■野外調査 5月12(木) 11:00-16:00 参加者4名

場所:大津市・吾妻川源流域と鶴の里・西の谷

大津駅に集合し、吾妻川の源流域の①砂防ダムサイトの走行、傾斜などの調査、②層理の見えにくい岩の確認、周辺の岩の調査、③石英脈の見える断層の調査をした。さらに、尾根に登り鉄塔下で休息し、琵琶湖と滋賀の山並の大展望を堪能した。引き続き、鶴の里・西の谷を下り、チャートの巨石と谷を横断するクラックないし断層の調査をした。

今回の調査の目的は、断層に関しては走行と傾斜の測定を行うことで、また、岩石の特定でもある。各断層またはクラックの走行、傾斜は測定できた。しかし、岩石の特定はできない物もあった。鶴の里・西の谷の滝を横断するクラックまたは断層と思われる物の判別はできなかった。なお、走行方向は吾妻川の断層とはほぼ同じであることを確認した。

今回の調査においては記録の充実を図るべく努力した。調査を行う上で顧問の中野特別研究員に全面的にお世話になった。今後、レベルアップを進めたい。

#### 【活動予定】

6月5日(日)に、大津・相模川の破碎帯の調査と破碎帯に隣接した岩石の調査を行う。7月は未定。



### ⑤温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ)26名】

グループ代表アドレス:onkosyasin@lbm.go.jp

グループ担当職員:金尾滋史

#### 【活動報告】

■4月9日(土) 9:30~15:00 おでかけ撮影会 ~高島の湖岸編~

高島市高島町、安曇川町、新旭町 参加者13名

琵琶湖の風景をテーマに、高島市の白鬚神社や湖岸の春の風景を撮影しに行きました。

湖岸に咲く桜や一面に広がるノウルシの群落も見事で、それぞれがおすすめの琵琶湖の風景を撮影することができました。



■5月14日(日) 9:00~15:00 おでかけ撮影会 ~沖島編~

近江八幡市、沖島 参加者13名

温故写新の活動として初めて沖島に出かけました。沖島の湖岸の風景、街並みの他、かつて博物館で展示をした「私とあなたの琵琶湖アルバム」で撮影された写真と同じ場所であれからさらに20年後の写真をとることができました。最後は大急ぎで島の端にある巖島神社にも行き、沖島の風景をたっぷり撮影できました。

### 【活動予定】

■6月はリニューアル直前のため、活動はお休みです。

■7月14日(木) 9:10~

博物館リニューアルオープンに合わせて、オープニングセレモニーやその後の館内の様子を記録写真として撮影します。平日ですが、参加できる方はよろしくお願ひします。

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行います。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



## ⑥くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

### 【活動報告】

3月末に多羅尾町にお住まいの下畑さんご夫妻にお話を伺いました。下畑さんご夫妻は、共に多羅尾大水害を経験されています。高台にあった下畑さん宅は無事でしたが、自宅近くまで大水が押し寄せ来てとても怖かったそうです。ご主人は、役場の手伝いに、奥様は救援物資の仕分けに、それぞれ奔走されたそうです。水害から、60年余りが過ぎましたが、水害を経験した皆さんは、今でも大雨が降った日には、当時を思い出して怖くなるそうです。また、最近の災害のニュースを見ると、被災された方の気持ちを考え、とても辛い気持ちになるそうです。老人会の聞き取りでは、当時を思い出し、涙を流しながら話をしてくださった方もおられました。



### 【活動予定】

8月の水害の展示に向けて、6月、7月は準備期間として、活動したいと思います。(中尾 京子)

引き続き、信楽町多羅尾などで地域の方からのお話を伺い、まとめていく予定です。活動にご関心がある方は、メール・電話などでお気軽にご連絡ください。(大久保実香)



## ⑦古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ代表アドレス: hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 高橋啓一

### 【活動報告】

■第2回植物化石観察勉強会(琵琶湖博物館) 参加者5名 実施日3月21日  
(同定作業は避けて通れない道)

2回目の多賀町四手で発掘された植物化石の観察と勉強会を行いました。今回は標本No.101~250を観察しました。さて、皆さんは「同定」という言葉を御存知でしょうか?

「生物の分類学上の所属・名称を明らかにすること」で、化石でいえば名前を探し当てることです。完全なものは少なく、炭化し断片化した植物化石を顕微鏡などで細かな特徴を調べ、図鑑と照らし合わせ同定していきますが非常に難しい作業です。私達の仲間と日々博物館へ通い同定勉強をされている熱心な人もおられます。化石を同定し何の植物かを探し出して初めて標本となり得るのです。同定は植物化石に限らず全ての化石にも行います。どの時代にどの様な生物が存在していたの

かを見極めることができ、その時代の環境や気候を知ることができます。

発掘された化石は千点以上あります。同定作業は気の遠くなる時間が必要となります。少しでも同定作業に関れるよう古琵琶湖発掘隊員も多くの化石を観察し、同定スキルの向上を目的に今後も勉強会を重ねていきます。一步一步の前進あるのみです。



絵は苦手？と謙虚しながらも上手く描いて説明する山川先生



顕微鏡を覗いて特徴を調べ、図鑑を念入りに調べて同定します

■第四次古代象発掘に参加 多賀町四手 参加者 20名 実施日 4月23日～5月1日  
(ワニの歯を発見！)

多賀町四手での古代象発掘に参加しました。四手での発掘も4年目を迎えました。発掘も今回で一応のまとめとなり最終となりそうです。今回は最も期待できるF層に向けひたすら掘り続けました。ツルハシで大割した泥の塊を千枚通しやドライパー等で小割りして、化石を探します。発見された化石は位置、深さ等を計測し記録していきます。発掘には体力、根気が必要ですが皆さん約180万年前の遠い昔に想いを馳せ、ひたすら発掘に専念されていました。休憩時間では見知らぬ同士も多い中、色んな話題や体験談が出て大笑いの連続でした。現場は工業団地の一角にありますが緑豊かで小鳥のさえずりが聞こえ静かな環境の中にあります。お弁当を食べていると、まるでハイキングに来たようです。今回の一番の話題は「ワニの歯」の発見でした。小指の先より小さな円錐形のものでした。やっぱりワニがこの沼付近に住んでいたことが証明されました。朝一番ツルハシを奮っている時偶然発見されました。その他若いシカと思われる骨も発見されました。目標の古代象は残念ながら発見されませんでしたが多量の化石が発掘され蒲生沼沢地群といわれる時代の古環境、古気候などが詳しく解明されていくのではないのでしょうか。発掘に併せ地層の調査も行われました。地層の堆積環境を調べる作業は地味なように見えますが大変重要なことです。更に足跡化石の調査も行われサイらしき足跡が出てきました。今後の調査結果に期待しています。この様に発掘作業とは化石を見つけることだけでなく色んな調査を伴います。多賀四手の約180万年前の様子が「ぼんやりから、少しはっきり」と見えてきた今回の発掘でした。「はしかけ」活動ならではの貴重な体験をさせて頂きました。目標のF層は完全発掘に至っていません。今後の予備調査を期待しています。古琵琶湖発掘探検隊でも発掘記録をまとめたかと思っています。皆さんは大昔、多賀大社近くにワニやゾウ、サイ(調査中)がいたなんて想像できますか？

#### 【今回の主な発掘化石】

植物⇒ブナの総包、ハンノキ果実、メタセコイア球果、エゴノキ内果皮、ヒシノミ等

貝 ⇒イシガイ属、ドブガイ、カラスガイ、オオタニシ等

昆虫⇒ネクイハムシの仲間等

脊椎動物⇒ワニの歯、シカの骨、フナ、コイ、クセノキプリス亜科の咽頭歯、魚の鱗等

その他⇒琥珀、不明のもの

足跡化石⇒シカ、サイ(確認中)



地層の傾きによりかなり傾斜している中での発掘作業は大変



発掘されたシカの肋骨と思われる化石

【活動予定】

- 5月 服部川(三重県)での化石観察会
- 6月 「地層のできる環境について」の勉強会(琵琶湖博物館)



⑧湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

活動記録はなし。今後の活動は、リニューアル後の入館者の様子を見ながら、夏休み中の平日などに活動ができたかと考えています。

【活動予定】

未定



⑨ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@lbm.go.jp

グループ担当者: 澤邊久美子, 鈴木隆仁, 森智美, 片淵綾香

4月、5月は集まった活動はありませんでしたが、メーリングリストでイベントの企画の相談などを行いました。6月から本格的に動き出す予定です。お家のホタルブクロが咲きました。ヒメボタルは飛び始めているようです。担当者には、新しい学芸員が加わりました!



ホタルブクロは、ぴったりホタルの季節に咲くんだなあ。

【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ 総会	6月12日(日)13:00 —	総会+紙ヘリコプター練習	1年の予定を相談します。19日のイベントの準備と練習をします。
はしかけ イベント	6月19日(日)13:00 —/14:00—(予定)	はしかけイベント「飛ぶタネと紙ヘリコプター作り」	飛ぶタネを観察して、紙ヘリコプターを作ります。

～メンバーからのメッセージ～Vol.24 (新しいディスカバ副担当学芸員です)

5月に古琵琶湖の足跡化石群が田上のトパーズ、湖東流紋岩といっしょに「県の石」として選ばれました。7月にある「足跡化石をみてみよう!」が、実にタイムリーなイベントとなっています。今年は展示係ということで、来館者の方と触れ合う機会が増えるので、来館者の方との交流も頑張っていきたいところです。また、ディスカバリールームで活動する機会も増えるので、なかなかタイミングに恵まれなかったザリガニの中に入るという野望を実現したいところです。(鈴木)

【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ディスカバイベント (補助)	7月3日(日) 11:00—/14:00—	足跡化石をみてみよう!	足跡化石ができるまでをスタンプを使って学びます。最後は足跡バックをつくります。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう!



## ⑩里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 38名】

グループ代表アドレス:satoyama@lbm.go.jp(登録会員数 38名)

グループ担当者:安福俊幸

### 【活動報告】

■4月10日(日) 里山体験教室(春)下見 参加者 15名

■4月17日(日) 里山体験教室(春)本番 参加者 4名

雨天のため、一般参加者の活動は中止になりましたが、里山の会会員による、はしかげの森での「雨の中の里山の楽しみ方」として、①雨の中での焚火のおこし方実践、②ブルーシートを使った簡易タープの作り方、③クヌギ苗の植栽などの活動を行いました。(吉井)



■5月15日(日) 春の大篠原里山遊び 参加者19名

はしかげの森に集まり、子ども達が主役の「春の里山遊び」です。

まず、はしかげの森で聞こえる鳥のために巣箱を作りました。初めて釘を打つ子どもには少し難しかったかもしれませんが、大人の協力を得ながら頑張って作りました。出来上がった巣箱に名前、絵を描いてオリジナル巣箱の完成です。完成した巣箱は大人が木に取り付けました。鳥が入ってくれるのを願っています。

昼食時には野草の天ぷらを味わいました。午後は基地づくりやヨモギ餅を作って一日楽しく過ごしました。(安福)



### 【活動予定】

■6月6日(月) 潮干狩り(三重県 御殿場浜)

■7月10日(日) 里山体験教室(夏)下見

■7月17日(日) 里山体験教室(夏)本番

■8月27日(土) 夏の里山祭り、ソバ種蒔き



## ⑪植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス:shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当者:芦谷美奈子

植物観察の会は、メンバーを限定せず、はしかげさんなら誰でも参加できる観察会を開催しています。2004年の企画展「植物がうごくとき～のびる・ひろく・ひろがる」の時に、多くのはしかげさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

カジュアルな観察会を長年にわたり開催してまいりましたが、2016年3月末で講師の布谷さんが三重県総合博物館の館長を退職されることになり、琵琶湖博物館の展示リニューアルその他の予定が落ち着くまで、観察会をお休みします。

2016年10月以降は、年度内に1、2回の観察会を開催する予定です。お休みの期間も、臨時で番外観察会や勉強会など何かする可能性もあります。その際は、ニューズレターでお知らせいたします。

## 【活動報告】

活動は特にありませんでした。

## 【活動予定】

観察会の再開は、2016年10月ごろからの予定です。1年間（3月は中止でしたが）続いた瀬田公園は、一旦終わりにして、次回は以前のように県内の他の場所で観察会を開催したいと考えています。行きたい場所などありましたら、担当のアドレスまでリクエストをいただけたら有難いです。（芦谷）



## ⑫たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

## 【活動報告】

たんさいぼうの会第49回総会を、近江富士花緑公園で4月10日(日)10:00~12:00に開催しました。参加者は9名でした。今回の総会から、「ミニ・セミナー」を開催することになりました。これは毎回1~2名の会員の研究計画や途中経過を聞き、意見を述べあうものです。第1回の発表者は富さんでした。

総会の後は、恒例のお花見バーベキュー。午後から参加の2名を加えて盛り上がりました。

日本珪藻学会第37回大会(5月14日(土)・15日(日)、神戸大学)で、たんさいぼうの会からは3名が研究発表を行いました。ただし、発表時の所属は全て他名義です。

◇芝崎美世子・松原典孝・小滝篤夫・石田志朗・大塚泰介: 丹後半島の黒部貝層に見られる微小貝と珪藻群集

◇富小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・石川俊之: 水田珪藻群集と環境条件との対応

◇根来健・大塚泰介: 浄水処理障害生物 *Synedra acus* の再検討

三村さんを主著者とする、山門湿原の珪藻植生に関する論文の査読結果が返ってきました。かなりの好感触です。次号のニューズレターでは朗報をお伝えできそうです。他にも会員が分担して、愛知県や岡山県の湧水湿地の珪藻の顕微鏡観察を進めています。

## 【活動予定】

6月7月は、会としてのまとまった活動の計画はありません。各自が顕微鏡写真撮影などを進めていきます。

次の総会は8月下旬を予定しており、日程調整中です。

9月下旬に、大阪の信太山湿原へ、調査旅行「たんさいぼうの小さな旅」に出かける予定です。

顕微鏡使用が混み合っていますので、ご使用を希望の方はメーリングリスト付属のカレンダーに記入するか、keisou@lbm.go.jpまでメールでご一報ください。



## ⑬タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbm.go.jp

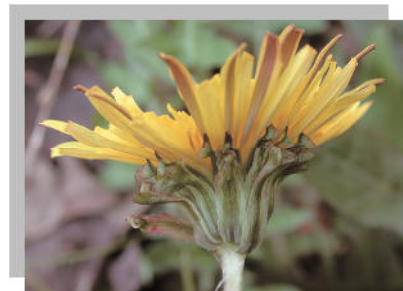
グループ担当者: 芦谷美奈子

**<タンポポ調査はしかけ、これからも活動します！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>**

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」という西日本19府県（福井、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀）が参加するタンポポ調査に協力する目的で活動を始めたグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続していくつもりです。

2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つつこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。



タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。  
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

## <2015年の調査が終わり、報告チラシ、報告書ができあがりました！>

2015年度の調査は、5月末で終了しました。多くの方々にご協力いただき、滋賀県でも2年間で3,180の有効データを得ることができました。19府県の有効データの総数は、68,890件でした。タンポポ調査はしかけに登録している方に限らず、報告書入手の希望があれば、上記のアドレスまで連絡をください。全体の事務局に問い合わせる必要なく、琵琶湖博物館でお渡しできます（余部があります）。また、チラシも多めに注文しましたので、どこかで配布したいなどありましたら、遠慮なくお申し出ください。

## <引き続きメンバー募集中！>

西日本の広域調査は終了しましたが、グループの活動は継続予定です。

次回の調査（2019年予備調査、2020年本調査）がどうなるか、現時点では決まってないようですが、広域調査を通じて、種類の見わけ方や雑種問題、分布域の違いなど、多くの課題が見えて来ています。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

## 【活動報告】

個別に調査をしているメンバーはありますが、グループとしての活動はありませんでした。

## 【活動予定】

7月に琵琶湖博物館の展示リニューアルの第1期が公開になります。その後、一度「タンポポ勉強会」を開きたいと考えています。個別に調査をされた方の結果の発表などはもちろん、「タンポポ調査・西日本2015」のまとめとして、県外から講師を招いての講演なども行ないたいと思います。本来、調査が終了してすぐに報告会などをすべきでしたが、担当者の都合で遅れての開催となります。その分、滋賀県で今後タンポポを調べるには、どのようにしていったらいいか、どういった視点で調査や研究に取り組むべきかを、メンバー以外の参加者にも加わっていただき、議論できればと思います。正式な発表まで、しばらくお待ちください。



## ⑭田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: M. J. グライガー, 鈴木隆仁

2001年のグループ設立以来ずっと、私達を引っ張ってくださった楠岡泰学芸員さんが、この3月で博物館を定年退職されました。楠岡さんは動物、植物の両方に詳しく、調査で同じグループになるといろいろ教えてもらえるので、楽しみでした。4月からははしかけ会員として活動に参加して下さるとのことで、とても嬉しいです。また、楠岡さんの後任として来られた鈴木隆仁学芸員さん（ご専門は微小生物）が、グライガーさんと一緒に「田んぼのはしかけ」を担当して下さることになりました。どうぞよろしく申し上げます。

今年もエビ類（大型鯉脚類）の季節がやってきました。グライガーさんと楠岡さんは5月14日に大津市北大路近辺を調査され、ハウネンエビとヒメカイエビを見つけたそうです。吉本さんも、大津市田上でヒメカイエビと思われるものを採取されたとか…。

5月末からは合同分布調査が始まります。立て続けに調査が予定されていますので、皆様のご都合に合わせて参加日を選んでください。自宅近くで調べるなどの個人調査は自由に、また目的に応じて行なってみてください。私は今年こそ滋賀県の最北端を調べたいと思っています。

## 【活動報告】

### ■4月24日(日) エビ類講習会と、調査の準備会 13:30~17:00 参加者9名

新会員を対象に、エビ類の見つけ方・見分け方の講習会を開きました。2名の方が参加されました。初めに博物館実習室で、滋賀県に生息するエビ類7種について、それぞれの形態や動きの特徴、そして分布状況をグライガーさんに教えてもらいました。その後、草津市芦浦町の水田に行き、田面の窪みにできた小さな水溜りを覗きこんでエビ類を探しました。そこは以前、4月の水入れ前でも水溜りにカブトエビが見られた場所だったので、この日は残念ながらエビ類を1匹も見つけられませんでした。時期が早すぎたようです。最後に調査記録の書き方（調査票の記入）を練習して、講習を終わりました。数ミリの生きものを見つけるのは、慣れないうちは難しいと思いますが、大丈夫！一度見つけると、その後は自然に目に入ってくるようになりますよ。

一方、ベテラン会員はエビ類の説明を横目で見ながら、今年度の調査で使う用具の準備を行いました。採集ビンにアルコ

ールを入れて、ビンの側面と蓋に番号をつける作業を300本ほど。なかなか根気の要る作業ですが、皆さんのお蔭で早く終わりました。ありがとうございました。

■5月28日(土) 信楽地域分布調査 昨年の調査で調べきれなかった場所と、これまでの調査地の追跡調査

■5月29日(日) 高島市安曇川左岸域の分布調査 安曇川を挟んで、エビ類の分布に違いがあるかを確かめる

■5月29日(日) 大津市街地周辺の分布調査 宅地化されずに残っている水田のエビ類生息は？

上記の3つの調査はこのニューズレター原稿の提出よりも後に実施されるため、次号で活動報告をいたします。

#### 【活動予定】

■6月5日(日) 守山地域分布調査

琵琶湖大橋の東は広い水田域があるのに、私たちの調査の空白地になっています。ひょっとすると、調査をしてもエビ類が見つからなかったために報告されていないのかもしれませんが。合同調査地として取り上げて、分布を明らかにしたいと思います。

集合時刻 … 9時30分

場所 … JR守山駅東口ロータリー

■6月12日(日) 瀬田地域分布調査

滋賀県でカブトエビといえばアメリカカブトエビを指すほどですが、瀬田の水田ではアジアカブトエビが小さなまとまりをもって生息しています。両種が混在する水田もあり、共存するのがあるいは競合するのかが注目されます。2011年から毎年分布調査を実施しており、今年も全筆を調べる予定です。

集合時刻 … 9時00分

場所 … アルプラザ瀬田店 立体駐車場4F 琵琶湖側

《上記の2回の調査ともに》

・持ち物：筆記用具、採集網 など、飲み物必携、タオル等、(雨具)

※昼食は当日の調査グループで決めていただきます

・服装：長袖・長ズボン、帽子

・日程：グループに分かれて車に分乗し、調査地を回りながらエビ類を観察します。

調査終了は15時30分頃を予定

(前田雅子)



### ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: [bck@lbm.go.jp](mailto:bck@lbm.go.jp)

グループ担当者: 大塚泰介

#### 【活動報告】

■4月17日(日) 第3回活動 (参加者5名)

琵琶湖博物館で第3回目の活動を行いました。午前中は参加者1人+担当学芸員の大塚さんのみで鳥丸半島湖岸のヨコエビやその他の生き物を採集しました。午後は+4名の参加があり顕微鏡で採集した生き物の観察を行いました。前回観察できた大きなナリタヨコエビは産卵後死滅したのか全く採集されず代わりに小さめのナリタヨコエビが多数採集されました。フロリダミズヨコエビも採集されましたが今回はなぜか少なめでした。活動の後には大塚さんが持ってきてくださったホタルイカに舌鼓を打ちました。

■5月21日(土) 第4回活動 (参加者2名)

5月の活動は鳥丸半島を少し離れ、旧草津川河口で採集を行いました。今回は主に琵琶湖固有種のヨコエビ「ビワカマカ」を狙って採集しました。今回採集したサンプルでは岸辺近くではフロリダミズヨコエビが多く少し沖側に行くとナリタヨコエビやビワカマカが多く採集されました。他にもプラナリアや大型のミジンコのノロ、ミズミズズの環帯などいろんなものが観察できました。



ビワカマカのオス

### 【活動予定】

次の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。参加希望の方は上記のグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



## ⑩びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 35名】

グループ代表アドレス: biwatan@lbm.go.jp

グループ担当者: 岡部陽造

上半期のわくわく探検隊はお休みのため、4、5月は「びわたん会議」と称してメンバーのみで集まる機会を持つことができました。新たなメンバーを迎えたり、9月から再スタートする「わくわく探検隊」の内容を相談したり、新たなプログラムを試行錯誤したりと、いつもとは違う有意義な時間を過ごすことができました。

### 【活動報告】

#### ■4月9日(土) びわたん会議 ① 20名 (新メンバー7名を含む)

4月はびわたん会議と題して集合！先日の「はしかけ登録講座」で、びわたんに興味を持ってくださった方々と対面しました。簡単に自己紹介をした後、恒例のしおり作りをしました。

まずはしおりにする植物の採集です。はさみとトレイを持って屋外展示へみんなでお出かけしました。天気も良く、大人も子どもも時間を忘れてキョロキョロ。下ばかりでなく、上を見上げてみじの花に注目したりもしました。田んぼの周りにはたくさんの春があり、ムラサキサギゴケなど名前のわかる植物を囲んで自然と話も弾みました。



トレイもいっぱいになってきたところで実習室に戻ってよいよしおり作りです。草花を台紙にレイアウトし、電子レンジで水分を飛ばしてから、ラミネーターで仕上げます。レンジでうまく乾燥ができず、水分が染み出して綺麗にできないこともありましたが、何度かチャレンジして納得のいく作品がたくさん出来上がっていました。新メンバーのちびっこも真剣！しっかりこだわって作品作りに取り組んでいました(^ ^)

話をするだけでなく実際に一緒にやってみることで、よりびわたんについて知ってもらえたと思います。下半期の活動を想像して、みんなでわくわくすることもできてよかったです。これからもっともっと楽しんでいきましょう♪

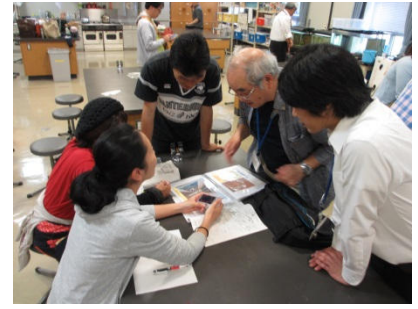
びわたん (のりりん♪)



## ■5月9日(土) びわたん会議② 15名

5月は、またまたびわたん会議！内容も盛りだくさんで行いました。

まずは、リニューアル後の10月に実施予定の<お魚モバイルづくり>の相談です。バイカル湖のお魚ってどんな？というメンバーからの疑問に答え、ギャラリー展などで使われた映像をみんなで確認しました。昨年は平面で作っていたけど立体的にできないかなあという声をもとに、新メンバーしゅうさんから近美のお魚モバイルのノウハウをお聞きしました。いろいろ検討したものの、作ってみるに限るということで6月のびわたん会議で試作することとなりました。



次に、澤邊学芸員から12月に予定されているカヤネズミの全国サミット（会場：琵琶湖博物館）でワークショップができないかという相談がありました。カヤネズミの成長の様子やどんな場所に生息しているのかなどのお話を聞いた後、羊毛フェルトでつくるカヤネズミのストラップづくりに挑戦しました。小さな子でも手軽にできるように、大きさや作り方だけでなく安全面への配慮についてもアイデアを出し合いました。専用の針を使って、ひたすらチクチク！誰もが無言で作業に没頭する時間もありました。できあがった作品はこちら！  
びわたん（おかちゃん）

### 【活動予定】

#### ■6月11日(土) びわたん会議③

「お魚モバイルの試作」

※ペットボトル容器持参！

#### ■9月10日(土) わくたん再開イベント

「マイクロアクアリウムを楽しもう」



ほねほねくらぶ

## ⑰ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス:hone-hone@lbm.go.jp

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当者:高橋啓一

### 【活動報告】

#### ■3月20日(日) 参加者3名

カモの除肉、イタチの解剖、標本の整理、を行いました。

#### ■4月10日(日) 参加者5名

高橋学芸員による解剖講義の第2回目。

今回は頭部(アナグマ)の解剖を進めながらの講義となりました。脳からの神経の出方、神経や筋肉の由来、進化の過程で辿ってきた道筋など、興味深いお話をお聞きできました。今回お聞きした知識もそうなのですが、普段の活動を通して得た知識や経験というもの体系的に理解するといった事や全体像を想像するという事がなかなか出来ていないのだと改めて感じられました。そういう事が出来るようになると、その知識や経験などを他の人に伝えるという事や、自分なりの意見や面白さといったものの発見につなげる事が出来き、この活動を通してやれることが増えるのではないかと感じました。

#### ■4月30日(土) 参加者4名

高橋学芸員による解剖講義の第3回目。

今回は前足(アナグマ)の解剖を進めながらの講義でした。前腕の付け根は太い血管や神経が通る所なので、その様子を明らかに出来るように解剖を進めていきながら、その過程でいろいろなお話を伺いました。解剖を進めながら解説していただいていると様々な疑問、質問が出てきます。その質問には現時点での自分の理解や興味の方角のようなものが反映されている様に思います。また、他の方のされる質問が自分が思い浮かばない様な質問である事も多く、



そこから興味深いお話に広がっていったりするのですが、この様な形式での活動はとてありがたく、おもしろい活動になったと思います。

■5月7日(土) 参加者4名

高橋学議員による解剖講義の第4回目。

今回は前回までの講義を受けての補足講義となりました。高橋担当学芸員に解説していただきながら、博物館収蔵の様々な動物達の頭部の骨の形を見ていきました。頭骨には大小様々な形や大きさの穴が開いています、今回はその穴一つ一つが何の為の穴なのかという事をじっくりと確認して行き、そこから他の動物ではどう違うのかという所を見比べて行きました。頭の骨にはその動物の特徴がよく現れており、その動物がどのような生き方をしているのかという事が読みとれ、大変に興味深い活動になりました。

■5月8日(日)

はしかけ登録講座で活動紹介を行いました

【活動予定】

6月、7月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。動物、や骨に興味がある方なら参加・見学大歓迎です。活動見学等をご希望される方は、グループ代表メールまでご連絡をお願いします。



⑩緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 52名】

グループ代表アドレス: midori-k@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

【活動報告】

■4月23日(土) 10:00~12:00 新年度総会(参加者15名)

・今年度の活動計画と担当決め

午前総会⇒2016年度みどりのくすり箱年間計画の日にち内容確認。琵琶湖博物館研究棟交流室にて。

先月作成した今年度の計画を再度検討し、未定だったイベントの時期と担当を決定しました。

また、新メンバー1名が加入されたので、自己紹介を行いました。

メンバーへの連絡は、メーリングリストを採用することになりました。

<計画概要>

日時	活動内容	活動場所	担当者
4月23日	新年度 総会 赤シソの種まき	研究棟2階交流室 生活実験工房前	吉野ま・大久保 柳原・愛須
5月21日	ヨモギ採取・もち・パン作り	実習室2	吉野千・吉野ま
5月28日	ドクダミの採取・チンキ作り	生活実験工房	深田・堀田
6月26日	ドクダミ化粧水作り		深田・堀田
8月	赤シソジュース作り		堀田
9月	水族展示見学		熊谷
10月	カリン採取 カリンチンキ作り		草加 山本・柳原
11月	チンキの活用 化粧水・クリーム作り びわ博フェスタ 準備 (案:健康茶カフェ)		深田・岩本 全員
12月	薬草ピザパーティ		田井中・久保
1月	廃油石鹸・七草粥作り		堀田・山本
1~2月	ヨモギからもぐさ作り ヨモギのバスソルト作り		草加・吉野千 吉野ま
3月	総会 活動の振り返り・会計報告		吉野ま・大久保
その他の案や訂正事項			
・ 藍染体験 担当:加藤 →実施時期を検討中			

■4月23日(土) 13:00~15:00 赤シソの種まきと5/21の活動の為のヨモギ採取(参加者15名)

午後より紫蘇の種まき、工房にて。昨年植えていたカモミールから種が落ち、かわいい新芽が出ていたのでみなさまに持ち帰ってもらうために竹の植木鉢を用意移植した。工房横の腐葉土をいただき三つのプランターの土起こし、ふわふわの土にしたところで紫蘇の種をまきました。

芽がでるのが楽しみ!

後日紫蘇ジュースになる予定だ♪

そのあと五月のヨモギパンの材料調達、博物館のまわりを植物観察しながらヨモギ摘み。

各自持ち帰り洗う⇒茹でる⇒こまかくきる⇒冷凍する。一連の仕事をして五月に持ってくる。

暖かい日差しの中かきまのよい一日でした。

★紫蘇のこと。

古谷暢基・和ハーブ協会編著(2012)「和ハーブにほんのわすれもの」より。

《しその名前の由来は、927年に編纂された「延喜式」に記述があり、古来より食されてきた。

江戸時代の「大和本草」では“葉の表裏とも紫色で、香気があるもの”を佳品とし、“採取は梅雨の前後にすみやかに葉を摘み取ること”と記述されている。

葉の精油は一般的には出穂期までが含量が多いので、7~8月の開花期前に枝葉を摘み取るが、葉だけを乾燥させて冷暗所に保存しておく。9月ころに、枝葉に淡紫色の花を穂状に多数つけ、これは“穂じそ”として活用される。》



赤シソの種まき



ヨモギ摘み

■5月21日(土) 10:00~12:00 ヨモギのイベント①~もぐさ用のヨモギ採取(参加者8名)

ヨモギのイベント、午前中の部は、まずヨモギの基礎知識について、資料を見ながら学習しました。ヨモギにはいろんな栄養素の他、体により精油成分などが含まれることを知りました。あと、ヨモギと間違えやすいブタクサについても学習しました。ヨモギを採取する際は、しっかりヨモギの香りと葉の裏が白いことを確認して採取するように注意が必要です。



左はブタクサで右がヨモギ  
形が良く似ているため、  
間違えやすい。



道端のヨモギは犬や車で汚れている可能性があるため、取らない。  
天気の良い日に採集する。

今年度、緑のくすり箱は、ヨモギからもぐさ(お灸の材料)を作ることにチャレンジしますので、もぐさ用のヨモギを琵琶湖博物館の周りで採取しました。お餅やパンなどに使うヨモギは新芽のやわらかい葉を採取し、もぐさ用のヨモギは、効率がいい様に成長した背の高いヨモギを採取するそうです。



ヨモギはきれいに洗って、天日で干すと、4〜7日ぐ  
らいでカラカラになる。  
乾燥剤などを入れた紙袋で保存する。

左記の様に保存したヨモギを、冬の寒い時期にもぐさに加工するとのことで、今日取った  
ヨモギから、「どれだけのもぐさが出来るのかなあ、」とメンバーは楽しみにしていました。

■5月21日(土) 13:00~16:00 ヨモギのイベント② ~ヨモギ餅とヨモギベーグル作り  
(参加者14名 子供2人を含む)

4/23に採取したヨモギは、各自、茹でて刻んで冷凍してもらっており、それを当日持ち寄り、ヨモギ餅とヨモギベーグル  
を作りました。ヨモギ餅は、もち米と水をホームベーカリーにセットして、途中でヨモギを入れていきます。市販のあんこ  
の他、メンバーが作成した大豆から作ったあんこを入れました。大豆あんは、とても優しい味わいで、美味しかったです。

つきたてのお餅はやわらかく、丸めるのに苦労しましたが、出来あがりはとても美味しく、ヨモギの香りがいっぱい詰ま  
ったお餅は最高で、メンバー全員、とても満足のいく出来栄でした。

ヨモギベーグルは、手ごねで生地を作りました。「おいしくなあれ、おいしくなあれ」と声を掛け合い、頑張っ  
てこねました。子供さんも参加されたので、お母さんと一緒に成形をしてもらい、楽しく作ることが出来ました。琵琶湖博物館のオー  
ブンは、ガスオーブンなので、中はふんわりと、外はパリっとしたベーグルを焼くことが出来ました。皆、手軽に作れるの  
でお家でも作ってみたいとのことでした。

その他にも、茹でたヨモギにお湯を注いで出した「ヨモギ茶」や、強力粉、塩、水、ヨモギで作ったお団子を入れた「ヨ  
モギ団子スープ」を作り、まるで「ヨモギレストラン」のようでした。思っていた以上にヨモギを活用出来ることを知り、  
また先人が伝えて来た思いがわかるような気がしました。メンバー間で楽しく交流出来、充実した時間を過ごすことが出来  
ました。



ヨモギ餅



ヨモギベーグル



ヨモギ団子スープ



ヨモギ茶

【活動予定】

- 5月29日(日) 10:00~12:00 生活実験工房 ドクダミチンキ作り
- 6月26日(日) 10:00~12:00 生活実験工房 ドクダミ化粧水作り

【活動報告】

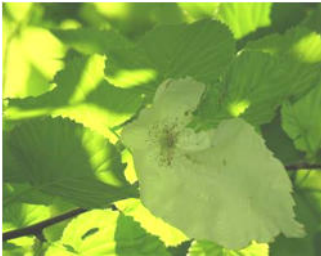
■森人打ち合わせ

4月5日(火) 13:30~15:00 場所: 交流室 参加者: (学芸員) 林、草加 (会員) 3名  
 森人の活動内容と2016年4~6月の日程の調整を行った。「太古の森、縄文・弥生の森の保全と観察をもとに森人同志および来館者との交流を図る。」ことを目的とし以下の活動を行うこととした。

- \* 森の植物調査 \* 森の樹木説明板や番号札などのメンテナンス \* 森のガイドツアーの開催
- \* 各種勉強会、観察会の開催 \* びわたんなどと行事の共催 \* 外部の植物園などの観察会の開催
- \* 博物館のホームページに森の見どころなどを発信 など

■森の観察会と活動計画説明会

5月1日(日) 13:30~16時 場所: 実習室1 参加者: (学芸員) 林、草加 (会員) 9名  
 活動計画の説明と調整の後、新緑で包まれた屋外に出て約2時間ハンカチノキの花などを草加学芸員の説明を受けながら観察した。



ハンカチノキの花



メタセコイアの球果



フウの果実



タケウチトゲアワフキ  
(シナノキにいた)



オニグルミの雌花



シイの花



ムベの雄花

◎森人の説明とガイドツアー

5月8日(日) 参加者: (学芸員) 林、草加 (会員) 7名  
 はしかけ登録講座の参加者(5名)に屋外展示の森を案内した。林、草加両学芸員に補足をしてもらいながらそれぞれの会員の好きな木1~2種類を説明した。

【活動予定】

6月5日(日) 大阪市立大学附属植物園見学(大阪府交野市)

◎集合: 京都駅 JR 奈良線ホーム (⑩番線) 9:30

車の場合は植物園に11時

◎植物園見学: 11~15時(昼食休憩時間含む)。解散は植物園 15時頃。(京都駅 16:34着)

6月18日(土) 森の観察会&樹木説明版と番号札メンテナンス

◎集合: 13:30、実習室1

2016年7月以降、定例の活動は原則として第2および第4土曜日の月2回、13:30~16:00に行い、この他に博物館の行事日などに合わせ臨時に活動する。

★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか★  
参加を希望される方は 森人（もりひと） [morihito@lbm.go.jp](mailto:morihito@lbm.go.jp) に連絡ください。  
(文責 福岡敏雄)



## 生活実験工房からのお知らせ

※生活実験工房の先日の田植え体験では、天候に恵まれ、多くも方の参加をいただき無事終えることができました。これからは昆虫や小さな生きものが育つ季節です。7月には昆虫採集のイベントがありますので、はしかけ、フィールドレポーターの皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員: 下松 孝秀

### 【活動予定】

開催時間 10:00~12:00 場所 : 全日程とも生活実験工房

7月24日(日) 昆虫採集  
9月11日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)  
10月2日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

※一般参加者の受付は、9:30からです。  
各自、長靴、着替え等をご用意ください。



## 3. その他の事項

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの [hashi-adm@lbm.go.jp](mailto:hashi-adm@lbm.go.jp) まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成28年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。

2016

# はしかけニューズレター

2016年度 第3号 通巻130号

2016年(平成28年)8月5日発行



8-9月

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 山本・大塚・下松・大久保)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@lbm.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: http://www.lbm.go.jp

## ～ 目次 ～

### 1. リニューアルを迎えて

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- ① うおの会 ② 淡海スケッチの会 ③ 近江はたおり探検隊
- ④ 大津の岩石調査隊 ⑤ 温故写新 ⑥ 暮らしをつづる会 ⑦ 古琵琶湖発掘調査隊 ⑧ 湖(こ)をつなぐ会
- ⑨ ザ! ディスカバはしかけ ⑩ 里山の会 ⑪ 植物観察の会 ⑫ たんさいぼうの会 ⑬ 田んぼの生き物調査グループ
- ⑭ タンポポ調査はしかけ ⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 ⑯ びわたん ⑰ ほねほねくらぶ ⑱ 緑のくすり箱
- ⑲ 森人 ⑳ 生活実験工房からのお知らせ

### 3. その他の事項

会員数・・・311人

グループ数 19 グループ

(2016年8月5日現在)

## 1. リニューアルを迎えて

琵琶湖博物館では、第一期リニューアルとしてC展示室と水族展示室が新しくなり、たくさんの方にご来館頂いております。特に、開館後はじめての週末は三連休だったこともあり、チケットを買うのに長い行列ができました。引き続き、夏休み期間中の土日祝日とお盆の期間中は、混雑が予想されます。駐車場が混雑したり、行列のために交流室、実習室などが使いにくいことがあるかもしれませんが、何か困ったことがあれば担当学芸員まで、ご相談下さい。一方で、この混雑により、久しく琵琶湖博物館に来ていただけなかった方々も、来館いただけていると思いますので、はしかけ活動へ誘うチャンスでもあると思います。新米担当の私もみなさんと一緒に活動しながら、はしかけ制度を発展させていければと思っています。相談ごとがあれば、直接または電子メール hashi-adm@lbm.go.jp などでお願ひいたします(山本充孝)。

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### ①うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 39名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbm.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

#### 【お知らせ】

うおの会への参加には、はしかけ会員更新とは別に、年度ごとに会員登録(更新)が必要です。更新手続きが未済の方、および新たに入会ご希望の方は、会員登録票(会HPからダウンロード可)に必要な事項を記入し、うおの会事務局(uonokai@lbm.go.jp)まで送信、または手渡しで提出してください。

#### 【活動報告】

■6月19日 10～13時 第119回定例調査 参加者22名 場所: 家棟川

朝方は雨が降っていたので、中止かなとメールをチェックしてみましたが、中止の連絡はありませんでした。小雨の中、カッパ着用で愛車スーパーカブ90で集合場所へ向かいました。出席と連絡したものの雨なので急遽欠席する方が多いかと思いきや、なんと小さな子供さんも含め、みんな来られていました。

午後から雨が強くなる予報でしたので、13時をめぐりに戻ってくることに、途中雨がきつくなれば各班の判断で調査を中止し戻ってくることに、安全第一、等を確認して、4班に分かれ、各調査地点に向かいました。途中、少しの間雨がやむこともありましたが、ほとんどずっと降っており、時折激しく降りました。その中、ずぶ濡れになりながらも、調査を続けるある会員の姿がありました。びしょ濡れで心配しましたが、ちゃんと着替えを持参されており、集合地点ではさっぱりとされていました。

今回の調査では、アユやハス、ニゴイが上がってきていました。ナマズらしき姿もあったのですが、確認できませんでした。

た。その他何種かのおなじみの在来種もみられました。ブルーギル、ジャンボタニシ、ウシガエル等の外来種も多くみられました。残念ながら今年度のテーマであるシマドジョウ類をサンプリングすることは出来ませんでした。参加されたみなさん、風邪など引かれませんでしたでしょうか。(報告 水戸基博)

■7月17日 第120回定例調査 参加者17名 場所:高時川

当日は雨予報で、9時頃には物凄い雨が降りましたが、集合時刻にはほぼ雨も上がり、多くの方が集まりにぎやかな話の輪ができていました。4班に分かれ、漁業権漁場との境界から、琵琶湖に流入する姉川まで、本流と周辺水路を調査しました。雨のため本流は水が多く、普段は水が流れていない部分の調査となってしまいました。生まれて間もない仔稚魚や、3cmほどのオイカワ等が中心で、時々カマツカ、シマドジョウ、ドンコの稚魚が採集されました。アユは時々跳ねている姿を目視できる程度で、姉川河口に近いヤナには無数のアユが居たことを考えると、かなりの魚がここで止められていたのかもしれない。上流側の流入河川や田んぼ周辺の細流では、カワムツ、アブラハヤ、タモロコ、フナ、ドジョウ、シマドジョウ類、ドンコなども見つかりました。水温の低い川からは、スナヤツメ、アブラハヤ等が報告されました。下流側の姉川近くの水路では、カネヒラ、モツゴ、ウキゴリ、メダカ、ドジョウも見つかりました。

今回の調査では三面コンクリートの水路が多く、水量が多く入ることができませんでした。総じて仔稚魚が多く、親魚はどこに隠れているのか、と思いました。暑く湿度の高い中、胴長を履いての調査は大変でしたが、個人的には良い運動となりました。(報告 村山晃彦)

【活動予定】

- 9月18日(日) 第121回定例調査 10:00~14:00 喜撰川
- 10月16日(日) 第122回定例調査 10:00~14:00 場所:安曇川周辺
- 8月には親睦会を計画中です。追ってご連絡いたします。



②淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原 徹・榎永一宏

【活動報告】

■6月26日(日) スケッチ会(野洲・銅鑿博物館周辺) 活動会員数 7名

銅鑿博物館の駐車場に集合し、梅雨キノコの観察の後、思い思いの場所にて昼食を挿みながらスケッチ。大賀蓮やシダに囲まれた池の睡蓮が見ごろを迎えており、ほかに敷地内の円墳(宮山二号墳)など、描く対象は目移りがするほど。

小川さん親子がキノコに詳しく、ナガエノチャワンタケ、ニガイグチモドキ、ニオイコベニタケなどおよそ10種類のキノコを見つけることが出来て、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

■7月24日(日) スケッチ会(草津・水生植物園) 活動会員数 3名

今年は烏丸半島の蓮が激減しており、スケッチは水生植物園にて行う。

白やピンクの蓮、睡蓮、パピルスなど水辺の植物はもちろんのこと、桔梗、半夏生なども見られた。

テラスに椅子が置かれていて、そこから青いやまなみを背景に湖岸の風景を描くことも出来て様々に楽しむことができた。

【活動予定】

■8月28日(日) 琵琶湖博物館周辺にてスケッチ

集合場所・博物館玄関内 10:00~15:00

- 初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください  
持ち物 画材、お弁当、飲み物。レストランも利用できます。





### ③近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス:oumihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員:渡部圭一

#### 【活動報告】

##### 織姫の会

###### ■5月25日(水)(参加者:3名)

各自の作業、糸紡ぎ、こぎん刺しなどの作業をしました。

###### ■6月11日(土)(参加者:6名)

手ぬぐい製作用の手紡ぎ糸に糊付けをしました。糊は小麦粉300gに水1700g、15%の濃度で火にかけ、約1時間煮て、粘度を出しました。糊付けのために手で触れる程度にさましたところ、固まってしまったので、少しお湯でのばして塗りました。外に干して完成です。

###### ■6月23日(木)(参加者:6名、教員研修参加者:14名)

教員研修として「綿に触れてみよう」をお手伝いしました。綿の栽培は教科書にも載っているようですが、その後の作業として綿繰り、綿打ち、糸紡ぎなどを体験していただきました。

また、前回糊付けした糸が固まりすぎてしまったので、お湯で洗い流して干しました。

###### ■7月16日(土)(参加者:7名)

機上げ作業の続き。前回糊付けした糸を糸枠に巻きました。糊付けの際に切れたり絡んだりしてしまって、なかなかほどけず、かなりの時間がかかりました。



手紡ぎ糸の糊付け

#### 【活動予定】

■織姫の会 7月27日(水)、9月3日(土)、28日(水)、10月12日(水)、29日(土)  
(8月はお休みです)

(辻川智代)



### ④大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)16名】

グループ代表アドレス:ganseki@lbm.go.jp

グループ担当者:里口保文

#### 【活動報告】

###### ■野外調査 6月12日(日) 11:30-16:00 参加者7名

大津市・相模川源流域の破碎帯断等の調査と茶臼山工事現場のネット越しの調査を行った。砂防ダムサイトに集合し、相模川の源流域の①幅約4mの破碎帯、②高度に屈曲した岩石、③不整合の角礫岩等の調査をした。さらに、茶臼山の南面の工事現場をネット越しに目視で調査した。

今回の調査の目的は破碎帯に関しては走行と傾斜と構成岩の特定で、予定通りできた。不整合も存在することが確認できた。一方、屈曲岩についてはさらに検討する必要がある。

茶臼山の工事現場には断層があることを確認できた。当初の予定ではもっと多くの調査を予定していたが降雨の予報もあり、今回は予定を縮小した。今後、これらの追加調査を進めたい。

###### ■勉強会 7月22日(金) 10:00-14:30 参加者9名

本年から本格的に勉強会を開始した。今回は、琵琶湖博物館実習室1にて、隊員2名が各々約1時間の、三上山と堅田断層に関する報告と討論を行った。その後、博物館のセミナーを聴講した。

隊員の報告は、分かりやすくかつ内容的に充実したものであった。いつも通り、質問も多数あり議論が進んだ。今後とも隊員や担当学芸員等に報告いただき、会の充実を図りたい。

###### ■琵琶湖博物館企画展示への参加

カルタ形式で発見等の報告をする企画展示に参加することにし、断層を主体にしたカルタの原稿作成を担当学芸員と進めた。

#### 【活動予定】

未定。

## 【活動報告】

■6月の活動はリニューアル直前ということでお休みでした。

■7月14日(木) 9:00～ リニューアル オープニングセレモニーでの記録 博物館 参加者3名

いよいよ博物館のC展示室と水族展示室がリニューアルオープンし、その当日行なわれたオープニングセレモニー、そしてその後の館内の賑わいを記録していきました。また、C展示室最初の「みんなで作るびわこアルバム」には、温故写新メンバーが撮影した写真がたくさん入っています!!ぜひご覧ください。

## 【活動予定】

■8月20日(土) 9:30～ 大橋コレクションの整理

映像資料として残されている大橋宇三郎さんの写真活用を目指して、整理作業を行ないます。

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行ないます。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



## ⑥くらしをつづる会

## 【活動報告】

新空間で行う展示「多羅尾大水害—水害から63年、語り継ぐ記憶—」に向けて、準備を行いました。

<「多羅尾大水害—水害から63年、語り継ぐ記憶—」について>

8月1日から8月27日まで、博物館の新空間にて「多羅尾大水害—水害から63年、語り継ぐ記憶—」を行います。平成26年から3年掛りになってしまいましたが、みなさんに協力をして頂いて、なんとか見ていただけるようになりました。

きっかけは甲賀市社会福祉協議会の大谷さんに、「多羅尾に行かれましたら、面白い話が聞けるんじゃないかなあ」とお聞きしたのが始まりです。大谷さんから、信楽社協の大倉さんにバトンタッチをしていただいて、多羅尾の自治会のみなさんにお会いし、お話伺うことができました。その時、多羅尾のみなさんから、「何か話をするのであれば、多羅尾大水害のことかなあ」という水害を語り継ぐという思いに触れ、多羅尾大水害の展示の企画が動き始めました。

お話を伺いに行った多羅尾いきいきサロンのおばあちゃん達は、当時のことを一生懸命お話してくださいました。時には涙を流しながら、時間を忘れて話して下さり、当時の様子や思いに触れることができました。今回の展示は、多羅尾の皆さんのご協力がなければできなかったと思います。

博物館にお越しの際は、新空間で、ぜひ展示をご覧くださいいただければ幸いです。



## 【活動予定】

8月1日より、新空間で「多羅尾大水害—水害から63年、語り継ぐ記憶—」を開催します。

9月以降の予定について、ご関心のある方は、お問い合わせください。



## ⑦古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 34名】

グループ代表アドレス:hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員:高橋啓一

### 【活動報告】

■化石観察会(柘植川、服部川)の実施 参加者 10名 5月22日

(自然の中での化石採集は最高)

古琵琶湖発掘隊会員の北田さんの案内のもと、三重県伊賀市で化石採集を目的にした観察会を行いました。久しぶりの「古琵琶湖発掘隊」計画のフィールドでの学習会で、大いに盛り上がりました。琵琶博からも山川先生と八尋先生も参加頂きました。いずれの場所も古琵琶湖層では最も古い大山田湖の時代で350万年～400万年前の地層です。柘植川では植物化石、昆虫化石を目的に発掘しました。植物化石は葉が殆どですが、折り重なるように堆積していました。このような環境は昆虫化石も期待できますが、今回は発見できませんでした。今後の植物化石の同定結果が楽しみです。昼食は服部川河川敷の足跡化石公園で食べました。遠足気分が皆さん満足げでした。

シロツメグサで首飾りを編む女性もおられました。昼食後は近くの河原の少しばかり残された露頭でコイ属の咽頭歯を目的に発掘を行いました。この時間帯になると30度近くの気温になり、水分や塩分補給などの熱中症対策が必要です。こまめな水分補給を行いました。

皆さん根性で総数9個もの咽頭歯を見つけられました。発掘技術もなかなかのものになりました。午後3時をもって散会しましたが、心配した怪我もなく楽しい一日となりました。皆さん今夜は心地よい眠りにつかれたことでしょう。今後も定期的に屋外での観察会を計画していきます。



自然のなかでの発掘。少し手を  
休め全員でパチリ(柘植川)



初参加の方も、必死で咽頭歯  
発見を目指します(服部川)

■東海湖層群での足跡化石観察会 参加者3名 6月4日

滋賀県足跡化石研究会の岡村先生の案内で岐阜県大垣市上石津の須城谷すしろたにに足跡化石観察にいきました。東海湖は今から約300万年前に東濃地方に生まれ養老山地付近で約160万年前に消えた湖でした。この場所は古琵琶湖では蒲生沼沢地群と同じ位の年代になります。ゾウらしき足跡を見つけると足跡をきれいに掃除し観察します。次にスケールをあて写真を撮り、記録します。この谷にも三つの火山灰層が確認できました。

今回はサイの足跡を重点的にさがしました。それらしき足跡は多数あったのですが同定にはいたっていません。何の足跡かが解ればどのような動物が生きていたのか、足跡の数で生息数の想定もできます。この様に足跡化石もその年代の動物を知る上での重要な手掛かりと言えます。

帰りに地元の資料館にも行き勉強をさせて頂きました。古琵琶湖と東海湖の関係? 謎は深まるばかりです。



すしろたに  
須城谷を調査点検中。



アケボノゾウの足跡化石

■野洲川で足跡化石の観察会（展示交流員さんとの交流）参加者 15 名 6 月 6 日

湖南省吉永の野洲川河川敷に残る足跡化石が湖東流紋岩、田上山のトパーズと共に滋賀県の化石に選ばれました。展示交流員の皆様から観察会を依頼され、皆様と出かけました。天候もよく観察会には最高の日でした。風化等によりなかなか見つからないのですが滋賀県足跡化石研究会の岡村先生、琵琶博の高橋先生、山川先生にも参加頂き無事観察を終えました。僅かな足跡を発見でき、展示交流員の皆様にも大変勉強になったと喜んで頂きました。約 260 万年前の古環境を皆様なりに感じて頂けたと思います。



暑さも忘れ足跡化石を探します。 これはゾウ、サイ、シカ？迷ってしまいます

■「地層のできる環境」の勉強会 琵琶湖博物館 参加者 6 名 6 月 22 日

(どうして地層はできるのか)

皆さんも工場や住宅開発地、断崖のようなところで縞模様になった土の様子を見られたことはあると思います。これらは地層といいます。細かく観察すると大きさのこたまった土や砂、色の薄い土や濃い土などが重なっていることに気づきます。これらはどの様にしてできたのでしょうか。これらの疑問を解くために今回は琵琶博の里口先生にお願いし、勉強会を行いました。プロジェクターやビデオを見ながら説明解説して頂きました。多くは水流によって運ばれた土砂が堆積してできるのですが(火山灰の様に風により堆積する場合もある)、河川の上流から下流、洪水などの水量等色んな条件のもとに積もることが解ります。地層の様子で河川や湖や沼だったのか等も解ってきます。地層を調べる事の重要性を改めて教えて頂きました。



野洲川に見られる地層の様子



プロジェクターを使った座学

【活動予定】

- 7月 貝化石のクリーニング
- 8月 化石の同定勉強会&中間総会



⑧湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

活動記録はなし。リニューアルオープンした後の来館者の状況では、アトリウムを利用しての活動は困難であると思われるので、しばらく様子をみながら、活動日を決めたいと思います。

【活動予定】

未定



## ⑨ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@lbm.go.jp

グループ担当者: 澤邊久美子, 鈴木隆仁, 森智美, 片淵綾香

いよいよ夏休みです。リニューアルオープンした博物館は、土日はたくさんの人でにぎわっています。ディスカバリールームもちょうど良い具合ににぎわっています。ザ!ディスカバはしかけの活動は8月、9月は、秋のイベントに向けて松ぼっくりを集めます！



みんなで飛ばしたタネ、クルクル回ってキレイだったよ。

### 【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ総会	6月12日(日) 13:00-	総会+紙ヘリコプター練習	1年の予定を決めました。飛ぶタネイベントの準備と練習をしました。メンバー4人
はしかけイベント	6月19日(日) 13:00- /14:00-	はしかけイベント「飛ぶタネと紙ヘリコプター作り」	飛ぶタネを観察して、飛ぶタネの模型を作ってアトリウムで飛ばしました。メンバー5人、参加者10名×2回

#### ～メンバーからのメッセージ～Vol.25

イベントを通して、とぶタネについて勉強になったし、植物の面白さを知ることができました。

とぶタネの模型作成は、簡単に作れるて、飛ばして楽しく、とてもよいイベントになったと思いました。参加して下さったお子さん達も、楽しそうで良かったです。(吉野まゆみ)

#### ～メンバーからのメッセージ～Vol.26

これ、やってみよう！という声から始まった今回の飛ぶタネのイベント。みんなのアイデアとやる気が集まって、すぐにプログラムが出来上がりました。今回、作ることにした種の模型は、ニワウルシ、フタバガキ(ラワン)、カエデ、マツの4種類と、フタバガキに似た飛び方をする紙ヘリコプターの5つを作りました。それぞれ飛び方が違い、クルクルと回りながらきれいに落ちる様子をみんなで観察しました。「タネって知ってる?」の質問には、「豆!」という答えが返ってきて、食べる事と植物の役割がきちんとつながっていることは素晴らしい事だと感じました。これからも、やってみよう!のアイデアで色々なプログラムがうまると嬉しいです。(澤邊)

### 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	9月頃(+各自随時)	イベント準備(松ぼっくり集め)	秋のイベントの準備に、松ぼっくりを集めます。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう!



## ⑩里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 39名】

グループ代表アドレス: satoyama@lbm.go.jp(登録会員数 38名)

グループ担当者: 安福俊幸

### 【活動報告】

#### ■6月6日(月) 潮干狩り 参加者 8名

メンバーに評判の良かった潮干狩りを、昨年に引き続き行いました。潮時を見計らった結果、今年は月曜日となり参加者は8名、朝8時半に野洲駅に集合、車2台に分乗して、今回は迷わず昨年の実績場である津市の御殿場浜を目指しました。

ここは南北に広い浜ですが、入ったのは最南部で造船所のドックも近くに見えるところです。最近有料の潮干狩り場が多い中で、ここは入場料なし、無料駐車場もあり、安上がりに楽しめます。その割には収穫も（貝をばら撒いて入場料を取る所には及びませんが）期待できます。びっしり並んでいる海の家呼び込みをやり過ぎて浜に下りると、週明けというのにすでに多くの人が入っていました。

この浜はマテガイ取りが名物で、砂の表面を平クワなどで薄く削って楕円形のマテガイの穴を見つけ、塩をそこに振り掛けると半身を出してくるマテガイをつかんで引っ張り出すのです。色々な穴の中からマテガイの穴を判断するのに少しコツがいるのですが、ゲーム感覚で大人も子どもも夢中になれます。今回もシーズン終盤でしたが、まずまず採ることができました。

マテガイ以外にメンバーが採っていたのは、アサリ、ハマグリ、バカガイ（アオヤギ）、シオフキ、カガミガイ、ツメタガイなどでしたが、今回初めてサザエのようなサイズのアカニシを採った方もおられました。この浜では以前には山ほど採れたバカガイが減ったように思いますが、天然ハマグリが採れるのはうれしいことです。皆さんそれぞれに収穫があり、大人が子どもになって無心に遊べた一日でした。

なお、大潮ではお昼頃に一番干潟が沖まで広がって収穫時なので、多くの収穫をめざすなら、昼食をずらすか、遠い駐車場まで戻らなくて済むようにザックに入れて現場で食べられるようにした方がいいでしょう。（宮本）



■7月10日(日) 里山体験教室(夏)下見 参加者 15名

■7月17日(日) 里山体験教室(夏)本番 参加者 16名

里山体験教室夏編の活動報告です。一般参加者16名と里山の会参加者16名、合計32名の活動になりました。当日朝は、まだ雨の残る怪しい天気。はしかけの森で参加者挨拶、注意確認の後、早速、地面に出来たモグラの砂山・トンネルの観察、モグラを見たことがある女の子が大きさを教えてくれました。次は、ブルーシートを使った簡易テントの設営方法の体験。木と木の間にロープを張り、みんな協力して大きな雨除けテントを張りました。自然観察散策では、オニヤンマや黒色アゲハの質問、そして、サルトリイバラの名前の由來說明、昆虫観察など楽しい自然観察になりました。昼食後は木製名札づくりで、現地の倒木をのこぎりで時間をかけて切り取る子供やロープにぶら下げた簡易木琴の演奏や簡易ハンモックづくりなどで森遊びを楽しみました。（吉井）



#### 【活動予定】

■8月27日(土) 夏の里山祭り、ソバ種蒔き

■9月17日(土) ソバ畑手入れ

■10月9日(日) 里山体験教室(秋)下見

■10月16日(日) 里山体験教室(秋)本番



## ⑪植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス:shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

植物観察の会は、2004年の企画展「植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の時に、多くのはしかけさんに植物に親んでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

カジュアルな観察会を長年にわたり開催してまいりましたが、2016年3月末で講師の布谷さんが三重県総合博物館の館長を退職されることになり、琵琶湖博物館の展示リニューアルその他の予定が落ち着くまで、観察会をお休みして、2016年10月以降に年度内1, 2回の観察会を開催する予定でした。しかし、ここに来て、これまでと同じように観察会だけを続けるだけでいいのかということについて、講師であり会の初代担当者であった布谷さんより、ご意見をいただいております。

「これまで広く植物を知ってもらうために、植物観察の会として観察会を開いてきました。しかし、“はしかけ”本来の活動のあり方としては、違うと思います。そろそろ次の段階を目指してはどうでしょうか。」ということで、自主的に植物を観察する計画を立てる会を目指して、方針などを定めていきたいと思っております。この会が自主的に植物を学ぶ機会を持つのであれば、布谷さんは講師をしてくださるそうです。

この「新生」植物観察の会について、一緒に計画を立ててくださる方を求めています。必ずしも観察会でなくても、室内の勉強会でもいいと思います。これまで参加なさった方のご感想やご意見も、広く募集します。上記アドレスまで、お寄せください。もし新しい方針ができなければ、一度このグループを解散することも視野に入れていきたいと思っております。次号のニューズレターで、何か提示できればと考えています。みなさま、よろしくお願いたします。

### 【活動報告】

活動は特にありませんでした。

### 【活動予定】

観察会の再開をするのであれば、2016年10月ごろからの予定です。これまでと同様の形で開催する場合は、次号のニューズレターに観察会の詳細を掲載いたします。(芦谷)



## ⑫たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス:keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長:大塚泰介

### 【活動報告】

6月7日は、会としてのまとまった活動は行わず、各自が顕微鏡写真撮影などを進めていました。

三村さんを主著者とする、山門湿原の珪藻植生に関する論文(短報)

Mimura T, Ohtsuka T. "Diatoms of Yamamuro Moor, a *Sphagnum* moor situated in the warm-temperate zone in Shiga Prefecture, central Japan"

が、6月13日付で珪藻学会誌 *Diatom* に受理されました。三村さんにとっては初めての論文出版となります。2007年4月の調査から足掛け10年もかかりましたが、これで大きな懸案が1つ片付きました。

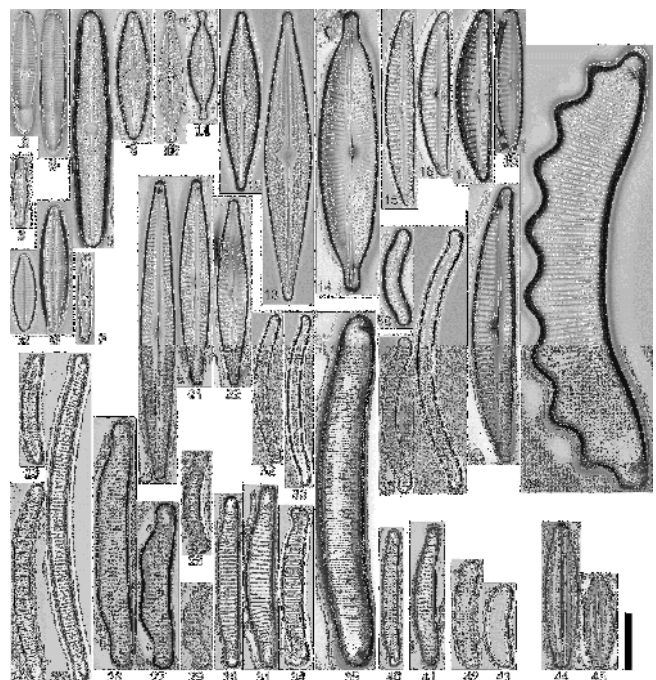
他にも会員が分担して、愛知県や岡山県の湧水湿地の珪藻の顕微鏡観察を進めています。

### 【活動予定】

次の総会は8月下旬を予定しておりますが、未だ日程調整がついていません。参加ご希望の方は、keisou@lbm.go.jpまでメールでご一報ください。

9月26日(月)に、大阪の信太山惣ヶ池湿地へ、調査旅行「たんさいぼうの小さな旅」に出かけます。

顕微鏡使用がまた混み合ってきましたので、ご使用を希望の方はメーリングリスト付属のカレンダーに記入するか、keisou@lbm.go.jpまでメールでご一報ください。



Mimura & Ohtsuka (印刷中) の図版の一部



## ⑬タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbm.go.jp

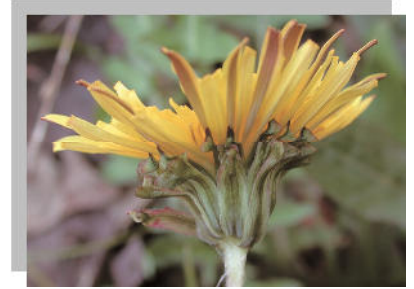
グループ担当者: 芦谷美奈子

### <タンポポ調査はしかけ、これからも活動します！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続していくつもりです。

2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つっこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。



タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。  
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

### <2015年の調査が終わり、報告チラシ、報告書ができあがりました！>

「タンポポ調査・西日本 2015」の報告書および結果チラシが、届いています。ご希望の方は上記アドレスまで、あるいは芦谷まで直接お尋ねください。配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

### <引き続きメンバー募集中！>

西日本の広域調査は終了しましたが、グループの活動は継続予定です。

次回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)がどうなるか、現時点では決まってないようですが、広域調査を通じて、種類の見わけ方や雑種問題、分布域の違いなど、多くの課題が見えて来ています。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

### 【活動報告】

今年のタンポポシーズンは、終わりました。フィールドレポーターの中野さんが、新たにタンポポ調査はしかけに入りたいということで、昨年の広域調査に引き続き、今年のタンポポの詳細な報告書を作ってくださいました。

### 【活動予定】

琵琶湖博物館の第一期リニューアルは、無事公開されました。夏休み中は多くの来館者が来て下さり、館内もバタバタしています。夏休みが終わったら、「タンポポ勉強会」を開きたいと考えています。個別に調査をされた方の結果の発表などはもちろん、「タンポポ調査・西日本 2015」のまとめとして、県外から講師を招いての講演なども行ないたいと思います。今回詳細なレポートを作ってくださいました中野さんにも、お話いただければと思います。

リニューアルその他で、本来やるべきであった調査報告会ができていませんので、上記のような勉強会と合同で、その場を持ちたいと思っています。秋の予定です。



## ⑭田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 40名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: M. J. グライガー, 鈴木隆仁

### 【活動報告】

#### ■信楽調査 5月28日(土) 9:30~16:00 参加者5名

昨年は数年ぶりに信楽の調査を行いました。その結果信楽地方でエビが広がっていることがわかりました。それを確認すべく、昨年調査できなかった場所を中心に今年も信楽の調査を行いました。参加者は博物館から2名とはしかけ3名の5名でした。全部で7か所の地域を調査しましたが、6か所でカイエビ類が確認されました。見つからなかったのはカブトエビだけという大漁でした。そのうちの1枚の田んぼでは後日ホウネンエビと4種のカイエビが同時に採集されるという新記録もでした。



## ■大津調査 5月29日(日) 9:30~15:00 参加者9名

大津市街地(浜大津~石山)に残る水田は、圃場の大規模改変を受けていないと思われます。山手の棚田や街中の孤立した水田で、エビ類がどのような生息状況にあるのかを調べました。



膳所駅近くに9時半に集合の後、参加者9人(大人6人、子ども3人)が3グループに分かれて車に分乗し、12カ所の水田群を回りました。袋小路の住宅地でやっと探し出した水田はまだ水が入っていなかったり、グーグルマップでは水田とされた場所が造成されていたりしましたが、意外に水田が残っていることに驚きました。

予定した調査地では、ほぼ全ての水田を調べることができました。同定はこれからはなりますが、種別ではトゲカイエビとホウネンエビが多かったのではないかと思います。注目はアジアカブトエビで、なんと、若葉台で見つかりました(アジアカブトエビはこれまで、瀬田川両岸のごく狭いエリアで見つかるだけです)。

アジアカブトエビの分布地は、今年の重要課題となりそうです。

調査を終えて再集合する頃になって、雨が急に降りだしました。午前中は蒸し暑かったのですが、雨が降る前に調査を終えることができよかったです。子どもさんたちも頑張ってくれました。

調査を終えて再集合する頃になって、雨が急に降りだしました。午前中は蒸し暑かったのですが、雨が降る前に調査を終えることができよかったです。子どもさんたちも頑張ってくれました。

## ■高島調査 5月29日(日) 9:30~15:00 参加者6名

総勢6名が2台の車に分乗し、安曇川を挟んだ北と南に分かれて調査を行いました。今まで安曇川の北ではエビの報告はなかったのですが、今回ついにカイエビが採集されました。たくさん調べたなかの1筆に1匹だけ! 宝くじのようでした。安曇川南ではかなりの田んぼにホウネンエビとカイエビが見つかりました。北と南がこれだけ違う理由は今のところ不明です。

## ■守山調査 6月5日(日)10:00~15:00 参加者8名

実はおひぎ元の守山市のデータが少ないということで、6月5日は守山市一帯を回りました。朝は小雨模様だったので、一旦博物館で様子見をした結果決行となりました。この判断は正しく、最終的には晴れの調査となりました。参加は8名でした。3チームに分かれ、それぞれ4カ所のメッシュを調査しました。詳細は同定会を待たねばなりません。どのチームもカイエビ、カブトエビを見つけたようです。

## ■瀬田調査 6月12日(日)9:00~15:00 参加者12名

瀬田地域、特に東側ではアメリカカブトエビの生息域にアジアカブトエビが侵入しその攻防が調査の焦点です。大人10名子供2名が、かつてカブトエビがいたという報告のある田んぼでエビを探し、採集しました。2種類のカブトエビが混在する可能性があるため、各筆およそ10個体のカブトエビを採集しました。これらは後程の同定会で種の検討を行吹田市古江台にいます。瀬田地区は昔風の農家が多い地区でしたが、開発が急ピッチで進んでいて、今回もかなりの田んぼがすでに宅地に代わっているか耕作放棄されています。カブトエビの勢力争いに決着をつけるのは人間様ということになりそうです。



今年の調査は4日間で五カ所というなかなかハードな調査でしたが、新しい発見も多く充実したシーズンでした。調査参加者の皆さんご苦労様でした。この後、種の同定とデータ整理というもう一つの大切な仕事があります。

## 【今後の予定】

### ■同定会 7月30日(土) 13:30~17:00 博物館実習室1

調査はデータの整理までが終わって完成となります。今シーズン採集したサンプルの同定とデータ用紙の整理を行います。自分の採集したサンプルは自分で責任をもって同定しましょう。また、調査に参加できなかった人もたくさんのサンプルを実際に観察することで同定の腕を磨きましょう!

### ■学会発表 11月17,18日 沖縄県宜野湾市沖縄コンベンションセンター

第22回国際動物学会、第87回日本動物学会 合同大会(沖縄)にてポスター発表を行う。タイトルは「滋賀県の水田におけるアジアカブトエビの分布状況について」、発表者はMark J. Grygier、楠岡泰、前田雅子、田んぼの生き物調査グループ。

(石井千津)



## ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: [bck@lbn.go.jp](mailto:bck@lbn.go.jp)

グループ担当者: 大塚泰介

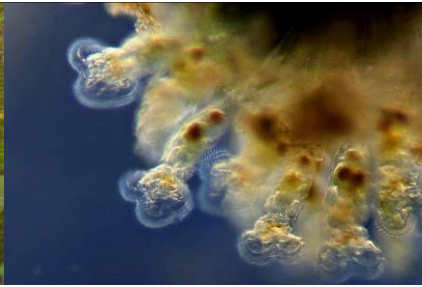
### 【活動報告】

#### ■6月17日(日) (参加者1名)

琵琶湖博物館で第3回目の活動を行いました。今回の参加者は1名のみで烏丸半島湖岸で採集しました。今年は例年にくらべあまり水草が繁茂していませんが、それでも湖岸にはいくらかの流れ藻が漂っています。そういった流れ藻を採集し、表面に付着している生き物などを主に観察しました。夏らしく大型の固着性ワムシやミズミズの仲間、マメタニシの卵など様々な生き物が観察できましたが、個人的に探している群体性ワムシに寄生するワムシはまだ時期が早いのか見つけることが出来ませんでした。また観察する会で継続して追っているヨコエビについても、ナリタヨコエビ・フロリダマミズヨコエビともに確認することが出来ました。



マメタニシの卵



ハナフサワムシ



マルサヤワムシの1種

### 【活動予定】

次回の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。参加希望の方は上記のグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



## ⑯びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: [biwatan@lbn.go.jp](mailto:biwatan@lbn.go.jp)

グループ担当者: 岡部陽造

わくわく探検隊が9月からスタートのため、6月・7月の活動も「びわたん会議」と称してメンバーのみで集まりました。7月がリニューアル後で混雑が予想されるために、活動はお休みでしたが、6月は「お魚モビール」の試作品を作りました。今年度3回目の活動でしたが、びわたんメンバーで和気あいあいと楽しい時間がすごせました。

### 【活動報告】

#### ■6月11日(土) びわたん会議 ③ 13名 (おとな9名、子ども4名)

6月は、お魚モビールの試作品を作りました。「お魚モビール」は、10月のわくわく探検隊「バイカルの魚を見てみよう」の中で作ります。海の魚ではなく、淡水(琵琶湖)の魚でモビールを作ってみては?というしゅうさんからの提案でチャレンジすることになりました。

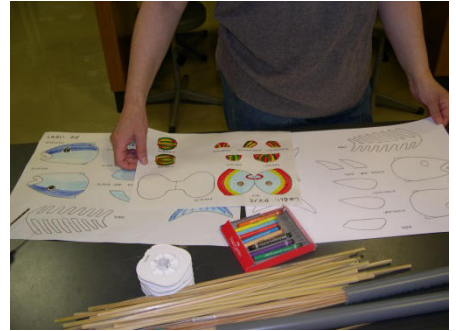
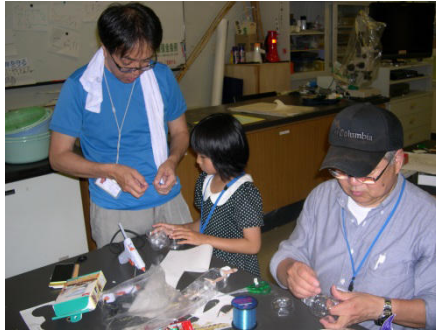
まずはモビールのお魚作りをしました。予め魚の絵がプリントされた紙に色をぬってパウチしました。自分で描いたお魚の絵に色をぬるのもOKにしました。また、今回は、お魚をペットボトルで作ることもチャレンジしたため、ペットボトルに貼り付けるお魚の頭やひれ(背びれ、胸びれ、腹びれ、尻びれ、尾びれ)に色をぬり、ペットボトルを切って頭やひれを付けました。ビワコオオナマズやヨシノボリ、ビワマスといった琵琶湖に因んだ淡水魚をイメージしてつくりました。

色が個性的で、たくさんのお魚ができました。そして、釣り糸と竹ひごでお魚を結びつけました。パウチしたお魚は簡単に結べたのですが、ペットボトルのお魚を結びつけるためにみなさん工夫を凝らしていました。短い竹ひごを使ってぬけにくくしたり、ホットボンドで接着したりしました。最後にバランスを取って完成しました。完成したお魚モビールを洗濯物干しに吊るし、みんな大満足でした!

最後にみんなでミーティングをしました。実際に作った感想や10月に向けた改善点や注意事項などを話しました。また、11月の「秋の色さがし」について、み



ちるんさんから新しいアイデアの提供がありました。あっという間の3時間で、気がつけば16:00をまわっていました。  
びわたん (こばやん)



### 【活動予定】

- 9月10日(土) わくたん再開イベント「マイクロアクアリウムを楽しもう」
- 10月8日(土) 「バイカルの魚たちを見てみよう」 ※ペットボトル容器持参



ほねほねくらぶ

## ⑰ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス:hone-hone@lbm.go.jp

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当者:高橋啓一

### 【活動報告】

#### ■5月29日(日) 参加者2名

高橋学芸員による解剖講義の第5回目

前回までは哺乳類を使用していた講義でしたが、今回は魚類を使用していた講義となりました。哺乳類と魚類とでは当然その形は全然違うものなのですが、解剖しながら解説していただいていると共通する所や由来となっている所などを知る事ができ、生き物の面白さ、不思議さに改めて気付く事が出来ました。

#### ■6月19日(日) 参加者1名

シカの骨の洗浄を行いました。しばらく手がつけられていなかったシカの骨をやっと進める事ができました。日々いろいろな作業が出てくるので、なかなか手をつけられずに放置してしまっている作業が有ったりするのですが、このシカの骨もその一つ、やっと整理できてスッキリしました。やはり日々しっかりと計画を立てて進めていく事が必要だなと反省しました。

#### ■6月26日(日) 参加者2名

シカの角切り、カモの除肉、シカの骨の整理を行いました。不要になったシカの頭部の剥製をもらい受ける事になり、角だけ必要との事だったので切り離してお返しする事に、なかなか珍しい体験となりました。なんとなく奈良県のシカの角切りを思い浮かべながらの活動でした。

#### ■7月10日(日) 参加者2名

ヒミズの除肉、アライグマの除肉を行いました。

#### ■7月24日(日)参加者2名

アライグマの除肉。梅雨も明け、いよいよ夏本番といった季節、暖かい時期は腐敗が早く骨作りには好都合な条件が整うので、出来るだけ多く制作出来るようにしていきたいと思います。



### 【活動予定】

8月、9月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。動物、や骨に興味がある方なら参加・見学大歓迎です。活動見学等をご希望される方は、グループ代表メールまでご連絡をお願いします。



## 【活動報告】

■5月29日 ドクダミチンキ作り 参加者6名 生活実験工房にて  
緑のくすり箱の活動としては、一昨年に実施したドクダミのチンキ作りを今年も行いました。

当初は6月に実施する予定でしたが、今年は例年より早くドクダミの花が咲いたため、急遽5月中に実施することにしました。

「チンキ」とは、薬草をアルコールに漬け、薬効成分を取り出したエキスのことを言います。琵琶湖博物館のドクダミをメンバーで手分けして採取し、きれい洗い、しばらく干します。ある程度水気がきれいなら、キッチンペーパーなどでよく拭き取り、瓶に入れアルコールを注ぎます。水分が残っているとカビが生えることもあるため、念入りに作業します。ドクダミはひと束だけそのまま干しておき、次の活動の時に、ドクダミ茶を作ってみることにしました。ドクダミを採取していたら、蛇いちごも見つけたので、チンキにしてみました。ドクダミチンキは、完成するまでに3ヶ月ほど漬けます。11月にはチンキの活用について交流したいと思います。



■6月26日 化粧水作り 参加者12名 午前10時から 生活実験工房にて

チンキを使った化粧水を作成しました。一昨年前に漬けたどくだみチンキを使う予定でしたが、オイルが既に混ざっていた状態で保管されており、たまたまメンバーが持ってきた、ゆずのチンキとゼラニウムのチンキ、それと前回漬けた蛇莓のチンキを急遽使用することにしました。メンバーそれぞれが好みのチンキと精油、グリセリンかセサミオイルを入れ、オリジナルの化粧水を作製し、満足いく内容となりました。

実習後は、どくだみ茶を作り、皆でティータイムを楽しみました。

市販で売っているオーガニック化粧品等が流行っていますが、とても価額が高く、定期的に使うことは楽ではありません。みどりの薬箱で、自分達で植物やハーブを使った化粧品が作れるということは、日常生活にも役立つし、研究テーマとしてもとても興味深いです。秋には自分達でつけたどくだみチンキを使った化粧水を作製する予定です。今からとても楽しみです。



■7月10日 紫蘇ジュース作り 13時～ 参加者 大人10名 子供3名 生活実験工房にて

4月に種まきをした赤紫蘇を収穫し、紫蘇ジュースを作りました。赤紫蘇は、前回害虫駆除はしたのですが、だいぶ虫に食べられてしまいました。ジュースに出来そうな部分だけ手分けして摘み取り、きれいにあらいました。子供さんもお手伝いしてくれました。お鍋にお湯を沸かして、赤紫蘇を投入。15分ほどしっかり煮出していきます。

煮出していると、赤紫蘇が緑色に変わります。これは色素(アントシアニン)が水に溶けて抜けるからです。ざるで濾して、お砂糖を煮溶かし、クエン酸を加えて出来上がりです。みんなで水や炭酸水で割って、美味しくいただきました。

その他、青紫蘇のジュースも作りました。作り方を教えて下さったメンバーのお家では、赤紫蘇だけだとえぐみが出るので、青紫蘇ジュースもブレンドして飲まれているそうです。青紫蘇ジュースは、梅のような味がして、美味しかったです。

バテやすい夏、紫蘇ジュースで元気に過ごせるといいなあと思いました。



### 【活動予定】

9/17 藍染体験

9月(日時は未定) 水族展示見学



## ⑱森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ代表アドレス: morihito@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

■大阪市立大学附属植物園見学 (大阪府交野市) 6月5日(日) 11~15時 参加者: (会員) 10名 (博物館職員) 林、草加

今回訪れた植物園は、かつてメタセコイアの化石を発見した三木茂博士が園長を務めていた所で広大な敷地に約 6700 種類の植物が植栽保存されています。前夜からの雨もほぼ上がり、園のおすすめコースに従って出発。水生植物ゾーンでは、温帯スイレン、アサザ、コウホネ、ヒツジグサ、ジュンサイ、ガガブタなど開花しているものも多く、それぞれの特徴を間近で観察しました。ここだけで 30 分越え(笑)。巨大なヒマラヤスギの下で記念撮影。その後、代表的な日本の樹木約 250 種が系統立てて植えられている日本産樹木見本園へ。樹形、樹皮、葉や花や実などが比較しやすく面白かったです。

幹がねじ曲がるカカツガユ、大きな刺を持つクストイゲなど初めて見るものも多数。広場では数本のうち 1 本だけびっしり花をつけているシナノキがありました。草加さんによると、その木がカミキリムシの被害で弱っているため、子孫を残すためではないかとのこと。植物に備わった意思のようなものを感じました。

1950 年にアメリカから日本に贈られた 100 本の苗木のうちの 1 本が育ったメタセコイアと気根が不思議な形をしたヌマスギを見たところで、観察会は終了。

植物図鑑の中を歩くような植物園で個人的には優美なササユリや可憐なイチヤクソウが見られたのが嬉しかったです。事務所の方が「植物を深く知りたい方には見応えのある植物園です。また来て下さい」と見送ってくれました。(三輪ゆうこ)



### ■森の観察会&樹木説明版メンテナンス&クズの調査

6月18日(土) 13:30~16時、場所: 生活実験工房、屋外展示の森 参加者: (会員) 8名 (博物館職員) 林、草加

内容: ①屋外の森ホームページ立ち上げ(林学芸員)・・・内容の確認と句の情報(写真と一言コメント)を追加する。②びわ博カルタ案(林学芸員)のパネル内容の確認を行った。③7月以降の活動計画について。④森の観察会&樹木説明版メンテナンス及びクズの駆除のための調査・・・縄文・弥生の森に入り植物を見ながら現状と合わない樹木説明版の撤去とクズの生育場所の確認をした。縄文・弥生の森の生態観察池に面した樹木は写真のように全てクズに覆われている。この他、北面でも多くのクズが繁殖していた。太い幹からは何本ものランナーが出て暗い森を這いまわり、所々で根を出しそれぞれ独立した個体となっている。それらが日光を求めて木々の間を這い上がり大きな葉を広げ、我先に光を獲得する様は実にたくましい。この原動力は根で、クズを駆除するためにはそれらをすべて除去する必要がある。(福岡敏雄)





### ■クズの駆除作業

7月9日(土) 13:30~16時、場所：生活実験工房、縄文・弥生の森

参加者：(会員) 7名 (博物館職員) 林、草加

6月18日の調査で確認した場所に入り草加さんの指導を受けながら伐採と薬注作業を行った。薬注作業はつまようじ状の木の棒に薬剤をしみこませたものをクズの切り口にキリで穴をあけた後に打ち込んだ。主幹の処理は比較的簡単だが、厄介なのはランナーで、地上を這いながら数か所で根を出しているのをそれら処理した。やぶ蚊とタラ

とげに悩まされながら約1.5時間、汗を流して作業は終了。薬剤は遅効性で地下部の枯死には3ヵ月程度を要するとのこと、乞うご期待。冷房の効いた生活実験工房に戻り、お茶と菓子をいただき一息ついたところで今後の予定などを話し合い、会は終了した。(福岡敏雄)



薬注処理後



本日最大の径約9cm、年輪から6年もの

### 【活動予定】

◎7月23日(土)、13~15:30 「川辺いきものの森見学」(場所 東近江市建部北町 531)

集合は「河辺いきものの森」に13時、林冠トレイルなどを見学予定。詳細は別途メールで連絡。

◎8月6日(土) 博物館の展示に関する勉強会 集合：13:30、実習室1

◎8月27日(土) 森の観察会&竹の伐採 集合：13:30、生活実験工房

★森が好き、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

★参加を希望される方は 森人(もりひと) [morihito@lbm.go.jp](mailto:morihito@lbm.go.jp) に連絡ください。



## 生活実験工房からのお知らせ

※生活実験工房の先日の昆虫採集体験では、天候に恵まれ、多くの方の参加をいただき無事終わることができました。これからはいよいよ稲の穂が出て、収穫を待つ季節となります。9月、10月には稲刈りのイベントがありますので、はしかけ、フィールドレポーターの皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員：下松 孝秀

### 【活動予定】

開催時間 10:00~12:00 場所：全日程とも生活実験工房

9月11日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)

10月2日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

11月23日(水祝) 収穫祭

※一般参加者の受付は、9:30からです。

稲刈については各自、長靴、着替え等をご用意ください。



### 3. その他の事項

---

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの [hashi-adm@lbn.go.jp](mailto:hashi-adm@lbn.go.jp) まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成 28 年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。

2016

10-11月

# はしかけニューズレター

2016年度 第4号 通巻131号

2016年(平成28年)10月1日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 山本・大塚・下松・大久保)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: http://www.lbn.go.jp

## ～目次～

1. 新規グループ誕生のお知らせについて
2. びわ博フェス☆2016「ありがとう交流会」
3. はしかけグループの活動報告と活動予定
  - ① うおの会 ② 淡海スケッチの会 ③ 近江はたおり探検隊
  - ④ 大津の岩石調査隊 ⑤ 温故写新 ⑥ 暮らしをつづる会 ⑦ 古琵琶湖発掘調査隊 ⑧ 湖(こ)をつなぐ会
  - ⑨ ザ! ディスカバはしかけ ⑩ 里山の会 ⑪ 植物観察の会 ⑫ たんさいぼうの会 ⑬ 田んぼの生き物調査グループ
  - ⑭ タンポポ調査はしかけ ⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 ⑯ びわたん ⑰ ほねほねくらぶ ⑱ 緑のくすり箱
  - ⑲ 森人 ⑳ ちっちゃな子どもと自然であそぼう 生活実験工房からのお知らせ
4. はしかけ登録講座のお知らせ
5. その他の事項

会員数・・・313人  
 グループ数 20 グループ  
 (2016年10月1日現在)

## 1. 新規グループ誕生のおしらせ

はしかけの新規グループとして「ちこあそ」(ちっちゃな こどもの しぜんあそびの略称)が誕生しました!既に活動が開始されているので、活動報告も参考にさせていただいて興味のある方は、ぜひご参加ください。

## 2. びわ博フェス☆2016「ありがとう交流会」のご案内

既にご存じのことと思いますが、11月に「ありがとう交流会 びわ博フェス☆2016」が開催されます。はしかけのワークショップや活動紹介などで一緒に博物館イベントを盛り上げていただきたいと思います。

日時: 11月12日(土)・13日(日) 9:30～17:00

内容: リニューアル情報発信、アトリウムコンサート、水族展示バックヤード探検、動物ふれあい広場、楽しい体験交流コーナーなどもあり、皆さんのお越しをお待ちしています!

## 3. はしかけグループの活動報告と活動予定



### ①うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbn.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

#### 【お知らせ】

うおの会への参加には、はしかけ会員更新とは別に、年度ごとに会員登録(更新)が必要です。更新手続きが済んでいない方、および新たに入会ご希望の方は、会員登録票(会 HP からダウンロード可)に必要な事項を記入し、うおの会事務局(uonokai@lbn.go.jp)まで送信、または手渡しで提出してください。

#### 【活動報告】

■9月10日 親睦会 参加者: 8名

午後6時、いくつかの行き違いが重なり、予約していたお店に入れず、店の前で途方に暮れる幹事(私...)。集まった皆さんの温かい言葉に気を取り直し、草津駅前の居酒屋へ移動することになり、1時間遅れで開始することができました。フォロ



ーして下さった皆さんに感謝です。

さて、うおの会の親睦会は魚の話で盛り上がるのが常ですが、今回の話題の中心は、なぜかトンボ。今夏の成果とばかりにトンボ写真を持参した副会長・高田さんと、驚くほど多種の幼虫を飼育、羽化させた経験をお持ちの川口さんの、熱い語りを聞くことができました。また、ちょうど翌日に琵琶湖を戻す会の釣りの大会があり、遠くは関東から戻す会員の方がゲスト参加して下さいました。霞ヶ浦の最近の様子などを伺うことができました。初めは過去にない危機？に見舞われどうなるかと思いましたが、楽しく終えることができました。

■9月18日 第121回定例調査 場所：喜撰川  
雨天により中止

### 【活動予定】

- 10月16日(日) 第122回定例調査 10:00~14:00 場所：安曇川
- 11月20日(日) 第123回定例調査 10:00~14:00 場所：天野川(米原市) 中上流付近



## ②淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原 徹・榎永一宏

### 【活動報告】

- 8月28日(日) スケッチ会(琵琶湖博物館) 活動会員数 4名  
博物館入口に集合の後、博物館内でスケッチをする人や湖岸へ出て水辺の風景をスケッチする人もいて、思い思いに楽しむ。スケッチの後にはリニューアルした館内を見学。
- 9月25日(日) スケッチ会(近江八幡市・西の湖) 活動会員数 4名  
久しぶりの晴天に恵まれ、桜並木には返り花、その根元にはマシユマロのような草が見られる。内湖は鏡のように青空を映し、刈入れの済んだ田とまだ行われていない稲田のコントラストが美しい。水辺では葦灯りのイベントが行われていて、作品を拝見しながら描く場所を選ぶ。スケッチの後には湖畔のカフェでミーティングの後、解散。

### 【活動予定】

- 10月23日(日) 琵琶湖博物館  
集合場所・博物館入口 午前10時  
はしかけ登録講座、ありがとう交流会準備
- 11月27日(日) 彦根市・曾根沼  
集合場所・セブンイレブン(愛知川そば) 駐車場  
集合時間 午前10時30分  
▶ 初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください。



## ③近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: oumihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

### 【活動報告】

#### 企画展示協力

企画展示「びわ博カルタ」に展示しています。はたおり探検隊の札は「わ」。「綿を繰り 糸を紡いで 機を織る」です。

#### 織姫の会

■7月27日(水)(参加者:4名、見学者:7名)

高島市から「朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト」のメンバーが見学に来られました。手紡ぎした経糸をデザインどおりにそろえる整経作業



企画展「びわ博カルタ」

を見ていただきました。また、綿繰り、綿打ち、糸紡ぎ、機織りなどの体験もしていただきました。

■9月3日(土)(参加者:7名)

前回の整経作業に引き続いて、箆(おさ)通し、チキリ巻き、綜紉作り、畦返しまで行いました。途中までで終わる予定でしたが、助っ人が多かったので、最後までできました。次回から織りはじめとなります。

【活動予定】

■織姫の会

9月28日(水)、10月12日(水)、29日(土)、11月9日(水)、30日(水)、  
12月10日(土)、24日(土)

■「朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト」協力 11月20日(日)

朽木資料館で「朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト」のイベントがあります。地元のおばあちゃんに苧績み(おうみ)を習い、見学者に体験してもらいます。人手がいるので、お手伝いいただける方を募集します。おばあちゃんに苧績みを習いたい人はぜひご参加ください。



総出でチキリ巻き

■びわたん「綿に触れてみよう」協力

昨年度も参加したわくわく探検隊「綿に触れてみよう」に今年も協力します。スピンドルでの糸紡ぎに人手がいるので、ご協力をお願いします。

(辻川智代)



④大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)12名】

グループ代表アドレス: ganseki@lbm.go.jp

グループ担当者: 里口保文

【活動報告】

■自主勉強会 8月28日(日) 13:00 - 16:00 博物館 参加者12名

今回も隊員2名が各々約1時間強、以下の発表を行った。

- (1)音羽山周辺の断層を中心とするこれまでの活動のまとめと今後の必要な要素技術
- (2)最新の京滋阪周辺の付加体と断層に関する報告と討論を行った。

その後、当隊の今後の計画の方向付けを行った。

隊員の報告は、やや専門的なことが多く、理解が追いつかないところもあったが、いつも通り、質問や意見も多数あり議論が進んだ。また、今後の方向付けも進んだ。今後は初心者にも興味を持って頂ける野外調査も増やし、より専門的な調査とミックスし、会の充実を図りたい。

■博物館20周年行事への参加

断層を主体にしたカルタの原稿作成と展示用岩石の選定を担当学芸員と進めた。来年1/31まで展示されていますので見てください。



⑤温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ)10名】

グループ代表アドレス: onkosyasin@lbm.go.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■8月20日(土) 9:30~12:00 大橋コレクションの整理 博物館 参加者5名

大橋コレクションの活用を目指して、利用可能な写真の選定を行いました。また、終了後にC展示室にある「おすすめの琵琶湖の風景」を見学し、温故写新のメンバーが撮影した写真をじっくりと見ました。

■9月25日(土) 9:30~12:00 びわ博フェス2016の出展内容計画 博物館 参加者5名

11月に行なわれるびわ博フェスでの展示内容について話し合いました。今年はおすすめの琵琶湖の風景をみんなで撮影していることから、メンバーが紹介する琵琶湖の風景を展示することになりました。

## 【活動予定】

### ■10月15日(土) 9:00～ 撮影会 びわ湖バレイ

琵琶湖を見渡せるびわ湖バレイに出かけ、鳥の目線で琵琶湖を撮影するほか、すこし山道も歩き、秋の山の風景を撮影します。参加の方は必ず担当学芸員までご連絡ください。

### ■11月5日(土) 9:30～ 実習室1

びわ博フェスに向けた展示物作成を行います。

### ■11月12日(土)・13日(日)

びわ博フェス2016への出展、館内の様子の撮影などこのほか、いろいろなはしかけグループとの交流も予定しています。

温故写真では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行います。必要な方は温故写真担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



## ⑥くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

## 【活動報告】

暮らしをつづる会では、8月1日から8月27日まで、博物館1Fの「新空間」にて“多羅尾大水害”の展示を行いました。多羅尾自治会や多羅尾公民館、多羅尾小学校、多羅尾いきいきサロンの皆さん、甲賀市社会福祉協議会の方々、その他たくさんの方々の協力をいただき、なんとか無事1か月の展示を終えることができました。

展示を終えてホッとしているところですが、ここまできて、大きな課題に気づきました。今回の水害の展示や9月17日からの琵琶湖カルタの展示などでたくさんの「おじいちゃん、おばあちゃん」に協力をしていただいたのですが、肝心のその「おじいちゃん、おばあちゃん」に展示を見ていただけていないのです。多羅尾から博物館が遠かったことや家族や誰かを頼らなくては博物館には足を運べなかったことが理由だと思います。今後は、お話をしていただいた方にも見て頂ける工夫を考えたいと思います。



## 【活動予定】

次回の活動については未定です。

相談しながら進めています。ご関心のある方は、メールか担当学芸員までお問い合わせください。



## ⑦古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 34名】

グループ代表アドレス: hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 高橋啓一

## 【活動報告】

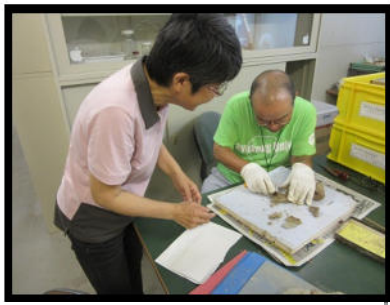
### ■貝化石のクリーニング 参加者4名 実施日7月9日 (カビと土埃との戦い)

2回目の多賀四手で発掘された貝化石のクリーニングを行いました。今回の化石は断片化したものや印象化石(貝殻が溶けて跡だけが残っている)が殆どです。

しかも、多くの化石にカビが生え、収納箱や記録紙も腐食しており大変な作業となりました。母岩から貝を取り出せたのは僅かで、後はできるだけ周囲の土を取り除き中から貝を出したりしました。腐食した記録紙は内容を別のメモ紙に転記しビニール袋にカビが移らないようにしたりしたので思ったより稼働時間がかかってしまいました。土埃とカビとの戦いとなりました。

今回は金槌やタガネが使えず、カッターナイフや歯医者さんが歯を削る時に使うタービンを使用しました。初めて使う人が殆どで「歯科医師になった気分やなあ」と大喜びの会員もいました。ふだん静かな地下取蔵庫での作業でしたが和やかに

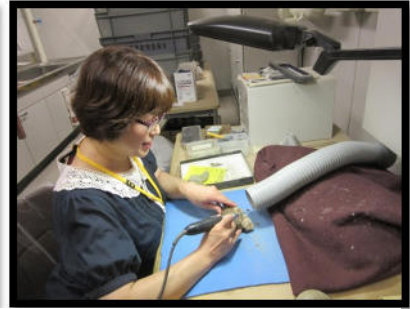
お互いに創意工夫をしながらの活動となりました。一次的に拭いてカビ取りに対処しましたが、再発生するので今後の保存方法が課題となりました。



カッターナイフで土削り  
「怪我しないでね」と優しい  
言葉がけが大切なんですよ



印象化石とカビが生えた母  
岩。重さ1kgはあります。  
皆で最良の方法を考えます。



初体験のタービンを使って細か  
い土を取り除く。歯科医師気分。

■貝化石のクリーニング 参加者5名 実施日7月25日  
(根気との戦い)

2回目の貝化石のクリーニングを行いました。今回は埃やカビ対策の一環としてマスクを使用する会員もいました。時間経過に伴い化石自体の劣化が激しいものが殆どで既に消えている化石も数点ありました。それでも皆さん地下収蔵庫で汗をかきながら何とか終わる事ができました。今回は入会希望の中学生の方にも作業を見ていただきましたが、参考にして頂けたでしょうか。外に出た時の空気の新鮮なことを実感した次第です。



前回の経験で土埃とカビから身体を  
守るため今回はマスクをする人も

■親子で化石発掘体験 参加者 4名 実施日8月7日

多賀あけぼのパークで親子化石発掘体験に参加しました。参加者は小学生の親子が殆どで約20名でした。あらかじめ用意されていた土塊を崩しながら化石を発掘する体験です。球果や昆虫化石も出て皆さん大満足で良い土産となりました。子供より必死で化石を探すお父さん、お母さん。お気持ち良く解ります。

■野洲川産出の植物化石の観察会 参加者7名 実施日8月21日

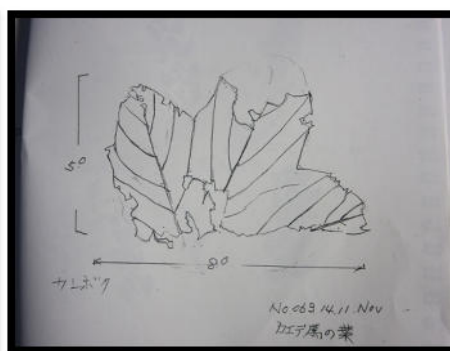
(同定の方法のひとつの手段)

古琵琶湖発掘調査隊は多賀町四手での発掘調査を基本としていますが、一步進んで個人的に活動をしている人も多くいます。今回は野洲川で化石を採集している人の植物化石約30点を皆さんで観察し、同定した根拠等を話し合いました。個人では高額な顕微鏡を所有することは困難なことからパソコンを使い細かな観察をする方法や、それを基に葉脈、鋸歯(葉の周りのギザギザ)などの特徴をスケッチし図鑑として利用することなどを勉強しました。葉、球果、種などを観察し、古環境等を勉強することができました。夜は草津駅前に移動し懇親会を行いました。

博物館から一步外に出て美味しい御馳走や、少量?のお酒が入ると色々な提案や意見が出ます。楽しく有意義な一日を過ごせました。



カエデ属の葉化石



左をスケッチ

【活動予定】

- 9月 日野川での足跡化石観察会
- 10月 調整中



## ⑧湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: ko-tunagu@lbn.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

活動記録はなし。リニューアルオープン後の土日は、たくさんの来館者があったことや、紙芝居に使える部屋が確保できなかったために、活動は出来ませんでした。今後は、土日にこだわらず、活動できる可能性を考えていきたいと思ひます。

### 【活動予定】

10月23日(日) はしかけ登録講座 グループ紹介  
11月12・13日 びわ博フェス☆2016 参加



## ⑨ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

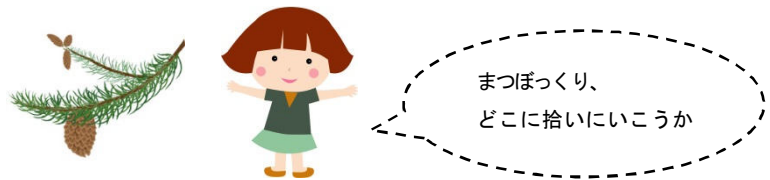
グループ代表アドレス: hashi-discov@lbn.go.jp

グループ担当者: 澤邊久美子, 鈴木隆仁, 森智美, 片淵綾香

夏休みが終わり、展示室も少し落ち着きました。20周年のありがとう交流会にむけて、まつぼっくり集めをする予定です。

### 【活動報告】

8月、9月は特になし



～メンバーからのメッセージ～Vol.27

ありがとう交流会の準備に向けて、まつぼっくりを拾いに行く場所を検討しています。湖岸にある松林、とてもきれいな景色がひろがる場所が何か所かあります。景色を眺めながらのまつぼっくり拾い、みんなで行こうと思ひます。(澤邊)

### 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	10月(未定)	イベント準備(松ぼっくり集め)	秋のイベントの準備に、松ぼっくりを集めます。
はしかけ登録講座	10月23日	はしかけ登録講座	活動紹介をします

ディスカバリアルームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)していきましょう！



## ⑩里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 26名】

グループ代表アドレス: satoyama@lbn.go.jp(登録会員数 39名)

グループ担当者: 安福俊幸

### 【活動報告】

#### ■ 8月27日(土) 夏の里山祭り、ソバ種蒔き 参加者25名

恒例の夏祭りを博物館の工房で行いました。行事のメニューは、工房前で育成するソバの種まき、波止場前での魚釣り、ソーメン流し、そして午後からの竹細工遊びです。参加者は家族連れの子も9人を含む総勢26名となり、盛況な夏祭りとなりました。

ソバの種まきは短時間で終わり、その後子ども達は魚釣りに直行です。今年は昨年ほど釣れなかったようですが、持ち帰ったバケツにはブルーギルが7～8匹入っていました。子ども達が釣りをしている間、残った大人たちは男性がソーメン流しのトイ作り、女性がソーメンや天ぷらの準備と手分けして進めました。トイは4本継ぎで全長8m、足もオール竹製で組み、安定に立てることと傾斜の調整とに苦労しましたが、大人から子どもまでソーメンを取れるちょうどいい具合のものできました。

料理の方はソーメンの薬味も多くの種類が準備され、天ぷらもあってにぎやかでした。天ぷらには釣ってきた魚も加えられました。

ソーメン流しの号令がかかると子どもも大人もトイに群がり大賑わい、流す人は大忙しです。ソーメン流しはトイが倒れるトラブルもなく、成功裏に終わることができました。

午後の竹細工では、竹笛、竹とんぼ、水鉄砲作りなどに挑戦しました。竹笛は色々な作り方があり、音もそれぞれ変わるので、興味深かったようです。竹とんぼは定番ですが、子どもはもちろん、大人の方が昔取ったきねづかで、熱中していたふしもありました。子ども達も普段あまり触れることのないナイフの使い方を学び、いい経験になったと思います。いまどきの子どもが思ったより熱心に取り組んでいたのは、少し意外でした。締めくりでの子ども達への聞き取りでは、魚釣りや竹細工が楽しかったという声が多く、機会さえ与えれば今の子にも昔の遊びが通用するとうれしく思いました。(宮本)



#### ■ 9月17日(土) ソバ畑手入れ 参加者1名

里山の会9月活動で予定していたソバ畑の手入れは中止になりましたが、博物館横広場で開催されるイナズマロック当日、大音響のロックミュージックを聞きながら、生活実験工房のソバの生育様子を観察しました。8/27の種まきから21日後、まだ、花やつぼみは見られなかったが、高さ65cm までの成長を確認。蒔種密度が高かったので半数近くを間引き、食材に利用しました。(吉井)

#### 【活動予定】

- 10月 9日(日) 里山体験教室(秋)下見
- 10月16日(日) 里山体験教室(秋)本番
- 11月12日(土) ありがとう交流会
- 11月19日(土) 秋の里山観察会下見
- 11月20日(日) 秋の里山遊び
- 11月26日(土) 秋の里山観察会本番
- 11月27日(日) そば刈取り



## ⑪植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

植物観察の会は、2004年の企画展「植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の時に、多くのはしかげさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

カジュアルな観察会を長年にわたり開催してまいりましたが、2016年3月末で講師の布谷さんが三重県総合博物館の館長を退職されることになり、琵琶湖博物館の展示リニューアルその他の予定が落ち着くまで、観察会をお休みして、2016年10月以降に年度内1、2回の観察会を開催する予定でした。前号でもお知らせしたように、このまま観察会を同じように続けても、はしかげの自主的な活動にはならないと考え、少し方針を変えることにしました。

布谷さんが前号のコメントをくださったように、会として次の段階を目指すということですが、とりあえず2016年度の後半は、「初心に帰る」というキーワードで、座学の会を開こうと思っています。

予定として、2016年11月に1回、2017年1～3月に1回、琵琶湖博物館にて座学を開催します。詳しくは、下の「活動予定」をご覧ください。この中で、植物観察をすることを見つめ直し、新しい植物観察の会を模索します。

折しも第二期リニューアルでは、「(仮称)大人のディスカバリー」という空間も出来る予定で、そこでは植物を観察するきっかけになる展示コーナーを持ちたいと考えています。これまで植物観察の会で蓄積できたものがあれば、その展示にも生かしていきたいと考えています。

この「新生」植物観察の会について、一緒に計画を立ててくださる方を募ったところ、少し反応をいただきました。引き続き、協力者を求めています。屋外の観察会、室内の座学や実習など、企画を一緒にしませんか？

これまで参加なさった方のご感想やご意見も、広く募集します。上記アドレスまで、お寄せください。もし新しい方針ができれば、2016年度をもって、一度このグループを解散することも視野にいれていきたいと思っております。

### 【活動報告】

活動は特にありませんでした。

### 【活動予定】

上記のとおり、座学の間を設ける予定です。「はしかけ」に登録している方であれば、どなたでも大歓迎です。

#### <11月勉強会「台所・食卓の植物学」>

果物や野菜など、日頃目にする食物を植物として観察すると、どのように見えるでしょう。植物としての作りを学びながら、実習もかねて断面を見たり、タネを観察したり、いろいろな身近な食物・植物を観察します。

日にち：2016年11月20日(日) 13:30~16:00 (予定)

講師：布谷知夫さん

開催場所：琵琶湖博物館 実習室2

申し込み：メールの場合は、上記「植物観察の会」アドレスまで。ファックス・電話は、琵琶湖博物館の芦谷美奈子まで。材料の準備などの目安とするために、できるかぎり参加申込をしてください。

#### <2017年勉強会「(仮称)植物図鑑の使い方」>

植物を調べる時に欠かせないのが、植物図鑑です。といっても、何か難しそうなことが沢山書いてあるように見え、なかなか手を伸ばす気にならない方も多いのではないのでしょうか。今はネットなどでも、ある程度の調べ物は可能ですが、その場合も書いてある説明を理解しようとするには、まずは図鑑が使えるようになることが基本です。

この勉強会では、敬遠しがちな植物図鑑の使い方を、実物の標本などを手に学ぶ内容です。

日にち：調整中。次号でお知らせします。土日祝日の午後からの開催になる予定です。

講師：布谷知夫さん

場所：琵琶湖博物館 (詳細は未定)



## ⑫たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

### 【活動報告】

8月22日(月)に、記念すべき「たんさいぼうの会第50回総会」を、草津市立町づくりセンターで開催しました。参加者は7名でした。総会では9月26日の「信太山惚ヶ池湿地」の調査計画や、これまでに観察できていないサンプルの今後の取り扱いなどについて話し合われました。また、各自の珪藻研究の進行状況などが報告されました。

8月27日(土)、28日(日)に、琵琶湖博物館で「珪藻研究基礎講座」を開催しました。講師の大塚を含めて6名が参加しました。この講座では研究計画からレポートの書き方まで、珪藻研究の一通りの流れを概観し、実際にやってもらうことを目的にしました。今回のために大塚がテキストを用意したのですが、統計解析ソフトRのプログラムで必要な出力が一部出なかったり、レポートの書き方で最も肝心な全体の構成法を書き逃していることを受講者から説明されたりといった具合で、まだまだ改善が必要でした。また遠くない将来に、バージョンアップした「珪藻研究基礎講座」を、今度は公開で行おうと思います。

9月17日(土)に始まった琵琶湖博物館企画展示「びわ博カルタ」で、たんさいぼうの会の活動が大塚との共同研究という形で紹介されています。読み札は「珪藻に 潜む幾何学 模様かな」で、前会長の有田重彦さんが発見したコアミケイソウの対数螺旋模様が取り札になっています。

9月26日(月)に、「たんさいぼうの小さな旅」で、信太山惚ヶ池湿地(大阪府和泉市)に行ってきました。しかし残念ながら、このニューズレターのめ切がその前日であるため、その詳細をここで述べることはできません。次号ニューズレターで報告します。

## 【活動予定】

10月22日(土)、23日(日)の「日本珪藻学会第36回研究集会(山形)」で、会員の富小由紀さんが発表してきます。他にも何人かの会員が参加予定です。

11月12日(土)、13日(日)の「ありがとう交流会」で、たんさいぼうの会は「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」と共同で「家に普通にあるもの+5,000円くらいの装備でできる小さな生き物観察」の体験ワークショップを行います。現在、パソコンに接続して写真が撮れるマイクロSCOPEなどを、いくつか試しているところです。



## ⑬タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbm.go.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

<タンポポ調査はしかけ、これからも活動します！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続していくつもりです。

2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つっこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。  
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

<2015年の調査が終わり、報告チラシ、報告書ができあがりました！>

「タンポポ調査・西日本 2015」の報告書および結果チラシが、届いています。ご希望の方は上記アドレスまで、あるいは芦谷まで直接お尋ねください。配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

<引き続きメンバー募集中！>

西日本の広域調査は終了しましたが、グループの活動は継続予定です。

今回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)がどうなるか、現時点では決まっていようですが、広域調査を通じて、種類の見わけ方や雑種問題、分布域の違いなど、多くの課題が見えて来ています。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

## 【活動報告】

特に活動はありませんでした。

## 【活動予定】

「タンポポ勉強会」、まだ事務局で調整ができていません。メーリングリストなどで調整をしますので、しばしお待ちください。この勉強会をふまえて、来年の春にはタンポポを観察する機会を作りたいと思っています。



## ⑭田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 39名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: M. J. グライガー, 鈴木隆仁

まだまだ昼間は暑いですが朝晩はずいぶん涼しくなりました。多くの田んぼでは稲刈りも終わり、これから長い休憩に入ります。初夏にざわざわしていた田んぼのエビたちはどうの昔に死に絶えましたが、その卵は今、土の中で眠っています。彼らを研究対象にしている私たちの方は眠るわけにはいきません。集めたサンプルの同定や調査結果の整理が始まっています。



## 【活動報告】

### ■同定会 7月30日(土) 13:30~16:40 博物館実習室1 参加者13名(内子供2名)

各人が主に自分が集めたサンプルの同定を行いました。瀬田地域ではアメリカカブトエビの分布域にアジアカブトエビが侵入しつつあるということから、各田んぼ10匹ずつカブトエビを採集。その結果かなりの数のカブトエビを同定する羽目になりました。カブトエビはカイエビ類と異なり、分類には実体顕微鏡と慣れが必要です。二種類のカブトエビが1枚の田んぼに混在しているケースもあり、初心者はもちろんのこと経験の浅いメンバーは皆同定に四苦八苦しました。同定が終了したサンプルをもとに、地図上にシールを貼り各々のカブトエビの分布を可視化します。結局この日は時間切れで同定が終わり、急ぎよ同定会その2がスケジュールされました。

### ■同定会その2 8月28日(日) 13:30~16:00 博物館実習室2 参加者12名

前回の同定会でやり残したサンプルの同定を行いました。今回は主に高島調査と守山調査のサンプルです。また個人調査のサンプルをたくさんお持ちのメンバーもいて、その方たちもグライガーさんや前田さんの助けを借りながら同定に励みました。自分の担当が終わったメンバーは同定結果をパソコンに入力しました。これはこれでまた時間のかかる仕事です。調査票がきちんと書いてあれば難しくはありませんが、野外調査の最中にきちんと調査票を書くというのは結構大変です。それをさぼるとこの段階で後悔することになります。そうやって調査票の書き方も学習していくのですね。この日で同定はほぼ終了。9月中に各自がデータを入力し前田さんに提出することが決まりました。

## 【活動予定】

### ■報告会 10月9日(日) 13:30~17:00 博物館実習室1

集まったデータをもとに今年度の調査結果を検討します。またこれからの活動予定についても相談しますので、皆さん参加してください。



## ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ)6名】

グループ代表アドレス: [bck@lbn.go.jp](mailto:bck@lbn.go.jp)

グループ担当者: 大塚泰介

## 【活動報告】

### ■8月7日(日) (参加者3名)

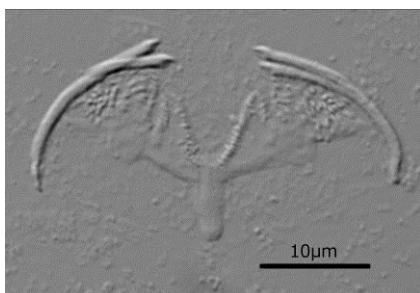
琵琶湖博物館で活動を行いました。今回の参加者は大塚学芸員を含め4名で鳥丸半島湖岸で採集しました。今回ヨコエビはアオコの溜まっていなかったホワイトビーチの東端のマコモの根元で採集しました。これまでの活動で何度かヨコエビを採集していたホワイトビーチの中央あたりではアオコが繁茂していてヨコエビは採集できませんでした。

他にも水草に付着している生き物を観察したところ6月の活動で採集できなかった群体性ワムシに寄生するワムシを今回は2種見つけることが出来ました。このワムシに関しては持ち帰り、後日咀嚼板を観察しました。他にもヒラタミジンコ、カイミジンコなどについて検索図鑑を使い調べました。

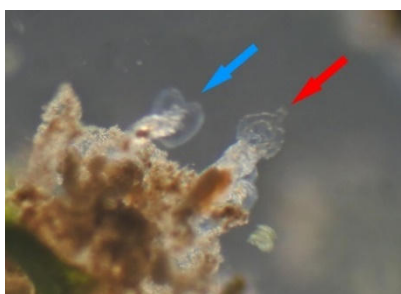
### ■9月22日(木・祝) (参加者3名)

琵琶湖博物館で活動を行いました。参加者は午前1名午後2名でした。午前は水草の付着生物を採集・観察しました。

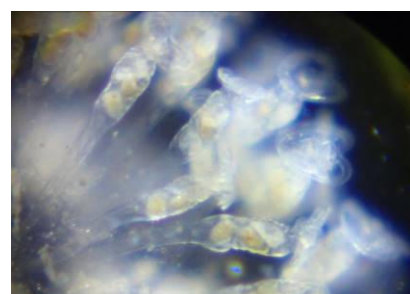
午後は採集した生き物を観察しながら11月に行われるびわフェスの出し物について話し合いました。フェスで琵琶湖の生き物を観察する会のコーナーでは3000円以下で出来るプランクトン観察をテーマにいくつかの安価な顕微鏡やデジタルマイクロスコープを並べ水生生物観察を体験してもらうことになりました。



ワムシ *Acyclus inquietus*  
の咀嚼板 (後日撮影)



群体性ワムシのハナフサワムシ (青矢印)  
とそれを捕食するワムシ *Acyclus* sp. (赤矢印)



2千円以下の携帯顕微鏡  
+コンパクトカメラで撮影

## 【活動予定】

次回の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



## ⑩びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 33名】

グループ代表アドレス: biwatan@lbm.go.jp

グループ担当者: 岡部陽造

4～8月の充電期間を終え、いよいよわくわく探検隊が再開しました。9月は、「マイクロアクアリウムを楽しもう」と題し、博物館のリニューアルと再開を記念して1日イベントとしました。今回は、しがネット受付サービスを利用して参加者を事前募集し、17名の申込を受けることができました。当日、若干名のキャンセルが出ましたが、びわたんスタッフもたくさん集まり充実した再開イベントとなりました。

## 【活動報告】

### ■9月10日(土) 「マイクロアクアリウムを楽しもう ～プランクトンでアート～」 33名

今年度はリニューアルもあり、4月から8月はわくわく探検隊をお休みしていました。リニューアル第一弾プログラムとして9月10日(土)に「マイクロアクアリウムをたのしもう♪」を実施しました。プランクトン博士に楠岡さん、鈴木さんを、アーティストに君平さんをお招きし、豪華な幕開けとなりました。



10時から、プランクトンの採集、観察、スケッチ、プランクトンの立体作品づくり、マイクロアクアリウム内のシアターにて作品発表と15時まで盛り沢山の内容で実施しました。始めから博士の投げ掛けに積極的に手を挙げ発言する参加者のおかげで充実した内容になりました。4歳の男の子が最後の発表まで元気に参加してくれたのは参加者もスタッフもびっくりしましたw(°o°)w☆



マイクロアクアリウム内のシアターでの発表はスタッフも参加者も背筋が伸びましたね! 私も緊張しました! ^\_^;でも、一日の総まとめに相応しい場所でした。協力いただいたびわたんメンバーのみなさん、博士役の楠岡さん、鈴木さん、アーティスト君平さん、ありがとうございました。  
びわたん(いっし〜♪)



## 【活動予定】

- 10月8日(土) 「バイカルの魚たちを見てみよう」
- 11月12日(土) 「秋の色さがし」
- 12月10日(土) 「綿に触れてみよう」



## ⑪ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hone-hone@lbm.go.jp

グループ担当者: 高橋啓一

## 【活動報告】

### ■8月6日(日) 参加者1名

アライグマの解剖を行いました。合わせて、普段使用しているお部屋の整理作業を行いました。普段からできるだけ綺麗に使用したいとは思いつつも、なかなかそうはなってくれず、いつの間にか乱れたままになっている様な所が散見される状態でしたので、久しぶりに整理してみるといろいろな所が目について、どうしたら整ってくれるの

か、どうやったら使い勝手が良くなるだろうか、と考えながら作業していると、こうしたらどうだろうかと少しずつ思いつくことがあり、整理作業なのですが面白がって進められました。

#### ■8月20日(日) 参加者4名

カモの骨の洗浄、イタチの解剖、アライグマの解剖を行いました。  
このアライグマは冷凍庫の中から「発掘」されたもので、解剖の途中の状態です。冷凍庫の中に入れていたものでした。幸い以前のデータが残っていたのでデータのない標本にはならず済んだのですが、標本とそのデータというのはセットで残っていないとその後利用しようとした時に利用しにくい標本になってしまうので、できるだけこのような状態で置かれているものは無いようにしていきたいものです。

#### ■9月11日(日) 参加者1名

イノシシ2体分の解剖を進めました。  
このイノシシは筆者が近所の方から譲っていただいたイノシシなのですが、以前に開催させていただいた展示会の折、どうやら活動の事を知っていただいたようで、近所で死んでいる動物がいるとご連絡いただけるようになりました。  
この活動には標本の素となる動物の死体が必要不可欠ですが、何時でも手に入るというものには無いので、このようなご協力は大変ありがたいです。



#### ■9月19日(日) 参加者4名

アライグマの骨の洗浄、イノシシ2体分の解剖を行いました。

### 【活動予定】

10月、11月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。動物、や骨に興味がある方なら参加・見学大歓迎です。活動見学等をご希望される方は、グループ代表メールまでご連絡をお願いします。



## ⑩緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: [midori-k@lbm.go.jp](mailto:midori-k@lbm.go.jp)

グループ担当職員: 大久保実香

### 【活動報告】

#### ■9月17日(土) 10:00~13:00 場所: 下田の紺喜藍工房(参加者8名)

##### ・藍染体験

下田の紺喜藍工房にて藍染体験をおこないました。染めるものはストール状(約170cm×40cm)の生地を購入しておこないました。藍染体験を通して、伝統ある場所での染めは技法だけでなく、藍と人間の関わりや歴史を感じられました。「染めをする」ということは、「植物からとる染めは本来、人の役に立ってきた。そこに本質的な存在の意味がある。だから、人間は捨てることなく使い続けてきた」と言った方がおられます。日本人として潜在的に持っている知恵や感性を引き出していくそんな作業だとも感じています。

##### <参加者の感想>

☆今日の藍染め体験たのしかったです。みるみる染まってく青色にワクワクしながら、殺菌防虫作用、藍の不思議さを実感しました。ストール、袋、大切に使います。本当に楽しくて、時間があっという間に過ぎてしまいました…。この後の色の変化も楽しみです!

☆今日は有り難うございました。楽しい有意義な一日でした。作品が完成するのが楽しみです。

☆藍染体験とっても楽しく染めることが出来ました。藍染の藍はタデ科の植物で葉を発酵させて染料になるということがわかり、戦国時代の頃から健康維持、疾病予防、解毒の作用で医療目的でも利用されていたらしくとってもいい体験でした。

☆藍染は初めてでしたが、自分で染める楽しさを体験。素敵なストールが出来ました。ありがとうございました。

☆初めての染めでしたが、空気に触れると色が発色するので素材が浮き上がらないようにするのに意外と難しく奥の深いものでした。楽しく、思った以上に満足のいく出来あがりでした。



きれいな色のストールや袋が  
できました！！



### 【活動予定】

- 10月29日 (土) 13:00~16:00 (研究棟2F 研究交流室にて)  
ありがとう交流会のポスター作り、ワークショップ準備
- 11月13日 (日) ※時間と場所は調整中  
ありがとう交流会 ワorkshop開催 (健康茶カフェ)



## ⑱森人(もりひと)

グループ代表アドレス: morihito@lbm.go.jp

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

- 河辺いきものの森見学会 (東近江市) 7月23日(土) 13:00~15:20 参加者:(会員) 8名

内容: 第二期リニューアルで樹幹トレイルが設置されることもあって同種の設備がある川辺生き物の森を見学しました。まずは「林冠トレイル」に向った。構造部は鋼材で作られその上に幅約1.2mの木道と木製の手すりという構造で見た目は木製の歩道橋といった感じです。



階段を登り切ると少し広がった踊り場があり、アベマキの実が間近で見られた。地上12mの林冠部を通る水平な歩道に出ると見晴らしが良く、ケヤキ、アベマキ、クヌギなどの樹冠は更に上にあり、眼下に花をつけたネムノキ、カゴノキなどが見えました。いつもは地上から見上げるだけで手の届かないところにいるタマムシをYさんが手づかみした。皆さん改めてその美しさに驚き写真を撮りまくりました。随所に植物や昆虫に関する説明版が設置され参考になりました。次に行った森の散策路やピオトープは活発なボランティア活動により手入れが行きわたっており快適な散策ができました。10m以上と思われる高木が多く林冠トレイルが設置されているのも肯げます。最後に訪れたネイチャーセンターではパンフレットやセルフガイドマップ、里山の保全活動の説明版、参考図書などが充実していました。中でも森で見られる植物を本にまとめた「植物モリモリ図鑑」を作成し森に入る人に貸し出すことも実施されていました。森人の今後の活動に多いに参考になりました。



- 博物館のC展示に関する勉強会 8月6日(土) 13:30~16時、参加者:(会員) 7名 (博物館職員) 林、草加

内容: リニューアルしたC展示は琵琶湖からヨシ原、田んぼ、里山、川の上流へと遡り自然やそこに住む生物、人の営みがわかるような展示になっています。要所で林さん、草加さんの説明を受けより理解度が深まりました。林や森の保全活動をしている団体の紹介をするコーナーでは森人の活動に関しても樹木説明版やびわ博の森のホームページの紹介があります。さらに内容を追加できるように活動します。これとは別に滋賀の森林景観や動植物をタッチパネルで検索閲覧で

きる設備があり随時写真を追加することによって会員の投稿を期待します。

■竹の伐採作業 8月27日(土) 13:30~16時、生活実験工房、屋外展示の森 参加者:(会員)4名(博物館職員)草加

内容:植栽木に紛れていた種または根から生長したと考えられる真竹が太古の森西側や落葉広葉樹の森に広がってきました。屋外展示の森はできる限り人為的な影響を与えないようにするという方針であるが植栽した樹木を覆う状況になってきたので伐採することにしました。今回は太古の森の西側部分で鋸を使い竹の約1mの高さの節のすぐ上で切り、ナタで枝を払い所定の場所に置くという作業を行いました。蒸し暑い中で作業で1時間くらいの作業が終わる頃には風が通るようになりほっと一息つきました。



竹伐採前(西側道路より)

■竹の伐採作業

9月10日(土) 13:30~16:00 場所:生活実験工房、屋外展示の森 参加者:(会員)4名(博物館職員)林、草加

内容:竹の伐採、ありがとう交流会の打ち合わせなど。竹の伐採作業は前回取り残した西側道路に面した部分と田んぼの西側部分の一部で実施しました。作業後、すっかり明るくなった林内からは琵琶湖の湖面も見えるようになった。二人がアシナガバチに刺されるという不運に見舞われたが幸い大事に至らずほっとしました。

この後、生活実験工房で林さんが持ってきてくれた濃厚なボルネオのお菓子をいただきながら今後の予定などを話し合いました。①びわ博カルタの展示場所の下に若干のスペースがあり何か展示するものがないか検討します。クズの幹の輪切りや樹木の果実などの案がでたが燻蒸が必要とのことで写真などが無難です。②11月12日のありがとう交流会に参加するためポスターの製作とガイドツアーの準備をします。大阪市大の植物園で展示されていた園内の花の写真も参考になります。③樹幹トレイルに設置する説明版の案を今年度末までに作成します。



作業中



竹伐採後の森

【活動予定】

◎9月24日(土)、13:30~16:00 生活実験工房集合  
竹の伐採など

◎10月8日(土)、計画中

- ★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
- ★参加を希望される方は 森人(もりひと) [morihito@lbm.go.jp](mailto:morihito@lbm.go.jp) に連絡ください。

ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: [chikoaso@lbm.go.jp](mailto:chikoaso@lbm.go.jp)

グループ担当者: 澤邊久美子

みなさん、はじめまして。ちっちゃな こどもの しぜんあそび 略して「ちこあそ」はしかけが、この度結成されました！  
おおよそ2歳~4歳(実際は0歳のお子さんやお兄ちゃん、お姉ちゃんも時々)のお子さんとお家の方を対象に、生活実験工房とその周囲の森を使って遊びます。活動は月1回の第3水曜日を予定しています。畑で収穫したお野菜を工房で調理して食べたり(普段家では食べないのに、初めて食べた！と話すお母さんも)、ルーペで幼虫やダンゴムシ、お花などを観察したり、落ち葉で遊んだり、森を探検したりと、なかなか家ではできない体験を、博物館の工房と森を活かして実施しています。



一緒に活動してくださる方も募集中ですので、気軽に遊びに来てください。

## 【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ちこあそ9月	9月21日(水) 10:00-14:00	夏が終わりつつ、秋が近づく博物館の森や野原で遊ぼう！ちこあそ	ルーベでの自然観察、野菜の試食、絵本の読み聞かせ、原っぱでの遊び、森探検 メンバー3人、参加者幼児7名、大人6名、ゲスト1名(絵本作家さん)

～メンバーからのメッセージ～

元環境学習センタースタッフの池田勝と申します。この度、ちこあその一員として活動を実施することとなり、私もはしかけ登録をさせていただきました。ちこあそは、2013年度に環境学習センターのプログラムとして始まり、たくさんの方のご理解とご協力をいただいて実施してきました。そして、この9月から博物館はしかけのプログラムとして定期的に行われていくことになりました。博物館を活かして、良い体験を子どもと保護者の方に提供していきたいと思っております。毎回、子ども達が自然と触れ合い、畑のお野菜を食し、初めての体験をする姿に、お母さん方と感動しています。ぜひ、かわいい子ども達に会いに来てください。  
(池田勝)

## 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ちこあそ10月	10月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	5月に植えた赤米を収穫しようと思っております。

新しいメンバーも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



## 生活実験工房からのお知らせ

※生活実験工房の田んぼでは、“みずかがみ”の稲刈りが終わり、晩稲品種である赤米や、羽二重餅も実をつけてきました。その後の収穫祭に向けての準備も進めています。10月から翌年3月までの行事日程をお知らせします。フィールドレポーターやはしかけの方の参加をお待ちしています。

担当職員: 下松 孝秀

## 【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

- 10月2日(日) モチ米の稲刈り
- 11月23日(水) 収穫祭
- 12月23日(金) しめ縄づくり
- 2月11日(土) わら細工
- 3月11日(土) 一年間のふりかえり

※一般参加者の受付は、9:30からです。

稲刈り等外での作業の場合は、各自、長靴、着替え等をご用意ください。



## 4. はしかけ登録講座

- ・次回はしかけ登録講座は、10月23日(日)です。
- ・場所は琵琶湖博物館セミナー室、13:30から2時間程度です(13:15受付開始)
- ・各グループの活動紹介をお願いします。(各2分程度の発表)。ご都合により自ら活動紹介をすることができないグループは、事前に活動を紹介するプレゼンテーションファイル(PowerPoint形式が望ましい)をご提出ください。

## 5. その他の事項

---

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの [hashi-adm@lbn.go.jp](mailto:hashi-adm@lbn.go.jp) まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成 28 年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。

2016

# はしかけニューズレター

2016年度 第5号 通巻132号

2016年(平成28年)12月1日発行



12-1月

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 妹尾・山本・大塚・下松・大久保)  
住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850  
電子メール: hashi-adm@lbm.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.lbm.go.jp>

## ～ 目次 ～

### 1. 新担当からの挨拶

### 2. びわ博フェス☆2016「ありがとう交流会」

### 3. はしかけグループの活動報告と活動予定

- ①うおの会   ②淡海スケッチの会   ③近江はたおり探検隊   ④大津の岩石調査隊   ⑤温故写新
  - ⑥くらしをつづる会   ⑦古琵琶湖発掘調査隊   ⑧湖(こ)をつなぐ会   ⑨ザ! ディスカバりはしかけ
  - ⑩里山の会   ⑪植物観察の会   ⑫たんさいぼうの会   ⑬田んぼの生き物調査グループ
  - ⑭タンポポ調査はしかけ   ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する会   ⑯びわたん
  - ⑰ほねほねくらぶ   ⑱緑のくすり箱   ⑲森人   ⑳ちっちゃなこどもと自然であそぼう
- 生活実験工房からのお知らせ

### 4. その他の事項

会員数・・・330人  
グループ数 20 グループ  
(2016年12月1日現在)

## 1. 新担当からのご挨拶

このたび、はしかけ制度の主担当者となりました妹尾です。この10月1日に琵琶湖博物館に入ったばかりの新人です。みなさんと一緒に活動しながら、はしかけ制度を学び、さらなる発展を目指して頑張っております。どうかよろしくお願ひいたします。

今、当館は第1期リニューアルを終えて、第2期リニューアルに向けて動いています。第2期は、ディスカバリールームをはじめ交流空間をリニューアルします。はしかけグループの活動もおおいに関係する空間です。これまでと同様に地に足を付けた活動をしつつ、リニューアルに合わせて、はしかけグループの活動の幅を広げていければと思っております。10月の登録講座では、あらたに17名の会員が増えました。一緒にはしかけ活動を楽しみましょう。

活動をしていて、ささいなことでも何か相談ごとがありましたら、電子メール [hashi-adm@lbm.go.jp](mailto:hashi-adm@lbm.go.jp) までお気軽にご連絡ください。

(妹尾裕介)

## 2. びわ博フェス☆2016「ありがとう交流会」

11月12日(土)、13日(日)の2日間、琵琶湖博物館の20周年イベントとして、びわ博フェス☆2016「ありがとう交流会」が開催されました。当日はお天気にめぐまれ、心地よい秋晴れのなか、リニューアル情報発信、アトリウムコンサート、水族展示バックヤード探検、動物ふれあい広場、楽しい体験交流コーナーといった内容盛りだくさんの2日間でした。

はしかけグループには、ポスターによる活動内容の発表、ワークショップの開催で大変活躍いただきました。準備等、大変だったと思いますが、おかげで非常に充実したイベントとなりました。

ワークショップには早々に定員に達したところが出てくるなど、ご来館いただいた方々に好評でした。また、ポスターを熱心にみてくださる方もいて、はしかけ活動に興味をもってもらう良い機会でした。はしかけグループにとっても、日ごろの活動成果を発表する良い場であったと思います。参加いただきました皆様、本当にお疲れ様でした。

今後も、博物館のイベントで活動紹介等をお願いすることもあると思います。ぜひ積極的に参加いただきますよう、お願ひ申し上げます。

(妹尾裕介)



### 3. はしかけグループの活動報告と活動予定



#### ① うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ)53名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbm.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

#### 【お知らせ】

うおの会への参加には、はしかけ会員更新とは別に、年度ごとに会員登録(更新)が必要です。更新手続きが済んでいない方、および新たに入会ご希望の方は、会員登録票(会 HP からダウンロード可)に必要な事項を記入し、うおの会事務局(uonokai@lbm.go.jp)まで送信、または手渡しで提出してください。

#### 【活動報告】

■10月16日(日) 10:00~14:00 第122回定例調査 場所: 安曇川 参加者: 19名

9月の調査が中止となったため、久しぶりの調査となりました。天気は晴れ、暑すぎず寒すぎない気温で絶好の調査日和でした。20名近くの参加者が集まり、4班に分かれて調査をしました。安曇川中上流ということもあり、アマゴやタカハヤ、カジカなどが各班で確認されました(漁協さんへの挨拶を行った上で調査し、全て再放流しています)。また、今年度の調査テーマとしているシマドジョウ類が何地点かで採取されたため、調査後に博物館に届けました。魚以外では、ミズカマキリやアカハライモリなどが多く確認されました。調査後の報告会は各地点のエピソードで大いに盛り上がりました。(竹元冴矢)

■11月12日(土) 11:00~15:30 びわ博フェス2016への出展 参加者: 14名 来場者: 約120名

例年と同様のワークショップ「お魚キーホルダーを作ろう」を出展しました。4年続けての出展となり、会員の運営も手慣れたもので、順調に準備が完了。うおの会とは何者?なぜこのワークショップを企画したの?などを冒頭に説明し、さらに作業のコツを伝えて、スタートです。子どもたちの手で、独創的な色に塗られたカラフルなナマズやカネヒラが次々に完成し、トスターに運ばれ、職人技により仕上げられていきます。今回は通常のストラップのほか、色付きのひもを用意しましたが、こちらも好評だったようです。約80名の定員は早々に予約で埋まり、他のワークショップを実施しているはしかけさんが見学に来て下さるなど、盛況なうちに終わることができました。(中尾博行)

■11月20日(日) 10:00~14:30 第123回定例調査 場所: 天野川 参加者: 20名

早朝の濃霧、そして小雨混じりの天候にもめげず、一人の欠席者もなく20名全員が揃いました。調査は20名を4つのグループに分け、天野川本流、支流の弥高川、梓川、黒田川で行いました。午前中は雨模様でしたが午後はお天気も回復し、寒くもなく紅葉も美しく、晩秋としては楽しい調査になりました。

確認された魚は、カワムツ、アブラボテ、ヨシノボリ、ドンコ、アブラハヤ、タカハヤ、ドジョウ、オイカワ、フナ、カマツカ、カジカでした。最も多くみられたのはカワムツで、アブラボテは婚姻色の残るオスが捕獲されました。ホテルを売りにしている地域だけあって、あちこちに保護の立て看板があり、驚いたことにカワニナ養殖場までありました。サワガニ、ヤゴ類、水草も豊富で、湖北の豊かな川でした。

最後に、小学生の男の子たちの活躍が光る調査でもありました。やっぱり若いっていいなあ。

(石井千津)

#### 【活動予定】

■1月15日(日) 勉強会 場所: 琵琶湖博物館

■2月19日(日) 勉強会 場所: 琵琶湖博物館



#### ② 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ)6名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原 徹・榎永一宏

#### 【活動報告】

■11月23日(日) ありがとう交流会準備 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 6名  
パネル展示制作。はしかけ登録講座参加。

■11月27日(日) 11:00~15:00 場所: 草津市志那町 内湖駐車場集合

## 【活動予定】

■12月11日(日) 10:00～ 場所：琵琶湖博物館2階研究交流室

来年の予定について話し合います。

スケッチ候補地についての資料がありましたら、ご持参ください。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



## ③ 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: [oumihataori@lbn.go.jp](mailto:oumihataori@lbn.go.jp)

グループ担当職員: 渡部圭一

## 【活動報告】

### 企画展示協力

企画展示「びわ博カルタ」に展示しています。はたおり探検隊の札は「わ」。「綿を繰り 糸を紡いで 機を織る」です。

### 織姫の会

■9月28日(水) 参加者:4名

地機にセットする作業を行いました。まず、地機を組んで前回作成した経糸をセットし、中筒、綜紵をつけて織れる状態にしました。

■10月12日(水) 参加者:3名

地機が織れる状態になったので、まず緯糸を管巻きしました。織り始めるとすぐに緯糸がなくなるので、多めに管巻きしたので、午前中いっぱいかかりました。午後から織り始めましたが、糸が切れてなかなか進まず。

■10月29日(土) 参加者:4名

各自の作業。地機織りの続きや糸紡ぎなど。

■11月9日(水) 参加者:2名

各自の作業。地機織りの続きや糸紡ぎなど。



地機を織り始めました

### その他

■11月20日(日)「朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト」協力 参加者:6名

朽木資料館で「朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト」主催の「苧績み体験」のイベントがあり、はたおり探検隊でお手伝いに行きました。

地元のおばあちゃんたちによると、麻を績むときにはイロリの灰を指につけて績むとよいとのこと。実際にやってみると、灰のザラザラした感じが滑り止めになって績みやすくなることがわかりました。実際にやっていた人に聞くと大事なコツがわかりますね。

当日は小雨が降る中、次々と見学の方々が来られて忙しく過ごしました。チラシを見てこられた方や偶然来られた方などいろいろでしたが、熱心に苧績みされていました。



苧績み体験

## 【活動予定】

■織姫の会

11月30日(水)、12月10日(土)、24日(土)、1月7日(土)、25日(水)、2月4日(土)、22日(水)、3月8日(水)、25日(土)

■12月10日(土) びわたん「綿に触れてみよう」協力

昨年度も参加したわくわく探検隊「綿に触れてみよう」に今年も協力します。スピンドルでの糸紡ぎに人手がいるので、ご協力をお願いします。

(辻川智代)



## ④ 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)13名】

グループ代表アドレス: ganseki@lbm.go.jp

グループ担当者: 里口保文

### 【活動報告】

■10月10日(月、祝日)の活動 10:00~16:00 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 6名

調査活動範囲を広める第1回目として、滋賀県の代表的岩石である湖東流紋岩類と花崗斑岩の見られる近江八幡の長命寺近辺の調査を実施。湖東流紋岩類の瓶割山凝灰岩1か所、次に奥島溶結凝灰岩2か所の調査を進めた。写真のように湖東流紋岩類の中に他の石が取り込まれている岩を見つけ、今は火山がない滋賀県にも火山があったことと、火山活動の凄さを改めて実感した。その後、湖岸の綺麗な花崗斑岩を調査した。夏は博物館での屋内勉強会だったが、久しぶりの野外調査で皆さん満足した。写真は湖岸で花崗斑岩を調査するメンバー。



■11月11日(日)の活動 10:30~16:00 参加者: 7名

調査活動範囲を広める第2回目として滋賀県の代表的な山である近江富士、三上山の全体の調査を実施。現地集合し、三上山に詳しい隊員の案内で主な登山道はもとより側道、余り人に知られていない場所の岩の調査をした。今回の調査域は多くのハイキング客が訪れるので皆さんの安全を配慮し、先導としんがりを最初に設定し、また、ハイカーを優先してもらおうようにして調査を進めた。三上山は殆どチャートやその風化土壌から構成されている。チャートからなる岩石が多く露出し、独特の山容を構成している。また、崩れそうな崖も存在している。クラックも見えるが、一見ではそれは拡大していないように見える。鏡肌や断層を示唆する部分はあった。しかし角礫岩やガウジは確認できなかった。また、水のしみ出しや、谷はあまり発達していない等が分かった。この付近にはチャートが主構成岩である山が多い。その中で、三上山は特異な山の形状とも思える。本格的に調査し、あの山容の構成因子を纏めるのも面白いかもしれない。写真は、岩の上の、熱のこもった説明に聞き入る場面。



### 【活動予定】

■12月17日(土)

■1月20日(金)

博物館にて勉強会。(日暮れも早くなり、降雪なども予測されるので)



## ⑤ 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ)10名】

グループ代表アドレス: onkosyasin@lbm.go.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

### 【活動報告】

■10月15日(土) お出かけ撮影会 場所: びわ湖パレイ 参加者: 8名

久しぶりとなったお出かけ撮影会でびわ湖パレイに行きました。幸い天気もよく、琵琶湖を一望することができ、鳥の目の目線で琵琶湖を撮影できました。また、少し山頂を歩いて小女郎が池にも行きました。

■11月11日(金) びわ博フェス2016への出展準備 場所: 琵琶湖博物館 参加者: 3名

温故写新では、「おすすめの琵琶湖の風景」を紹介するため、ホール前のスペースで写真展の準備を行いました。黒バックの中にみなさんの力作を飾る作業を行ない、次の日からの展示に備えました。

■11月12日(土)・13日(日) びわ博フェス2016への出展・写真撮影 参加者: 7名

写真展「おすすめの琵琶湖の風景」での来館者との交流や、館内の様々なイベントの記録撮影を行ないました。写真展では、いろいろな風景を紹介でき、来館者の方へ琵琶湖の魅力も伝えることができたのではないかと思います。

## 【活動予定】

■12月10日(土) 9:30~12:00 第4回写真の撮影講座 場所:琵琶湖博物館会議室

一眼レフカメラだけではなく、コンパクトデジタルカメラや携帯・スマートフォンでの撮影方法、撮影のコツやカメラ用語などについてわかりやすく解説する講座です。

また、今回は撮影後にちょこっと行なうと写真が際立つ画像の処理の仕方についても紹介し、実践として、当日開催されている「アトリウムコンサート」での記録撮影を行います。

温故写新のメンバーだけではなく、他のはしかけグループの皆さんも興味がありましたら、ぜひ参加いただければと思います。皆さんの参加をお待ちしております。

■1月14日(土) 9:30~12:00 場所:琵琶湖博物館会議室

大橋コレクションの整理作業を行ないます

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、琵琶湖博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行います。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



## ⑥ 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

## 【活動報告】

これまでお聞きした話の中からいくつかのエピソードを、11月12日・13日の「ありがとう交流会びわ博フェス」で、ポスターにまとめて発表しました。

おじいちゃん、おばあちゃんのお話を聞かせて頂くようになって、5年が過ぎました。子供たちが縁側でおじいちゃん、おばあちゃんの話聞くように、のんびりとむかしの話が聞きたいと始めた聞き書きですが、伺った地域は、長浜市余呉町、近江八幡市安土町、白王町、草津市南山田町、信楽町多羅尾など5つの地域になりました。お話の中から、みんなの暮らしを見つめてきた琵琶湖の姿も時代とともに変化してきたのがわかります。

車が普及する前、琵琶湖周辺に暮らす人々にとって、舟は主要な交通手段でした。田んぼに行くときはお弁当を積み込んで、また大きな牛などを運ぶときは2艘の舟に大きな板を渡してその上に牛を乗せて運びました。また、いりくんだ内湖を「中の海」琵琶湖のことを「外の世界」と呼ぶ地域もありました。

北部の山間部で炭焼きをされた炭は北の港で船積みされ、琵琶湖を北から南に運ばれ、京都へ運ばれました。漬物用の大根なども舟で浜大津などの港に運ばれそこから京都で漬物になりました。昭和の初めは汽船が人々を運んでいました。

守山の港からは、昭和の初めの頃、京都に奉公に行く娘さんを乗せた船が大津に向かって出港し、娘さんは守山の方向を見つめ、涙が出て仕方がなかったそうです。

車が普及する前、琵琶湖大橋、近江大橋などのできる前、「琵琶湖は結構頑張っていたんだな」、「私たちの暮らしを支えていたんだな」と改めて思います。

おじいちゃん、おばあちゃん達のお話の中には、「美しい琵琶湖の様子」や「荒々しい怖かった思い出」や「自然からの恵み」の話がたくさん出てきます。

そんなお話の中に、未来の琵琶湖の姿も見ることできるような気がします。



## 【活動予定】

次回は、琵琶湖周辺にお住いの漁師さんの予定です。



## ⑦ 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス:hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員:高橋啓一

### 【活動報告】

■9月25日 野洲川での足跡化石観察 場所:水口こどもの森自然館、野洲川新生橋周辺【講師:岡村先生】参加者:11名  
 午前中は水口こどもの森自然館で、足跡に関する座学を岡村先生に開いていただきました。座学では、様々な足跡の種類やその出来方を学びました。足跡のなかに、さらに足跡が隠れている場合があることや、足跡の外線だと思われる線が必ずしもそうではなく、本当の足跡はもう少し小さい場合があることなどを学びました。参加者全員、岡村先生のお話を熱心に聞き、「こんな足跡の出来方があるのか」、「足跡からこんな考え方が出来るのか」など、驚きの意見が数多くありました。  
 午後からは、野洲川で実際に足跡化石を観察しました。足跡の凹みに溜まった砂や泥を箸で取り出し、観察しやすくし、一生懸命観察しました。午前中の座学のおかげか、皆さん、次々に足跡を見つけ、何の足跡か、なぜそう思われるのかを考えて、岡村先生に説明するなど、積極的に活動することが出来ました。今回の観察では、サイ、ツルの仲間、ゾウ、シカなどの足跡を観察することが出来ました。今後も足跡化石の勉強会を行い、足跡化石に関する知識、観察スキルをさらに高めていきたいと思ひます。



様々な足跡の説明を受けました



足跡がある地層の断面を観察



一生懸命足跡化石を観察



サイの足跡化石発見!

10月は「はしかけ登録講座」を女性会員さんにお願ひしました。参加者が少ない中「古琵琶湖発掘調査隊」をPRして頂きました。結果、多くの方が興味を持って頂く事ができました。

10月の「はしかけ活動」は諸事情により中止しました。

■11月3日 野洲川での地層観察 場所:野洲川新生橋周辺【講師:里口先生】参加者:9名

野洲川新生橋周辺で地層の観察会を行いました。各層の厚さによって昔、どんな環境であったかを予測してみたり、層のなかにある模様から、どのように堆積していったかを考えたりしました。地層には、昔の環境を知る手がかりが数多く隠されているということを改めて知りました。



里口先生に丁寧に教えていただきました



地層に触れることで何かひらめくかも

### 【活動予定】

12月⇒古気候環境についての勉強会



## ⑧ 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

11月13日(日)、ありがとう交流会で久しぶりに紙芝居を上演しました。通常のアトリウムで上演する時とは違い、会議室の時には、紙芝居～「生きている琵琶湖」合唱～ヨシの話～ヨシを使ったビービー笛での合奏といろいろなことが出来るので、子どもたちとより一層楽しく交流できました。小さい子どもたちを連れた来館者の方々も、展示を見るだけでなく、プラスの楽しみがあれば、新しい発見をしてくれるのではと思いました。

### 【活動予定】

2月5日(日) 13:00～ 紙芝居上演 場所: 実習室2



## ⑨ ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@lbm.go.jp

グループ担当者: 澤邊久美子, 鈴木隆仁, 森智美, 片淵綾香

20周年のありがとう交流会、大盛況のうちに無事終了しました。たくさんの方に来ていただき、大変混雑しましたが、皆さんそれぞれ、素敵な作品を作ってくれました。最後は、ラッピングをして持って帰ってもらいました。



まつぼっくりにも、  
いろんな形があるよ。

### 【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ありがとう交流会	11月13日(日)	まつぼっくりで作ろう!	好きなまつぼっくりと台を選んで、木の実やリボンなどで素敵に飾り付けをしました。たくさんの方が参加していただき、定員を超える方に楽しんでもらいました。 参加者 50人+α



おきにいりのまつぼっくりを念入りに選んで・・・



自分だけの作品のできあがり☆

### ～メンバーからのメッセージ～Vol.28

沢山の方が参加して下さり、良かったと思います。子供さんはもちろん、大人の方も楽しんで頂いたのが、嬉しかったです。反省点としては、部屋に沢山のお客さんがいて、座れない方も出てきてしまったので、人数の制限などを考えた方が良かったと思います。あとは、割り当てられた準備時間があまりなくて、大変だったことです。

(吉野)

### ～メンバーからのメッセージ～Vol.29

私達ディスカバはしかけのブースは日曜の午後3時～5時だったので、子供達来てくれるかなあ～と思っていたのですが・・・

びっくりするほどの人々がつくりに来てくれました。うれしくて大変な2時間でした。みんなステキな作品を見せてくれて良かったなあ～、ありがとう。

反省としては、当日準備の時間が少なくてバタバタ！！前日に机を運び込んでいたので、なんとか時間通りに開けることが出来ました。

(柳原)

### ～メンバーからのメッセージ～Vol.30

オープン前、入口でちょっぴり不安げな顔で待っていた子どもたち、いざ始まると、どんどん意欲が出て来てオリジナルのすばらしいクリスマスツリーが出来上がりました。最後に作品をステキな袋に入れましたが、満足そうに帰ってゆく子どもたちやお母さんたちの笑顔に出会い、こちらもうれしくなりました。

(荒井)

### 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけイベント	12月または1月(未定)	お手玉づくり	毎年恒例、豆や木の実などを使ったお手玉づくりをします。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！



## ⑩ 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 55名】

グループ代表アドレス: satoyama@lbm.go.jp (登録会員数 39名)

グループ担当者: 安福俊幸

### 【活動報告】

■10月9日(日) 里山体験教室(秋) 下見 参加者: 4名

■10月16日(日) 里山体験教室(秋) 本番 参加者: 15名

秋晴れの中、8家族27名の参加があり、すばらしい秋空の下、午前中は、はしかけの森周辺の自然観察を行い、栗拾い、黒く色づいた甘いムクの実、たくさん実ったアケビとりを楽しみました。午後からは、森の素材や竹を使った笛や竹琴などの楽器づくりにチャレンジしました。その後、みんな一緒に「琵琶湖周航の歌」や「ふるさと」を合奏し、森の音楽会を満喫しました。

(吉井)



■10月29日（土）ありがとう交流会準備 参加者：10名

多賀町高取山公園・木工センターで、11月13日の「ありがとう交流会」の下準備を行いました。参加者10名（大人6名、子供4名）で、「名札、メモ・ペン立てづくり」素材をヒノキ、コナラ枝材から約180個つくりました。11月13日には、来館者の方々に森からの贈り物として、「名札、メモ・ペン立てづくり」のイベントを行う予定です。

準備作業終了後には、七輪炭火とダッチオーブンでピザ・焼きいもランチをいただきました。子供たちもお喜びで秋の一日を楽しみました。（吉井）



■11月13日（日）ありがとう交流会 参加者：12名

快晴に恵まれ、琵琶泊生活実験工房前の広場で、来館者の方々に木の名札、ペン・メモスタンドづくりを楽しんでいただきました。本日は里山の会会員12名で手分けして、彦根高取山で準備した木工素材の説明や、子供会員による素材手渡し、そして、のこぎり・電気ドリルの使い方のお手伝いなどして、延べ約150名の方々に名札112個、ペン・メモスタンド49個を作っていただきました。はじめて、ノコギリやドリルを使った子供たちも多く、貴重な工作体験を楽しんでいました。もちろん、完成した作品は、宝物のように持って帰られました。（吉井）



■11月19日（土）秋の里山観察会下見 参加者：1名（「琵琶湖博物館」「カワセミ自然の会」共催）

■11月20日（日）大篠原秋の里山遊び 参加者：13名

どんよりした天気でしたが、はしかけの森に会員13名が集まり「秋の里山遊び」を開催しました。天気が良ければ、まず春に設置した鳥の巣箱の手入れをする予定でしたが、前日の雨で足元が悪いので予定を変更して、午前中大人は丸太コンロ作り、子ども達は森の中の基地で遊んだり、干し柿作りをしました。丸太コンロは簡単に作る事が出来ておりましたが、なかなか木を切ることが出来ず大変でした。それでも昼食では丸太コンロで餅、ウインナーを焼き、また段ボールを利用した燻製ではウインナー、チーズ、ゆで卵をおいしくいただきました。

昼食後は巣箱の観察、段ボールを使ったソリ遊びをして楽しい1日が終わりました。（安福）



【活動予定】

- 11月26日（日）秋の里山観察会 本番
- 11月27日（日）ソバ刈取り（中止）
- 12月11日（日）ソバ脱穀・洗浄&ふり返し
- 1月8日（日）ソバ収穫祭&里山体験教室（冬）下見
- 1月15日（日）里山体験教室（冬）本番





## ⑪ 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス:shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

植物観察の会は、2004年の企画展「植物がうごくとき〜のびる・ひらく・ひろがる」の時に、多くのはしかけさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

カジュアルな観察会を長年にわたり開催してまいりましたが、2016年3月末で講師の布谷さんが三重県総合博物館の館長を退職されることになり、琵琶湖博物館の展示リニューアルその他の予定が落ち着くまで、観察会をお休みして、2016年10月以降に年度内1、2回の観察会を開催する予定でした。前号でもお知らせしたように、このまま観察会を同じように続けても、はしかけの自主的な活動にはならないと考え、少し方針を変えることにしました。

「植物を観察する」という初心に帰るという意味で2016年度の後半は、座学の会を開いています。

折しも第二期リニューアルでは、「(仮称)大人のディスカバリー」という空間も出来る予定で、そこでは植物を観察するきっかけになる展示コーナーを持ちたいと考えています。これまで植物観察の会で蓄積できたものがあれば、その展示にも生かしていきたいと考えています。

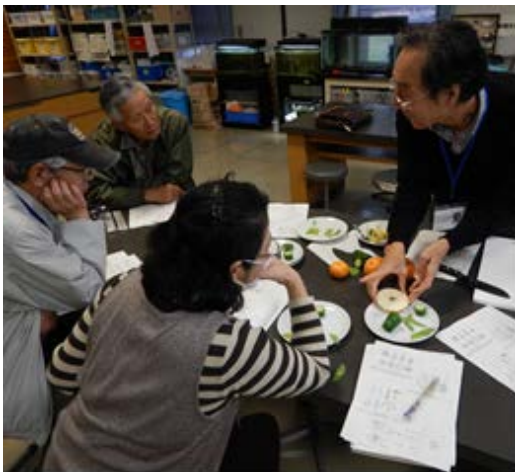
この「新生」植物観察の会について、一緒に計画を立ててくださる方を募ったところ、少し反応をいただきました。引き続き、協力者を求めています。屋外の観察会、室内の座学や実習など、企画を一緒にしませんか？

これまで参加なさった方のご感想やご意見も、広く募集します。上記アドレスまで、お寄せください。

基本的に、何も決めずにこれまでのような観察会を引き続き開催することはありませんので、もし新しい方針ができなければ、2016年度をもって一度このグループを解散することも視野にいれていきたいと思えます。

### 【活動報告】

2016年11月20日(土)に、琵琶湖博物館で座学「食卓の植物学」を開催しました。布谷知夫さんを講師に迎え、実習室で色々な野菜や果物の断面を見ながら、花の構造、果実の構造、種子ができる場所などについて、実物を見ながら勉強しました。特に、植物の花のパーツが、実は葉由来であることを、紙で作った葉を折り曲げたりしながら、どこに種子ができるのか、果実のなかがいくつに分かれているのかなど、リンゴやミカンの断面などを見ながら観察しました。



### 【今後の活動】

2016年12月～2017年1月は、特に活動の予定はありませんが、下記のような座学を計画中です。2017年2月か3月になる予定です。決まり次第、ニュースレターでお知らせしますので、ふるってご参加ください。

#### <2017年勉強会「(仮称)植物図鑑の使い方」>

植物を調べる時に欠かせないのが、植物図鑑です。といっても、何か難しそうなのが沢山書いてあるように見え、なかなか手を伸ばす気にならない方も多いのではないのでしょうか。今はネットなどでも、ある程度の調べ物は可能ですが、その場合も書いてある説明を理解しようとするには、まずは図鑑が使えるようになることが基本です。

敬遠しがちな植物図鑑の使い方を、実物の植物を手に実践的に学びましょう。

日にち：調整中。次号でお知らせします。土日祝日の午後からの開催になる予定です。

講師：布谷知夫さん

場所：琵琶湖博物館（詳細は未定）



## ⑫ たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

### 【活動報告】

9月26日(月)に、「たんさいぼうの小さな旅」で、信太山惣ヶ池湿地(大阪府和泉市)に行ってきました。惣ヶ池湿地は、おそらく大阪に現存する唯一のまとまった規模の中間湿原です。たんさいぼうの会からの参加者は4名、NPO法人信太の森FANクラブの田丸理事長に導かれて調査を行いました。ちょうどコバナノワレモコウが花盛り、湿地の周縁部にはオオミズゴケも生えていました。湿地のまわりの道端に生えていたシロオニタケ(右の写真)が、雪だるまみたいで印象的でした。湿原の水質は、電気伝導度が116-147  $\mu\text{S}/\text{cm}$ と比較的高いのに、pHは4.2-5.7と低く、無機酸性が疑われます。試しに珪藻のプレパラートをつくってみたところ、こちらも何だか不思議な種組成。今後の研究にこうご期待。



10月22日・23日に開催された日本珪藻学会第36回研究集会(山形市蔵王温泉)に2名の会員が参加し、以下の発表を行いました。

富小由紀・大塚泰介・中村優介・中西康介・石川俊之(滋賀大・教育):

#### 水田における珪藻出現パターンのGLMを用いた解析

この発表が何と！この研究集会の最優秀発表賞を獲得しました!! 富さん、おめでとう!

11月12日(土)、13日(日)の「ありがとう交流会」で、たんさいぼうの会はポスターを2枚出展しました。1枚は4年ぶりに更新された会の活動紹介、もう1枚は会員の三村さんの「山室湿原の珪藻」に関する研究発表です。

その三村さんが、山室湿原の珪藻についてまとめた論文

Mimura, T. & Ohtsuka, T. 2016. Diatoms of Yamamuro Moor, a Sphagnum moor situated in the warm-temperate zone in Shiga Prefecture, central Japan. Diatom32.

が、もうすぐ出版されます。この2週間ほど、三村さんと影の会長の2人で、論文の著者校正をしていました。

### 【活動予定】

12月18日に琵琶湖博物館で開催される「第7回 琵琶湖地域の水田生物研究会」で、会員の富さんが発表します。朝1番(10:35~)のお客さんが少ない時間帯なので、ぜひとも賑やかに聞きに来てやってください。

1月の新年総会&新年会の日程は、まだ決まっていません。これから急ピッチで決定していきますので、新たにご参加希望の方は上記代表アドレスまでお問い合わせください。



## ⑬ たんぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: M. J. グライガー, 鈴木隆仁

ついこの間まで暑いと思っていたのに、急に冬がやってきました。秋らしい気候はどこへ行ったのでしょうか。稲刈りの終わったたんぼは寒々としています。たんぼの生き物たちは卵の中で春の夢を見るのでしょうか。しかし私たちの今年の活動はまだ終わっていません。

### 【活動報告】

■10月9日(日) 13:30~16:40 調査結果の報告会 場所: 琵琶湖博物館実習室1 参加者: 11名

調査結果の報告の前に、各イベントの参加・その形式等について報告及び話し合いが行われました。企画展ではすでに前田さんがアジアカブトエビ調査についてのポスターを展示しています。

■10月23日(日) はしかけ登録講座

前田さんがグループの紹介をしました。

■11月12日・13日 ありがとう交流会

ポスター展示のみ参加。

■11月17日 日本動物学会

日本動物学会でグライガーさんがグループの代表としてアジアカブトエビ調査の結果を発表。

調査結果を発表にまでまとめるには、得られた情報をもとにじっくり考えることが必要です。単に野外で生物を採集するだけでなく、その調査で何がわかったかを考える癖をつけなければなりません。そのことが次の調査につながるのです。できれば調査にかかわったメンバー全員が何らかの形で発表を行えたら良いと思います。

・大津市東部山側（勅周辺）調査の結果

これまで報告のなかった石山寺周辺でアジアカブトエビが採集された。

・瀬田調査

全体的にアジアカブトエビが多いが、比率に大きな変化はない。

カブトエビに比較して他のエビ類が少ない。

アジアとアメリカの両種のカブトエビが混在している田んぼがあり、今後の成り行きが気になる。

・信楽調査

目的は2013年の台風による増水がエビ類に与えた影響であった。

昨年度・今年度の調査ではエビ類の生育している田んぼが台風前に比べ倍増。

特にトゲカイエビ、ヒメカイエビが増加している。

以上3つの調査について結果が報告された時点で時間切れとなりました。残りの守山調査、および個人調査についての報告と検討は次回持ち越しとなりました。

\*なお、新入会（正確に言うと再入会）の武田繁さんが今回から参加されました。

**【活動予定】**

■12月4日（日）13:30～ 報告会 場所：博物館実習室1

守山調査及び個人調査の報告と検討を行います。またこれからの活動予定についても相談しますので、皆さん参加してください。10月のはしかけ登録講座から新メンバーが入会されました。川北 浩史さんです。参加をお待ちしています。

■12月4日（日）13:30～17:00 交流会 場所：草津市立まちづくりセンター（301・302会議室）

過去に助成を受けていた「夏原グラント」の交流会にポスター1点を展示します。

■12月18日（日）10:00～16:55 研究発表 場所：琵琶湖博物館ホール

第7回琵琶湖地域の水田生物研究会でグループを代表し、山川さんが「洪水に見舞われた滋賀県の水田における大型鰓脚類の分布の拡大について」と言うタイトルで発表を行います。

（石井千津）



**⑭ タンポポ調査はしかけ**

**【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】**

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbm.gp.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

**<タンポポ調査はしかけ、これからも活動します！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>**

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続していくつもりです。

2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つっこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています

タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。

一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

<2015年の調査の報告チラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！>

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシが、届いています。ご希望の方は上記アドレスまで、あるいは芦谷まで直接お尋ねください。配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

<引き続きメンバー募集中！>

西日本の広域調査は終了しましたが、グループの活動は継続予定です。

今回の調査（2019年予備調査、2020年本調査）がどうなるか、現時点では決まっていようですが、広域調査を通じて、種類の見わけ方や雑種問題、分布域の違いなど、多くの課題が見えて来ています。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

【活動報告】

特に活動はありませんでした。

【活動予定】

「タンポポ勉強会」を計画中です。メーリングリストで連絡します。



⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: [bck@lbn.go.jp](mailto:bck@lbn.go.jp)

グループ担当者: 大塚泰介

【活動報告】

■10月30日(日) 参加者: 7名

今回は11月に行われるびわ博フェスのワークショップについての準備・役割分担などを行いました。ワークショップでは「5千円+家庭にあるもので出来る小さな生き物観察」というテーマで行いました。

午前は少しワークショップについて話し合った後、いつも通り湖岸で生き物の採集を行いました。

午後は採集した生き物を5千円以下の道具を使って観察を行いました。

■11月13日(日) 参加者: 7名

ありがとう交流会でワークショップを開催しました。ワークショップは13時からでしたが会員は準備のため10時に集合して顕微鏡で見るための生き物の採集や仕分け、看板の作成を行いました。

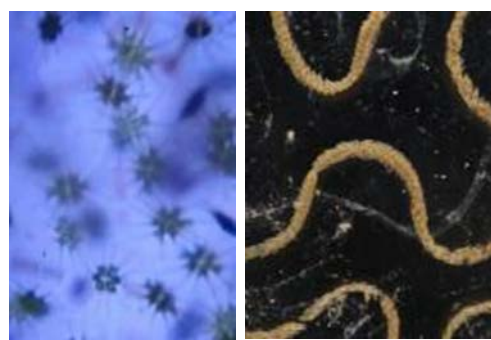
当会初めてのワークショップだったので内心どきどきしていたのですがメンバーのおかげで楽しい催しになりました。



ワークショップの  
看板とのぼり



ワークショップの様子



展示していた生き物の一部

左:ミクラステリアス 右:アカムシスリカの卵塊

【活動予定】

次回の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



10,11 月は従来のプログラムに工夫を加え、バージョンアップした<わくたん>になりました。お魚モバイルづくりは平面から立体へ！秋の色探しは1 ページ絵本づくり！と企画担当者（しゅうさん・みちるん）が大奮闘してくれました。早くから材料の確保や下準備を進め、当日を迎えることになりました。バイカル湖へ出張から直帰した金尾学芸員の登場（10 月）にわくわく、なつかしの布谷元学芸員の登場（11 月）にわくわくと、わくわく探検隊にぴったりのサプライズもありました。

【活動報告】

■10月8日(土)「バイカルの魚たちを見てみよう」参加者:36名

今月のわく探は水族展示室の仲間として加わったバイカル湖の魚やアザラシについて魚博士からお話を聞き、その後に実際の魚たちを見てスケッチしラミネートした平面作品と、ペットボトルを利用して作った魚の立体オブジェとを合体してモバイルとして完成させるイベントに挑戦しました。



まずは魚博士の小林さんからバイカル湖の魚のお話があり、メモをとったりして皆熱心に聞いていました。特にペットボトル工作で使用する「サケ」の型紙に「油鱈」が表現されていないという指摘があり琵琶博で準備する教材には安易な妥協はしてはならないと反省しました。水族展示室でのスケッチは 30 分程度しか時間が取れませんでした。参加者の描写力は高く魚の特徴をととてもよく捉えた力作揃いでした。



更にバイカル湖出張帰りの金尾さんが空港から直接イベントに参加いただき、ホットなバイカル湖情報をスライドで説明いただくというサプライズもありました。最後はペットボトルで「サケ」や「カジカ」を模した魚やバイカルアザラシのマスコットを制作しモバイルに仕上げました。やや「てんこ盛り過ぎ」の内容で時間がオーバーしてしまいましたが皆さん満足して帰られました。お疲れさまでした。

びわたん（しゅうさん）

■11月12日(土)「秋の色さがし～1ページ絵本をつくろう!～」参加者:26名

わくわく探検隊で何度か実施してきた「秋の色さがし」プログラム。今回は、色に注目しながら自分たちで探してきた自然のものを画用紙に貼って思い思いの作品を作るという内容で実施しました。びわたんメンバー大集合となり、にぎやか&なごやかな雰囲気の中スタート。まずは、「なぜ、秋になると色づくのか?」について特別ゲストの布谷植物博士に説明してもらいました。わかりやすい説明に、みんな真剣に耳を傾けていました。



続いて屋外展示で秋の色さがし。最初は、どんぐり拾いに夢中になっていた子どもたちでしたが、だんだん、色や形に目を向ける様子をみせてくれました。中には葉脈だけ残った葉っぱを集めている子も。色さがしの後は、「秋の色パレット」と名付けたワークシートの上で探してきたものを色ごとに分けてから、作品作り挑戦。保護者もびわたんも一作品作ることに。「私、こんな作るん好きやね〜ん!」とうれしそうにしているお母さんを筆頭に大人も黙々と手を動かしていました。



できた作品は表紙をつけて絵1ページ絵本に。葉っぱや木の実でステゴザウルス、ウサギ、クリスマスリースを形づくったものから、どんぐりをたくさん貼り付けて散歩道表現しているものなど個性豊かな作品が並びました。最後に行った作品鑑賞会では、恥ずかしそうに、でも誇らしげに自分の作品を発表している姿やお互いの作品に興味深げに見ている姿がとても印象的でした。どの作品もあまりに素敵なものだったので、作品展込みのプログラムを企画したいなあとか、季節を変えてしたらまた違った作品ができるんだろうなあとか新たな野望が…時間が足りないという反省点を活かしつつ今後、さらなる展開を繰り返したいと思いました。

びわたん (みちるん)

### 【活動予定】

- 12月10日(土) 「綿に触れてみよう」
- 1月14日(土) 「水鳥を観察してみよう」
- 2月11日(土) 「火起こし体験」



## ⑰ ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス: hone-hone@lbm.go.jp

グループ担当者: 高橋啓一

### 【活動報告】

- 10月22日(土) 参加者: 1名

アライグマの骨の洗浄作業、を行いました。

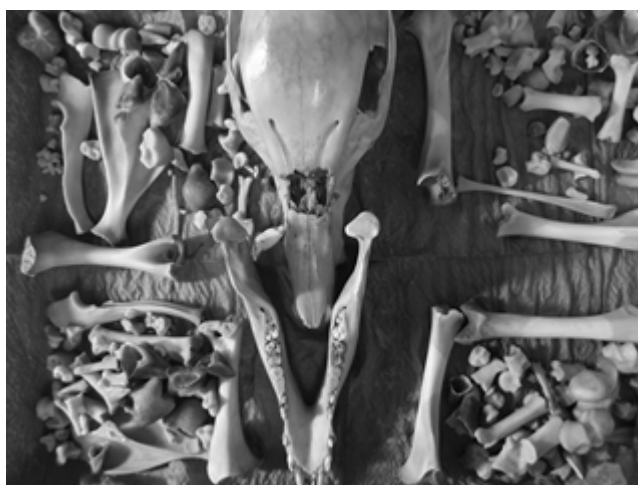
- 10月23日(日) 参加者: 1名

はしかけ登録講座において活動紹介を行いました。

筆者は人前になると極端に緊張してしまう性質なので、この活動紹介をかなり苦手としているのですが、ほねほねくらぶの活動を紹介できる大切な時間ですので、出来るだけ面白さが伝わる様に工夫をしていければと思います。

- 10月30日(日) 参加者: 3名

ネコの解剖、ニワトリの解剖、キジの解剖、アライグマの骨の洗浄作業を行いました。



- 11月12日,13日(土、日) 参加者: 7名

ネコの除肉、ニワトリの解剖、キジの解剖、と琵琶博フェスの開催に合わせて、来館者の方達との交流活動を行いました。

普段の活動では標本の制作を優先させてしまい、なかなか交流活動などを行う機会を持つ事が出来ていないので、催し物などがあると、それに合わせて取り組んでみようというきっかけになるので、ほねほねくらぶの活動を知ってもらいたい機会になりました。

- 11月23日(水、祝) 参加者: 5名

ネコの除肉、イノシシの骨の洗浄作業、キジの解剖、カメやアライグマの骨の収蔵作業を行いました。

### 【活動予定】

12月は3日(土)と23日(金、祝)に活動を予定しております。

1月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



## 【活動報告】

■10月29日(土) 13:00~16:00 場所: 琵琶湖博物館 研究棟2F 研究交流室 参加者: 11名

・ありがとう交流会のポスター作りとワークショップ準備

11月13日(日)に開催するありがとう交流会に向けて、緑のくすり箱を紹介するポスター作りと、ワークショップの担当決めや、準備物の確認などを行いました。

ポスター作りは、4月からの活動の内容を大まかに紹介したものを事前に準備し、あとは色画用紙やコピー用紙などを切貼りして、ドクダミの花を立体的に作り、ポスターに貼りつけました。

改めて、ドクダミの写真を参考にしながら花や葉を作り、本物のような出来栄でした。



今年4月から9月までの活動を紹介したポスター。  
ドクダミの花を貼りつけた、かわいらしいポスターになりました。



ワークショップ準備は、せっかく開催するのなら、集客をしっかり行いたいという思いがあり、先着20名様に「野草バスソルト」を作って頂くワークショップを開催することになりました。5月に収穫したヨモギを乾かしていたので、そのヨモギとラベンダー精油を入れたバスソルトを作る予定になりました。

その他、野草茶の試飲や、ドクダミの化粧水のお試しコーナーなどを設け、お客様と交流することにしました。それぞれ担当と持ち物を決め、準備は完了しました。

■11月13日(日) 10:00~15:00 場所: 琵琶湖博物館 研究棟2F 研究交流室と生活実験工房 参加者: 12名

・ありがとう交流会 ワークショップ

10:00に研究交流室に集合し、打ち合わせと準備を行い、12:00に生活実験工房に移動して、会場準備、博物館正面入り口での受け付け・整理券配布を行い、13:00からワークショップを開催しました。

ワークショップの内容は、「①野草バスソルト作成」「②野草茶の試飲」「③ドクダミ化粧水のお試し」と3つを実施しました。

「①野草バスソルト作成」は、5月に収穫したヨモギとラベンダー精油を混ぜたバスソルトで、水きり袋に入れて、お風呂に入れてもヨモギが散らばらないように工夫しました。ラッピングもしてお持ち帰り頂きました。

「②野草茶の試飲」は、クロモジ、ドクダミ、青紫蘇、ゲンノショウコの市販のものを用意しました。琵琶湖博物館の周りには野草ばかりなので、現物の植物を採りに行き、お茶と一緒に並べ、お客様に紹介しました。また、緑のくすり箱のメンバーのみの試飲に限定し、ローリエ茶と笹茶も作り、交流を行いました。

「③ドクダミ化粧水」は、6月に漬けたドクダミチンキを精製水で薄め、ラベンダー精油・スイートオレンジ精油・グリセリンを入れたもので、手に少しつけて頂いてから、作り方のレシピと、次回緑のくすり箱の活動のご案内を一緒にお客様に配布しました。

この日はお天気もよく、バスソルト作りを終えてからも、野外にてお茶を飲んだり、化粧水のお試しをしたりして頂きながら、メンバーとお客様がゆっくりと楽しく交流できたと思います。

① 野草バスソルト作り



② 野草茶の試飲



③ ドクダミ化粧水のお試しコーナー



笹茶作り



#### <参加者の感想や反省点>

☆とても気持ち良い天気の中でのお茶の試飲会は最高の癒しでした。バスソルト体験の参加者が多くて、断った方に申し訳ない感じがしたので、次回は良い方法を考えたいと思いました。

☆バスソルト作りはお子さんでも簡単に作れてみんな楽しく作っておられました。

薬草茶の試飲も味の違いや、色微妙な違い、薬効にも興味持たれて熱心に質問されている方もいらっしゃいました。

何より私たちが興味津々で楽しんでるのが一番良かったと思います。

特に私がお茶の名前ごとにそれぞれの葉っぱをあしらっていたのが、とても可愛いく素敵だなんて思いました。

☆ヨモギバスソルト作りとお茶の試飲と、とても良かったです。参加して頂いた方はとても満足されていたと思います。

ゆったりしたワークショップで良かったと思いますが、もう少しヨモギについてとか説明しながら作れたら良かったかなと後で反省しました。また、来年はレベルアップできるよう努力します。

☆天気も良く毎日の忙しさも忘れるくらいまったりとでき、とても楽しめました。また来られた方にも楽しんでいただけたかと思えます。

思いのほか青紫蘇茶が好評だったことが以外で、来年は自宅でも乾燥青紫蘇を作ってみようと思いました。

ありがとう交流会、緑の薬箱のワークショップは、大人の人もお子さんも興味を持って参加して頂けたように思います。

☆薬草茶試飲のコーナーでは、薬草茶の準備がもたついてしまい、お客さんをお待たせしてしまった事と、試飲用の紙コップが途中で足りなくなってしまった事など、少し考慮が足りなかったかな…と反省しています。しかし、皆さん楽しそうに参加してくださって、私も楽しいひとときを過ごせました。ありがとうございました！



☆バスソルトづくりは整理券を配ったのが参加者が集中せず確実に来てくれて良かったです。  
 野草茶は、クロモジ茶の生のものと乾燥市販のものの違いが分かって、おもしろかったです。  
 長く大量に煮出した生のものがくどくなくすっきりとした味で意外でした。  
 青紫蘇茶も昆布茶のような味がしておいしかったのも発見でした。  
 お茶それぞれの実物を付けたのはとてもよかったですね！！  
 来年はネームプレートを作りましょう。

☆紙コップの使用量が予想以上に沢山必要だった、紙コップが不足し、湯呑を使用しました。  
 上記により、エコ社会が問われる昨今、紙コップ使用をやめて湯呑にする方がいいのでは？  
 但し湯呑の数の確認が必要に。  
 戸外でのお茶の試飲は話がうまく弾みとても良かったと思いました。  
 ヨモギソルトは一度に来られたので秤が足りず・・・5台は必要。  
 ソルトも2か所ぐらいに分け、口の広い容器に入れると子供さんがする場合に取り出しやすい。  
 ヨモギの使用はピッタリで残量もなくて終了しました。  
 ヨモギの効能など書いたプレートがあれば子供さん待ちのお母さんも興味を示してくれるのでは・・・  
 (今回十分に説明は出来ていない時もあり？)  
 看板2枚(勧誘用と入り口用)の内、勧誘に行かれた時にチケットを配布されたのですが、  
 それだと時間13:00～と14:00～と書いていたためにチケットの無い人が何人か来られ、  
 とても残念そうに帰られましたので、そのところを来年は修正する必要があるのではと思います。



<今後の予定>  
 12月18日(日) 10:00～(実習室2)  
 ハーブを使ったピザ作り  
 12月18日(日) 14:00～(実習室2)  
 ドクダミチンキを使った化粧水作り  
 2月4日(土) 時間は未定(実習室2)  
 七草粥作りと廃油石鹸作り  
 乾燥したヨモギでもぐさ作り



## ⑱ 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: morihito@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

■9月24日(土) 13:30～16:00 竹の伐採作業 場所: 生活実験工房、屋外展示の森

参加者: (会員) 6名 (博物館職員) 草加

内容: 竹の伐採、ありがとう交流会の打ち合わせなど。  
 ヒガンバナが満開になったがまだ蒸し暑い中、竹の伐採作業を前回取り残した田んぼの西側部分の一部と落葉広葉樹の森で実施した。落葉広葉樹の森では直径7cmの大きなクズもあり伐採した。約半分の伐採が終了した。



■10月23日(日) 13:30～ はしかけ登録講座での森人の説明 参加者:(会員)2名

■11月5日(土) 10:00～15:00 朽木の森観察会 場所:高島市朽木麻生 森林公園「くつきの森」

参加者:(会員)4名(博物館職員)林、草加

内容:琵琶湖博物館とNPO法人麻生里山センターの共催で実施された「里山の現在～ジオラマの本物を見に行こう!」に参加した。先ずやまね館で麻生里山センターの職員の方から「くつきの森」の歴史と自然と文化について説明があった。降水量は多く、年間2,000mmに達する。近年、積雪は少なくなっているが冬季は寒く、昭和59年に積雪2.7m、-18.5℃の記録がある。多雨高湿度のため森林はよく育つが冬季の寒さのため常緑広葉樹は育ちにくい。標高200m位の川沿いや水田跡は人工林、丘陵地はコナラ、モミなどの雑木林、渓谷沿いにはカツラやサワグルミ、トチノキ、700～800mの尾根に向かいカエデ、ミズナラ、ブナ、スギの自生地がある。鹿の被害やシンジュ、ウラジロアカメガシワなどの外来植物の増加などの問題もあるとのこと。

この後、里山センター及び博物館職員の方の説明を受けながら「モリアオガエルの池」⇒「花の森(昼食)⇒「カエデの森、ジオラマのモデルになった森」⇒ユリノキ広場のコースをゆっくりしたペースで散策した。リンドウ、アキノキリンソウ、センブリ、マツカゼソウなどの花、ガマズミの甘酸っぱい赤い実、サワフタギの青い実、キハダの苦い黄色の内皮、ツタウルシ、シラキ、メグスリノキ、カジカエデ、ヒトツバカエデなどの紅葉(黄葉)、カワラタケ、ツチグリなどのキノコ、他ではあまり見かけないオオムクゲンジヤカンレンボク(キジユ)も間近で見ることができた。また暖かったせいかヒメアカネ、ザトウムシ、センチコガネ、キボシカミキリ、ヤマビル、ニホンカナヘビ、マミチャジナイ、ニホンザルなどの動物にも出会えた。

琵琶湖博物館C展示の森のジオラマのモデル地の林床には鹿の食害で草本がほとんどなく有毒な低木のアセビが点々と広がっていた。また道路沿いに侵入したシンジュ(樹勢が強く容易に駆除できないため現在は薪として利用)や葉裏がピロート状のウラジロアカメガシワも見ることができた。15時ごろユリノキ広場で解散したがいろいろ勉強になった観察会であった。



■11月12日(土) 10:00～11:50 ありがとう交流会「びわ博フェス☆2016」集合:実習室2

(会員)3名(博物館職員)林、草加

内容:ポスター作製とガイドツアー 5組8名と参加者が少なく残念でしたが暖かい日差しの中、太古の森と縄文・弥生の森をめぐる構成樹種の説明や草木の実や紅葉を観察した。今後はワークショップの実施も検討したい。

### 【活動予定】

◎11月26日(土)、13:30～15:30 生活実験工房集合

屋外展示の森に棲む動物の観察のため屋外動物撮影用カメラの設置をする。

◎12月4日(日)、屋外展示のガイドツアー、10:00～12:30 生活実験工房集合

環境学習センター主催環境ほっとカフェにガイドツアー担当で参加する。

★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きの人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

★参加を希望される方は 森人(もりひと) [morihito@lbm.go.jp](mailto:morihito@lbm.go.jp) に連絡ください。



## ②0 ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス:chikoaso@lbn.go.jp

グループ担当者:澤邊久美子

9月に始まったちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」はしかけ。参加して下さるちっちゃな子どもとお家の方も徐々に増えてきました。9月は子ども7人、お母さん6人でアットホームな雰囲気でしたのが、10月は子ども10名、お母さん9名、そして11月には子ども17名、お家の方14名と大家族になりました。生活実験工房のバンダナおじさんのご協力で、畑でサツマイモを収穫したり、おくどさんで新米を炊いたり、それらを美味しくパクパクいただいと楽しい体験を続けています。メンバーのご近所さんからシイタケをいただき、これも油で揚げて皆で試食し、子どもが揚げ立てに手を伸ばしあっという間にお皿が空っぽになったりとお腹も満足になっています。また、澤邊学芸員の研究として神戸大学の学生さんが、子どもやお家の方が自然と触れている時のつぶやきをボイスレコーダーに録音して、幼児がどのように自然と関わり成長していくのか調査してくださっています。

この度、澤邊学芸員がちこあそのマークを考えてくださりました。子どもが森や田んぼを歩き、たくさんの発見していくことをイメージしてくださりました。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha>

をご覧ください。

### 【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
10月	10月19日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	ループでの自然観察、野菜の試食、絵本の読み聞かせ、原っぱでの遊び、森探検  サツマイモの収穫と試食もしました。美味しかったです。  メンバー3人、参加者幼児10人、大人9人、学生1名、はしかけ飛び入り1人
11月	11月16日(水) 10:00-14:00	ちこあそ11月	ループでの自然観察、野菜の試食、絵本の読み聞かせ、原っぱでの遊び、森探検  新米をおくどさんで炊きました。その美味しさに子どもも、お母さん方もパクパク！大満足でした。「お家ではお野菜などをあまり食べない子どもがちこあそでは、おいしくパクパク食べます！」とうれしいお話しも。  メンバー2人、参加者幼児17人、大人14人、学生1名、はしかけ飛び入り1人

### 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
12月	12月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	寒さに負けずお外でいっぱい遊びます！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！





## 生活実験工房からのお知らせ

※生活実験工房では、お餅つきをして収穫祭を祝いました。これからは冬の季節ですので、工房内にて“わら”を使っての作業を行います。行事も残り少なくなってきましたが、時間を見つけて体験活動へのご参加をよろしくお祈いします。

担当職員：下松 孝秀

### 【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

- 12月23日(金) しめ縄づくり
- 1月16日(月) どんど焼き(休館日につき職員対応)
- 2月11日(土) わら細工
- 3月11日(土) 一年間のふりかえり



※一般参加者の受付は、9:30 からです。 しめ縄づくり、わら細工の作業時には、「マスク」をご持参ください。

## 4. その他の事項

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの [hashi-adm@lbm.go.jp](mailto:hashi-adm@lbm.go.jp) まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成 28 年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。

2017

2-3月

# はしかけニューズレター

2016年度 第6号 通巻133号

2017年(平成29年)2月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 妹尾・大塚・下松・大久保)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.lbn.go.jp>

## ～ 目次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. 「はしかフェ」を再開します

### 3. はしかけグループの活動報告と活動予定

- ①うおの会 ②淡海スケッチの会 ③近江はたおり探検隊 ④大津の岩石調査隊 ⑤温故写新  
⑥くらしをつづる会 ⑦古琵琶湖発掘調査隊 ⑧湖(こ)をつなぐ会 ⑨ザ! ディスカバはしかけ  
⑩里山の会 ⑪植物観察の会 ⑫たんさいぼうの会 ⑬田んぼの生き物調査グループ  
⑭タンポポ調査はしかけ ⑮琵琶湖の小さな生き物を観察する会 ⑯びわたん  
⑰ほねほねくらぶ ⑱緑のくすり箱 ⑲森人 ⑳ちっちゃな子どもと自然であそぼう

生活実験工房からのお知らせ

### 4. その他の事項

会員数・・・329人  
グループ数 20 グループ  
(2017年2月1日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

### (1) 2017年度 はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末が近づいてまいりました。2017年度も継続して、はしかけ活動をされる方は更新手続きが必要です。はしかけ会員には別途案内をお送りいたしますが、更新受付票の提出(FAX、メール添付など)をお願いします。なお、18歳未満単独での登録には、保護者の同意が必要です。更新受付票の裏面に必要事項をご記入ください。

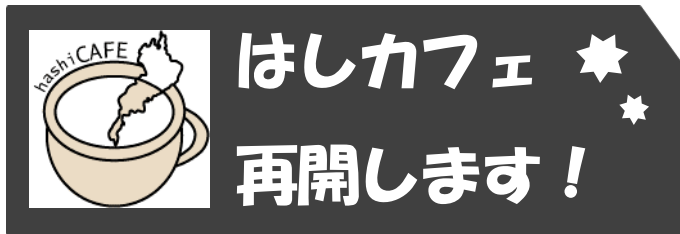
また、ボランティア活動保険料450円の納入を3月20日までをお願いします。ボランティア活動保険料の納入方法は、①2016年度第3回はしかけ登録講座の日(3月12日)に実施する更新手続き受付での現金納入、または②郵便振替口座(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)宛に振り込み(手数料別)があります。はしかけ以外の活動団体ですでにボランティア保険に加入されている方は不要です。

### (2) 2016年度 第3回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第3回を2017年3月12日(日)に開催します。各グループの活動紹介をお願いします(約2分間活動紹介と、終了後の質問に対する回答)。

場所: 琵琶湖博物館セミナー室 受付: 13:15～ 開講: 13:30～

(妹尾裕介)



再開第1回目は3/12(土)  
「広がる交流活動の可能性を考える」

ぜひご参加ください!!

現在、琵琶湖博物館では第2期リニューアルが進んでいます。第2期の目標は、「交流空間」のリニューアル。琵琶湖と森を感じる屋外展示「樹冠トレイル」、大人も楽しむ知的空間「おとなのディスカバリー」、小グループ向け体験展示空間「わくわく体験スペース」など新たな展示が誕生し、交流活動の場が広がります。そこで、これからの交流活動について一緒に考え、一緒につくる場「はしかフェ」を再開します。はしかけ会員であれば、誰でも自由に参加でき、様々な意見を出し合って、一緒に新しいことにチャレンジしていくための時間です。この機会を使って、普段、会わない違うグループのはしかけの皆さん同士のあいだにも交流が生まれればうれしく思います。

再開の第一回目は、「どのような交流空間に進化するのか」、**まずはリニューアルの内容を詳しく説明します。**交流活動の中心にいる、はしかけの皆さんがこれからどういうことができそうか一緒に考えていきたいと思います。**各グループで運営を担当している人、やりたいことを、どうやって進めるか悩んでいる人、新会員でとりあえず話が聴きたい人、いろんな立場のひとがあつまって話せる機会**になれば幸いです。カフェでくつろぐような雰囲気のなか話をしますので、ぜひ気軽な気持ちでお越しください。

こんなはしかけ会員のみなさんにおすすめ

- もっと活動、発信の場が欲しいグループ
- はしかけ登録したけれど、具体的に何をしようか悩んでいる方
- 新しいグループを作りたい方。
- びわ博の交流活動に要望のある方
- びわ博でのいろいろなイベントを一緒にやってみたい方
- 他のはしかけさんや学芸員と交流したいと考えている方

対象：2017年度はしかけ登録者(更新手続きをお忘れなく！)  
日時：3月12日(日)15:30~17:00 (はしかけ登録講座の日です)  
場所：生活実験工房  
内容：リニューアル(交流部門)の概要説明、博物館でしたい交流についての話し合い、活動についての悩み事 + 雑談...  
参加方法：当日参加OK(ご参加がお決まりの方は事前に下記まで氏名、連絡先をご連絡ください)  
担当：はしかけ事務局 妹尾  
電子メール: hashi-adm@lbm.go.jp 電話: 077-568-4811

【活動予定】

①5月14日(登録講座) ②7月上旬 ③10月15日(登録講座) ④12月上旬 ⑤3月11日(登録講座)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### ① うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ)26名】

グループ代表アドレス: uonokai@lbm.go.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■12月18日(日) 第124回定例調査 場所: 喜撰川 参加者: 21名 10:00~13:00

朝の冷え込みが厳しく、見上げる比良山系も雪化粧しており、水温も殆どが7℃台という“厳しそうな”状況ではありましたが、風はなく暖かい日差しにも恵まれたお陰で、川の中を歩いていると汗ばむほどの、冬としては恵まれた調査日和となりました。

魚種は思った以上に豊富で、JR下の堰より下流側では、オイカワ・ヌマムツ・ウグイ・ヨシノボリ・ウキゴリ・ドンコ・ヌマチチブ・オオクチバス・ブルーギル・テナガエビ・スジエビに、季節外れのハスも見られました。一方中流域では大量のカワムツを中心に、ウツセミカジカ・ウキゴリ・ヨシノボリが見られました。さらに上流部は、途中の魚が確認できない区間を挟んで、最上流ではイワナ・カワムツ・サワガニ・アカハライモリなどが見られました。なお、前会長・村上さんが2年近いブランクを超え、久しぶりに調査に参加されました。

(報告: 高田昌彦)

■1月15日(日) 勉強会 ※大雪のため中止(運営会議のみ開催) 参加者: 5名

## 【活動予定】

- 2月19日(日) 勉強会 場所:琵琶湖博物館
- 3月26日(日) 総会 場所:琵琶湖博物館



## ② 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ)4名】

グループ代表アドレス: sketch@lbm.go.jp

グループ担当職員: 篠原 徹・榎永一宏

## 【活動報告】

- 12月11日(日) ミーティング 場所:琵琶湖博物館研究交流室 参加者:4名  
2017年1月~12月の活動計画について話し合いました。

## 【活動予定】

- 1月22日(日) 琵琶湖博物館内でスケッチ、吟行等

集合場所: 琵琶湖博物館正面玄関 集合時間: 10:30 (15:00 解散予定)

※館内でスケッチの場合は、筆洗は水をこぼす恐れがありますので、使用は控え、鉛筆やクレヨンなどを使って描きます。

- 2月26日(日) 琵琶湖博物館内でスケッチ、吟行等

集合場所: 琵琶湖博物館実習室2 集合時間: 10:30 (15:00 解散予定)

※植物や石などそれぞれが描きたいものと画材を持参し、スケッチを行います。水彩絵の具も使用可。

- 3月26日(日)

沖島でスケッチを予定しています。詳しいご案内は後日、ご連絡させていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



## ③ 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)19名】

グループ代表アドレス: oumihataori@lbm.go.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

## 【活動報告】

### 織姫の会

- 11月30日(水) 参加者:4名

今回は民俗収蔵庫の麻織物を見学しました。顕微鏡で見ると、フジといわれていた野良着がどうやら麻で織られたものであることがわかりました。今後、繊維の同定のために顕微鏡のサンプルを増やしていこうと思います。

- 12月10日(土) びわたん「綿に触れてみよう」参加者:4名

びわたんの「綿に触れてみよう」に協力しました。今回は、体験者全員が綿繰り→綿打ち→糸紡ぎと順番に体験できたので、作業工程がわかりやすかったと思います。最後に糸車と地機織りを実演しましたが、みなさん興味津々で見学していただけました。

- 12月24日(土) 参加者:5名

本日は大掃除の予定でしたが、午前中は中川さんのご厚意で前日に残った材料をいただき、しめ縄づくりを行いました。

午後はカマドやコンロ、流しの周辺を掃除し、和室の障子を張り替えました。実は障子の張り替えははじめてだったので、持ち手部分の作り方がわからずあたふたしましたが、居合わせた方々に教えていただき、無事バツテンに作る事ができました。工房に行くことがあれば、是非見てくださいね。

- 1月7日(土) 参加者:6名

地機織り、2人目開始。あとは綿繰り作業を行いました。



12月10日びわたん「綿に触れてみよう」での地機の実演

## 【活動予定】

■織姫の会 1月25日(水)、2月4日(土)、22日(水)、3月8日(水)、25日(土)

(辻川智代)



## ④ 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)10名】

グループ代表アドレス: ganseki@lbm.go.jp

グループ担当者: 里口保文

## 【活動報告】

### ■12月の活動 参加者:10名

早くなった日没時間、降雪などの影響を考慮し、博物館内で勉強会を実施した。顧問の中野さんと隊員の報告、また今後の運営について協議をした。

中野さんの報告は、「琵琶湖と花崗岩と流紋岩と: Our efforts to act locally with thinking globally」のI部として、a.地層累重の法則、から、さらに、b.斉一説、c.19世紀の地向斜造山論、d.プレートテクトニクス、へと地学の歴史的なお話があった。このプレートテクトニクスの活用により、大地の多くの現象が説明可能となったとのこと。なお、米国・コロラド渓谷の水平の太古の積層した地層を見ると、これのみで説明は不可能のようにも思われるとのこと。

また、よく見られる花崗岩の成因が、現在でも判明できていないとお話もあった。つまり、e.花崗岩などの火成岩はマグマの分化によりできる、というものである。花崗岩はカンラン岩が玄武岩に変換し、その玄武岩が花崗岩に変換する。しかし、この変換率は低く、ありふれた花崗岩や巨大な花崗岩の岩体の成因は明確になっていないとの事。多方面にわたる長い研究のお話を頂いた。また機会を作り、続きを聞く予定である。

隊員(梅澤)の報告は濃尾地震の震源である根尾谷断層の文献調査と現地調査の報告、さらに、最近見た四国の砥部断層の幅1-3mmの極細断層でも岩を切断しかつ移動させる等の報告、さらに熊野の花崗斑岩に見られるクラックの成因に対する一試案の報告があり、質疑応答をした。



写真は砥部断層に見られる幅1-3mmの断層が石を切断し、移動させる露頭

### ■1月の活動

12月に引続き、1月20日(金)に館内で自主勉強会を行う。内容は隊員の故郷の岩石の報告と顧問の中野さんの研究セミナーでの講演「長石微細組織の謎」の聴講を行う。

## 【活動予定】

■2月、3月の予定は1月20日の勉強会の中で具体化したい。



## ⑤ 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ)14名】

グループ代表アドレス: onkosyasin@lbm.go.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

## 【活動報告】

### ■12月10日(土) 応接室 参加者:8名 9:30~12:30

今回は写真の撮影講座ということで、写真撮影の基礎的な内容を学びながら、さらに撮影後のちょっとした補正作業についてみんなで勉強しました。

### ■1月14日(土) 会議室 参加者:6名 9:30~12:00

大橋コレクションの整理を行い、活用できる写真の選定を行いました。

これまでの整理してきた枚数などもデータとしてわかるようになり、これからはそれらの活用法についても検討していきたいと思います。

## 【活動予定】

### ■2月12日(日) 会議室 9:30~12:00

これまで撮影してきたデータの整理作業などを行います。



■3月12日(日) 会議室 9:30~12:00

総会を行い、今年度の活動の振り返り、来年度の活動計画をたてたいと思います。



## ⑥ 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香

### 【活動報告】

■11月に打ち合わせをしました。

■12月は活動がありませんでした。

■1月24日(火)

新しいメンバーさんとお顔合わせをしました。

そのあと、守山に住んでおられる漁師さんに琵琶湖大橋の周辺でのえり漁などの漁の話や漁具の話をお聞きました。漁師さんは81才で、今でもお元気に漁をされています。小さな頃から舟の櫓を漕ぎ、魚を獲ったり、えり漁の手伝いをされていました。

お母さんに言われた「食べへんのに殺生しなよ」という言葉を今でも覚えておられ、えり漁などで獲りすぎた魚は近くの川に逃がしておられるそうです。昭和初期から現在まで琵琶湖の様子や変化を見て来られました。

貴重なお話を沢山聞いていただけそうです。続けてお話を聞かせていただく予定です

### 【活動予定】

■2月18日(土)

続けて守山で漁師をされている方にお話を伺います。

(中尾京子)



## ⑦ 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ代表アドレス: hakkutsu@lbm.go.jp

グループ担当職員: 高橋啓一

### 【活動報告】

■12月11日(日) 古琵琶湖の気候変動 参加者:11名

古琵琶湖時代の気候はどのような気候だったのでしょうか?

ゾウやワニ、サイ等の動物が生息していた古琵琶湖の時代は、今のアフリカや東南アジアの暑い気候を想像してしまいます。しかし、植物化石や花粉化石を調べると割と冷涼な気候であった事を示しています。古琵琶湖調査発掘隊ではそれらの事を科学的にデータとして表せないのかをテーマに、琵琶湖博物館の林先生を講師にお招きし勉強会を行いました。今回は各自でパソコンを持参し、最初に気象庁から提供された日本各地の気温、降水量を記録したデータを各自のパソコンに取り込み、グラフ化を行いました。気温は折れ線グラフ、降水量は棒グラフに置き換えると比較検討が容易です。

古琵琶湖時代は北極の氷の状態(氷期、間氷期)や日本を取り巻く暖流、寒流の流れが大きく関わっていた事がわかります。大山田湖時代にはカシノキ属が優先していたがそれ以降はブナ属が優先して生育していたとの説明もありました。(亜熱帯~温帯)

次に、MIS 曲線(海洋底酸素同位体曲線)の説明を受けました。小琵琶湖時代の気温の変化を散布図にしてあります。ノコギリの歯の様子が10万年単位で表しています。氷が溶けだした時代増えた時代によって大きく変動しているのが解ります。

皆さん10万年単位とは言え気温の上下がこんなに激しかった事に驚かれたようです。その理由を質問される熱心な女性会員もおられ、他にも多くの質問が出され大いに盛り上がりました。皆さんのレベルも当初よりUPしたのでしょうか。

多賀四手の時代夏は今より暑く、冬は今より寒かった様な気温だったのではなかったのかといった結論で勉強会を終えました。



林学芸員の講習風景  
皆さん必死です



現役時代のスキルを思い出し  
グラフを作成中。



初めて聞いた(海洋低炭素同位体曲線)。  
MIS 曲線と覚えましょう

■ 1月29日(日) 今後の活動検討会等 参加者:6名

古琵琶湖発掘調査隊の活性化を目的に今後の方針や役員の改選を行いました。  
新しい会員さんも増えましたので、従来の活動から脱却した方針を検討しました。

【活動予定】

新しい体制が確立次第発表します。



⑧ 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス:ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

この2ヶ月間は活動なしでした。これからは少しずつ活動日を増やしていきたいと思っています。

今年は「琵琶湖周航の歌 100周年」ということで、県内の湖岸地域で、様々なイベントが企画されているようです。その一つとして、「生きている琵琶湖」を作詞・作曲してくださった加藤登紀子さんプロデュースで6月30日に「びわ湖音楽祭」が開催されます。湖をつなぐ会も、同じ琵琶湖の歌を歌うグループとして、何らかの関わりをさせていただきそうです。「生きている琵琶湖」が県内の方々に広く知ってもらえる良い機会になればと考えています。

【活動予定】

■2月5日(日) 紙芝居上演 場所:実習室2 13:00~



⑨ ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス:hashi-discov@lbm.go.jp

グループ担当者:澤邊久美子,鈴木隆仁,森智美,片淵綾香

本格的に寒い寒い季節になりました。1月の大雪は皆さん、楽しみましたか?博物館の周りも真っ白になりました。ディスカバはしかけでは、1月にディスカバリールームおばあちゃんの台所の障子の張り替えをしました。2月はあずま袋を作る新しいプログラムをします!その準備を始めています。



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ディスカバイベント補助	12月17日(土) 13:30~	はたきをつくろう!	年末恒例のはたき作りのサポートをしました。みんな上手に作っていました。埃がたくさんとれました。はしかけ3名、参加者30名

はしかけ イベント	1月20日(金) 15:00～	障子の張り替え	障子の張り替えをしました。のぞいてくれたみんなにお手伝いもしてもらいました。 はしかけ1名
--------------	--------------------	---------	--



はたきをつくろう！ 裂いた布を並べます



障子の張り替え ピンと張れるかな？

～メンバーからのメッセージ～Vol.31

障子をはりかえました。一尺巾の障子紙を使いました。下から順にはっていったら、最後に霧吹きで水をかけたら、パリッと  
してきれいにできました。 (柳原)

～メンバーからのメッセージ～Vol.32

障子のはり方のコツを教えてください、挑戦してみました。  
ハケをポンポンと棧にたたくようにすると、よくのりがついて、きれいに張れました。 (片淵)

～メンバーからのメッセージ～Vol.33

お手玉の中身の材料が集まらなかったため、急遽内容を変更し、あずま袋を縫うプログラムにすることになりました。  
あずま袋は、一枚の布が2か所縫うだけで便利な袋になります！布を上手に使って物を包む、物をはこぶ「技」は、てぬぐい  
や風呂敷など、日本の古くからの知恵ですね。今年も一生懸命、針仕事できるかな。 (澤邊)

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ イベント	2月12日(日) 時間未定	あずま袋をつくろう	あら不思議。一枚の布が、2か所縫うだけで便利な袋に変身するよ。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)していきましょう！



⑩ 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ代表アドレス:satoyama@lbm.go.jp(登録会員数 39名)

グループ担当者:安福俊幸

【活動報告】

■11月26日(日) 秋の里山観察会 本番 参加者:3名

11月26日 大津市仰木の里山で「秋の里山 宝物をさがしにいこう」が開催されました。参加者は、はしかけ里山の会からは3名、琵琶湖博物館 芦谷主任学芸員、カワセミ自然の会、そして一般応募者。仰木駐車場を出発しビンゴゲーム形式で「クズの葉のつきかた」、「徳利のような形をした??探し」、「シュロの葉を使ったエンゼルフィッシュづくり」などを楽しみながら、秋の自然観察を楽しみました。 (吉井)



■11月27日(日) ソバ刈取り (中止)

■12月11日(日)ソバ脱穀・洗浄&ふり返し 参加者:8名

琵琶湖博物館工房でソバの脱穀作業と今年の活動ふりかえり会を行いました。今年のそば作りは、琵琶湖博物館ソバは天候不順のためほぼ収穫ゼロでしたが、自宅で栽培された竹谷さん、宮本さん、前田さんのご苦勞のおかげで、脱穀ソバが約3.5Kg収穫できました。ありがとうございました。

作業は足踏み脱穀機と唐箕を使った昔ながらの道具のおかげで順調にできました。ふりかえり会では、1月の体験教室をさらに楽しむプログラム案がいくつか提案されました。ランチはお赤飯と季節の野菜を使った汁物・漬物で楽しみ、午後の作業後、里山の会会員高校生の大学合格をみんなで甘酒とケーキでお祝いしました。今年最後の活動も楽しく終了。(吉井)



■1月8日(日) ソバ収穫祭&里山体験教室(冬)下見 参加者:13名

昨年、会員3名が栽培し、脱穀、水洗しておいたそば実3.5kgを石うすで製粉し、約1.2kgのそば粉が収穫できました。楠岡さんの指導の下、会員総出で二八ソバをつくり手づくり新そばで新年を祝いました。他に、子ども達の作ったそば粉クレープ・素揚げや野菜・ふきのとう天ぷら、焼き餅、ぜんざい、そして、最後に寺尾カフェのドリップコーヒーを味わいました。午後からは、里山体験教室(1月15日(日)開催)のイベント予定の火おこし道具のチェックで無事、火種づくりができることを確認しました。新年も楽しい里山活動で新年を迎えることができました。(吉井)



■1月15日(日) 里山体験教室(冬)本番(雪のため中止)

【活動予定】

■2月25日(土) 草木染め、キノコ菌打ち(都合により中止)

■3月5日(日) 総会、キノコ菌打ち



## ⑪ 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス:shoku-kan@lbm.go.jp

グループ担当者: 芦谷美奈子

植物観察の会は、2004年の企画展「植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の時に、多くのはしかけさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

カジュアルな観察会を長年にわたり開催してまいりましたが、2016年3月末で講師の布谷さんが三重県総合博物館の館長を退職されることになり、琵琶湖博物館の展示リニューアルその他の予定が落ち着くまで、観察会をお休みして、2016年10月以降に年度内1、2回の観察会を開催する予定でした。前号でもお知らせしたように、このまま観察会を同じように続けても、はしかけの自主的な活動にはならないと考え、方針を少し変えることを検討しています。

前号のニューズレターに「グループの解散も視野に」と書いたところ、何人かの方から「ぜひ続けてほしい」というご意見をいただきました。解散せずに、初心に戻った活動を自主的に行うにはどうするか・・・ということを検討しようと思っています。これまでのような観察会も開催しつつ、座学なども行いながら、植物をより深く知り、活動を発展させることができる方法をなんとか見つけたいと思っています。

これまで1度でも観察会に参加されたことのある方は、ぜひその時のご感想でも、今後に対するご意見でも、率直なお考えをお聞かせください。ご意見などは、上記のアドレスにお寄せ下さい。お待ちしております！

### 【活動報告】

2016年12月～2017年1月の間は、特に活動はありませんでした。

### 【今後の活動】

・座学「植物の調べかた～植物図鑑を使いこなそう～」開催のお知らせ

植物を調べる時に欠かせないのが、植物図鑑です。といっても、何か難しそうなのが沢山書いてあるように見え、なかなか手を伸ばす気にならない方も多いのではないでしょうか。今はネットなどでも、ある程度の調べ物は可能ですが、その場合も書いてある説明を理解しようとするには、まずは図鑑が使えるようになることが基本です。

敬遠しがちな植物図鑑の使い方を、実物の植物を手に実践的に学びましょう。

日時:2017年3月19日(日) 13:30～15:30(終了時は予定)

講師: 布谷知夫さん

場所: 琵琶湖博物館・実習室1



## ⑫ たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス:keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

### 【活動報告】

12月18日に琵琶湖博物館で開催された「第7回 琵琶湖地域の水田生物研究会」で、会員の富さんが発表しました。朝1番(10:35～)のお客さんが少ない時間帯の発表ながら、100人近い方々に聞いていただくことができました。

会員の三村さんが、山室湿原の珪藻についてまとめた論文

Mimura, T. & Ohtsuka, T. 2016. Diatoms of Yamamuro Moor, a Sphagnum moor situated in the warm-temperate zone in Shiga Prefecture, central Japan. *Diatom* 32: 24-32.

が、昨年末に発行されました。調査から約10年を経ての、待望の出版です。以下のウェブサイトから、無料でダウンロードできます。

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/32/0/32\\_24/article](https://www.jstage.jst.go.jp/article/diatom/32/0/32_24/article)

この論文はとりわけ、三村さんや他の会員数名が撮影した、美しい顕微鏡写真に注目です。別刷りをご希望の方は、上記代表アドレスまでご連絡ください。

会員は現在、各地の湿原の珪藻の写真を手分けして撮影しています。蝸牛の歩みではありますが、主役(主著者)を交代しながら、1つずつ確実に論文にしていこうと思います。

1月22日に、新年総会&新年会を行う予定です。開催が原稿〆切よりも後なので、次号で報告します。

## 【活動予定】

2月～3月の活動は未定です。いくつかの湿原については、写真撮影が進んできましたので、整理と同定に入れると思います。



## ⑬ 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: tambo@lbm.go.jp

グループ担当職員: M. J. グライガー, 鈴木隆仁

冬の田んぼがひっそりとしているように、私達のグループも冬は活動の休止期です。冬休みを利用してエネルギーを蓄えましょう。余裕があれば、冬の田んぼを観たり本を読んだりして、しっかり充電するのもいいですね。

## 【活動報告】

### ■12月4日(日) 環境活動交流会でポスター展示 参加者:1名 13:30～17:00

平和堂財団「夏原グラント」主催の環境活動交流会が、草津市立まちづくりセンターで開催されました。以前に助成金を受けた私達グループにも交流会への参加案内をいただきましたが、開催日ははしかけの活動日と重なったため、活動内容や成果(調査結果)を記したポスター展示のみで参加しました。

### ■12月4日(日) 調査結果の検討会 参加者:9名 13:30～16:30

今年度実施した4つの合同調査のうち、高島地域と守山地域の調査結果について検討を行いました。高島調査の結果は、安曇川の北(左岸域)ではカイエビが1筆でみつかっただけでしたが(ただし、旧新旭町では初記録です!)、南(右岸域)では探せば見つかる程度に分布していました。安曇川を挟んで北と南とでエビ類の分布が異なるのはどうしてでしょう? 夏の調査時の気づきや、エビ類の成長に関連する生態的条件、さらに水田管理や栽培時期から討論しましたが、分布の違いを説明できる要因は簡単にはみつかりません。

守山調査はこれまでに生息確認のない区域(浜街道より西側)に的を絞って行いました。19地点を調べた結果、どの地点でもエビ類が確認され、トゲカイエビとカイエビを中心に5種が見つかりました。ということは、分布の空白域の実態はエビ類が生息しないのではなく、調べた人がいなかっただけのようです。ただ、エビ類は一時的な水域に棲む生き物ですので、「昔は田舟で行き来をしたようなクリーク状の水田に、いつ頃からいたのだろうか?」と、議論は尽きませんでした。

この他、個人で行った調査の結果を、各人が簡略に報告しました。皆さん、それぞれの興味と課題をもって調べられたようです。

### ■12月18日(日) 水田生物研究会で調査結果を発表 参加者:9名 10:30～16:30

12月18日に琵琶湖博物館で開催された「第7回琵琶湖地域の水田生物研究会」において山川さんが、「洪水に見舞われた滋賀県の水田における大型鰓脚類の分布の拡大について」というタイトルで研究発表をされました。これは2015年、2016年に実施した信楽調査の結果をまとめたもので、2013年の台風18号によって浸水被害を受けた地域では、水害前(2012年)と水害後(2015年、2016年)のエビ類生息に変化があり、水害後に分布の拡大がみられたという報告です。山川さんは合同調査以外にも何度も現地に出向いて調査されており、その熱意に頭が下がります。

また、第87日本動物学会でグライガーが発表したポスター「Current Status of the Tadpole Shrimp *Triopus granaries* in Rice Paddies of Shiga Prefecture, Japan (Crustacea: Branchiopoda: Notostraca)」も水田研究会ポスター発表の場で展示した。

この研究会では、私達のグループに所属する吉本君も、「カナヘビ100個体の個体識別からわかった個体の色彩変異と移動」と題して発表されました。小学校5年生とは思えない、大人顔負けの立派な発表でした。はしかけ活動というよりも個人研究にあたりますが、ここで紹介させていただきます。

これら2つの発表内容については、博物館HPの「水田生物研究会」の中に要旨が掲載されています。興味のある方はご覧ください。

## 【活動予定】

### ■3月12日(日) 総会 場所: 博物館実習室1 13:30～17:00

豊富な専門知識で私達の活動を導いてくださったグライガーさんが、この春、退職されます。総会ではこれからの活動をどのように行っていくかを真剣に協議したいと思います。3月は年度末で何かと忙しい時期ですが、皆さんお集まりください。また、今後(来年度)やりたいこと、これまでの活動でやり残していることを、考えてきてくださいますようお願いいたします。調査対象をエビ類に限定しないという選択肢もありますので、柔軟に考えてみてください。みんなで活動を盛り上げましょう。

議題…2017年度の活動方針、調査計画、役割分担

(前田)



## ⑭ タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: [h-tanpopo@lbm.go.jp](mailto:h-tanpopo@lbm.go.jp)

グループ担当者: 芦谷美奈子

### <タンポポ調査はしかけ、継続活動中！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続しています。2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つつこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。  
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

### <2015年の調査がの告チラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！>

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

### <引き続きメンバー募集中！>

西日本の広域調査は終了しましたが、グループの活動は継続しています。

今回の調査(2019年予備調査、2020年本調査)を視野に、活動をしております。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかでないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！メーリングリストで情報共有したいと思いますので、登録ご希望の方は、上記のアドレスまで連絡をください。

#### 【活動報告】

特に活動はありませんでした。

#### 【活動予定】

2017年4月16日に、滋賀植物同好会の皆さんが甲賀市でタンポポ調査をされます。そこに、タンポポ調査はしかけも合流することを考えています。また詳細は次号でお知らせします。



## ⑮ 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: [bck@lbm.go.jp](mailto:bck@lbm.go.jp)

グループ担当者: 大塚泰介

#### 【活動報告】

##### ■12月17日(土) 参加者: 1名

12月の活動では博物館前で冬にだけ見ることのできるコケムシ「ヒナコケムシ」を探したのですが見つかったのは比較的いつも見る気がする「チャミドロコケムシ」だけでした。

ヨコエビは今回もナリタヨコエビ、フロリダマミズヨコエビの両種が見つかりました。ナリタヨコエビは冬から春が繁殖期のため個体サイズが大きく交尾前行動をとるものもいました。北湖では冬に湖岸でアナンデールヨコエビ稚エビが取れることがあります。次回の活動では博物館前にアナンデールヨコエビがいなか探してみる予定です。



ナリタヨコエビ標本写真

左: 2016年12月17日採集 右: 2016年6月19日採集

## 【活動予定】

次回の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



## ⑬ びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 65名】

グループ代表アドレス: biwatan@lbm.go.jp

グループ担当者: 岡部陽造

12月には昨年度に続いて「近江はたおりの会」のみなさんに、1月には「滋賀の教師塾(教師を目指す学生さんたちです)」の学生さんたちに協力をいただいていたのわくたん開催となりました。こんなふうには他のはしかけグループとのコラボ企画にもどんどん挑戦していきたいところです。企画の持ち込みもお待ちしていますね。

## 【活動報告】

### ■12月10日(土)「綿に触れてみよう」参加者:30名

年内最後のわくわく探検隊は、「近江はたおりの会」のみなさんのご協力のもと、「綿にふれてみよう」を行いました。当日は、30名の参加者があり、生活実験工房で綿花から糸つむぎまでを行いました。

「わた」について理解を深めてもらうために、綿の繊維を顕微鏡で観察してもらったり、綿ができるまでの観察記録を紙芝居で見てもらいました。また、今年に実際に生えている綿(生活実験工房の畑にて)の様子を見てもらうことができました。

体験の工程は、綿から種を外す「わたくり」、外した綿を広げる「わたうち」、広げて丸めたものから糸にする「糸つむぎ」の順に体験してもらいました。

「わたくり」は、手ではなかなか外せない種が、道具を使うと簡単に取り外せるので、特に参加者のこ



どもたちは喜んで取り組んでいました。「わたうち」は、弓のような道具で綿を広げますが、なかなかうまく広げられずみなさん苦労されていました。最後の「糸つむぎ」は、途中で糸が切れてしまったり、太さが一定にならなかったり、皆さん苦労しながらも集中して取り組んでいましたが、「近江はたおりの会」の皆さんに助けをいただきながら、完成させることができました。また、「近江はたおりの会」の皆さんには、「はたおり」や糸車を使った「糸つむぎ」を実演していただき、綿にふれ親しみながら昔のくらしの一部を体験していただきました。

びわたん(こばやん)

### ■1月14日(土)「水鳥を観察してみよう」参加者:35名

年明け最初のわくわく探検隊は、西年にちなんで水鳥の観察を行いました。今回は、びわたんメンバーに加え、滋賀の教師塾の学生さんたちが11名も応援に来てくださいました。当日は寒波襲来ということもあり、雪がちらつく中での活動になりました。



まずは、亀田博士(琵琶湖博物館総括額絵議員)から野鳥観察のポイントや双眼鏡・望遠鏡の使い方などをわかりやすく説明していただきました。実習室内に貼った鳥の写真をターゲットにしてピントの合わせ方を練習しました。

次にC展示室の生き物コレクションに移動し、県内で見られる113種の鳥(県内では約340種が確認されている)の剥製を前に、今日見られそうな水鳥の特徴や名前についてお話を聞いた後、双眼鏡を手に観察場所に移動しました。





観察場所（屋上広場・アトリウム2階の通路）ではそれぞれが双眼鏡をのぞいて鳥を探しました。最初は慣れないこともあり、なかなか見つけられない参加者もおられました。時間がたつと「あっ！オオバンがいた。」「緑色の頭！マガモのオスかな？」「望遠鏡のぞかせて！」などの声があちこちで聞かれるようになりました。自分の見つけた鳥の色を色カードにチェックしたり、鳥の様子を水どりビンゴカードに書き込んだりしているうちに、あっという間に時間になりました。

最後に、生き物コレクションで発見した水鳥の確認をした後、実習室にもどって「水どりビンゴ」を楽しみました。わくたん終了後のアンケートでは、<とても楽しかった！また違う季節に観察してみたい。><寒い季節にも、けっこう野鳥がいるんですね。また参加します。>といった声をいただきました。

びわたん（おかちゃん）

### 【活動予定】

■2月11日（土）

「化石のレプリカをつくってみよう」

■3月11日（土）

「火起こし体験」



ほねほねくらぶ

## ⑰ ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス:hone-hone@lbm.go.jp

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当者:高橋啓一

### 【活動報告】

■12月3日（土）参加者:2名

ハクビシンの解剖、イノシシの骨の整理作業などを行った。

■12月23日（金、祝）参加者:7名

キジの解剖、イノシシ（うり坊）の骨の洗浄、ネコの骨の洗浄、イノシシの骨の整理作業などを行った。

また、これからのほねほねクラブの活動についてみんなで話しあい、来月、参加予定の「ホネホネサミット2017」でのポスター展示の内容をみんなで決定してきました。

これからのほねほねクラブの中長期的な方向性や、普段の活動の改善点などに話がおよび、皆さんで共通の意見が持てる大変有意義な時間になったと思います。

ポスター展示で参加予定の「ホネホネサミット」は全国から骨づくりの猛者が集まるイベントなので、少しでも楽しんでもらえるような展示にしていきたいです。

イベント当日は経験豊富な参加者の方たちから、いろいろなお話がうかがえる機会なので、ほねほねクラブの活動の参考になる様、楽しんで参加したいと思います。



### 【活動予定】

2月、3月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。

また、2月の11日（土）、12日（日）に大阪自然史博物館で開催予定の「ホネホネサミット2017」にポスター展示で参加予定です。

（ホネホネサミットとは、数年に一度、全国にある骨の製作グループや個人が一堂に会するイベントです。一般の方の参加も自由ですので、ご興味のある方はぜひ足をお運びいただければと思います。）

動物や骨に興味がある方なら参加・見学大歓迎です。

活動見学等をご希望される方は、グループ代表メールまでご連絡をお願いします。

**【活動報告】****■12月18日(土) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 17名(うち子供3名)****・薬草ピザ作り(10:00~13:00)**

昨年も実施して、メンバー内で好評だった薬草を使ったピザ作りを今年も実施しました。ピザの生地は、タッパーに材料を入れ、フリフリしながら無発酵生地を作り、トマトソースとメンバーで持ちよった具材をのせて焼き上げました。ハーブや様々な具材が持ち寄られました。また当日、オリーブオイルのソムリエの方が来てくださり、オイルの説明と試飲をさせていただきました。

**<参加者の感想>**

- ★自分だけでは考えられない具材があって楽しめました。
- ★生地にもクミンを練り込んだり、酒粕を練り込んだり様々なアイデアがありました。
- ★作り方をまちがえるとパサパサになった。水を加える順序などは大切。
- ★水分量は研究が必要かも。
- ★デザートピザなら生地の砂糖の量などを変えたり、いろいろ考えられる。
- ★一年ぶりにピザを作りましたが、自分のアレンジで沢山のトッピングで美味しく出来て楽しかった。
- ★みんなで楽しく、美味しくできました。

**・カリンの種のチンキを使ったミツロウクリーム作り(13:00~15:00)**

植物をアルコールに漬け、成分を取り出したものをチンキといいます。そのチンキを活用する方法を交流しました。11月にメンバーがカリンの種をチンキ(アルコールに漬けて成分を取り出したもの)を作っておいてくれたので、それをミツロウ、植物性オイルと合わせ、ミツロウクリームにしました。

**(材料)**

ミツロウ 4g 植物性オイル 30ml チンキ 5ml 精油(お好みで) 8滴まで

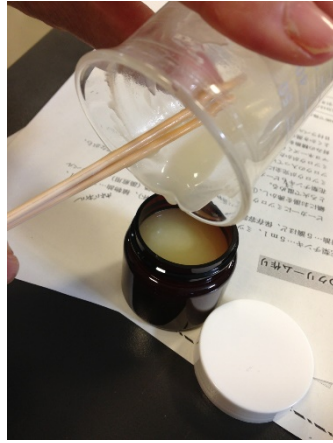
**(作り方)**

- ① ミツロウと植物性オイルは、耐熱容器入れ、湯煎する。
- ② チンキも湯煎し温めておく。
- ③ ①のミツロウが溶けたら、②のチンキを入れ、よくかき混ぜる
- ④ マヨネーズ状になったら容器に移す。お好みで精油を加える

クリーム作りの後、希望者はチンキを水で薄めた、カリンの化粧水を作りました。5月に漬けたドクダミのチンキを使っているメンバーもいました。他に、チンキの活用法としては水で薄めてうがいに使ったり、お風呂に入れたり、湿布として使ったりといったことが出来ます。日本では、びわの葉やゆずの種などの焼酎漬けなども有名ですね。

**<参加者の感想>**

- ★ミツロウクリームは、しっとりしていて良かったし、簡単にできてうれしかったです。
- ★使ったことのなかったカリンエキスが使えたのが良かったです。使い心地もとってもよいです。
- ★ミツロウを使って簡単にできたので、グルメ&美容に充実した一日でした。



＜今後の予定＞

2月4日(土) 10:00～(実習室2)

七草の活用と廃油石鹸作り

乾燥したヨモギでもぐさ作り

3月12日(土) 10:00～(研究棟)

年度末総会



⑱ 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: morihito@lbm.go.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■屋外動物撮影用カメラ設置 11月26日(土)

場所: 生活実験工房、屋外展示の森、参加者:(会員)7名(博物館職員)林、澤邊 13:30～15:30

■屋外展示のガイドツアー 12月4日(日) 場所: 生活実験工房 参加者:(会員)2名(博物館職員)林 10:00～12:30

環境学習センター主催の「環境ほっとカフェ」にガイドツアー担当で参加しました。このイベントは午前の開催ながら21名(大人11、子供10)の申し込みがあり盛況でした。リース作りがセットされていたためかも知れません。ガイドツアーは林さんから観察のポイントを説明してもらった後、2班に分かれて、太古の森と縄文・弥生の森をめぐり構成樹木の説明や草木の実や紅葉を観察しました。クマシデの種をつけた果苞がくるくると回りながら落ちる様子やキンミズヒキ、イノコヅチ、アレチヌスビトハギなどのくっつきむし、ゲンノショウコの種の飛ばし方などこのシーズンならではの観察ができました。



■竹の伐採作業、動物カメラの確認 12月24日(土)

場所: 生活実験工房 参加者:(会員)6名(博物館職員)草加、澤邊 13:30～15:30

1. 落葉広葉樹の森で前回取り残した竹の伐採を行いました。これで本年の作業は終了したが来年以降、数年にわたって伐採を続ける必要があります。
2. 屋外動物撮影用カメラの写真確認: 11月26日からほぼ1か月間にタヌキ、キツネ、イタチ、ネズミ、キジバト、トラツグミが写っていました。電池の充電後引き続き設置しています。

縄文弥生の森は植栽後20年を経て森らしくなり、アカネズミ、キツネ、タヌキなどいろいろな動物が利用しています。ここは博物館の第二期リニューアルで樹幹トレイルが設置される予定ですが工事に伴い動物は一時的にいなくなり工事完了後は徐々に戻ってくるものと思われます。工事の前で生息する動物がどのように変化するかを観察するため屋外動物撮影用カメラを設置することにしました。澤邊学芸員の指導の下、獣道と思われる場所に4台のカメラを設置しました。



■動物カメラの確認、樹冠トレイル関連 1月14日(土)

場所:生活実験工房、参加者:(会員)6名(博物館職員)林、草加 13:30~15:30

1. 動物カメラの確認: イタチはどんな状況で立ち上がるのでしょうか?
2. 樹冠トレイル関連: サブルート案は遊園地みたいにならず、できるだけ多くの樹木を見てもらうような設備とするよう検討し粗案を作成した。また樹冠トレイルに設置する各種の説明版をメンバーで少なくとも一つは考えることとなった。
3. メーリングリストの登録について: 情報共有のため活用したいので登録を要請した。



【活動予定】

- 1月28日(土) 10:00~12:00 場所:生活実験工房  
・クズの伐採 ・前回の積み残しと今後の予定など。
- 2月11日(土) 調整中につき別途連絡
- 2月25日(土) 調整中につき別途連絡

=====

★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きの人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか  
★参加を希望される方は 森人(もりひと) [morihito@lbm.go.jp](mailto:morihito@lbm.go.jp) に連絡ください。



②⑩ ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: [chikoaso@lbm.go.jp](mailto:chikoaso@lbm.go.jp)

グループ担当者: 澤邊久美子

12月のちこあそ当日は、滋賀県全域が霧に包まれた日でした。車での来館が危ぶまれましたが、6組の親子が来てくださりました。クモの巣についた霧の水玉のきれいさには、みな声あげました。生活実験工房の裏の森を探検していると、そこには、たくさんのイチイガシのドングリが。早速、炒ってもらい、一つひとつ割って食べてみました。ほんのり甘くて、香ばしいイチイガシ。ドングリが食べられることに驚いておられるお母さんもおられ、自然の食について知ってもらえました。また、縄文の森へ行くとなんとそこには、フユイチゴがいっぱい! 子どもも大人も手のひらいっぱいフユイチゴを摘んで、口に入れると、あまずっぱい味が広がります。生活実験工房や博物館の森ならではの、食をたくさん体験してもらえました。

1月のちこあそは、アトリウム以外の広場で雪遊びをしました。シャリシャリの雪でしたが、転ばないように雪の上を歩いて、足で雪を踏み音や感触を楽しんだり、雪玉を作って投げたり、雪だるまを作ったり、1歳から3歳の子も達がお母さん達と、五感を使って雪を感じながら遊びました。ルーペで雪を見ると、少しずつ溶けていく粒の様子が本当にきれいでしたよ。今回はいつものちこあそと趣向を変えて、室内遊び(ディスカバリールーム)の時間を設け、いつも屋外で遊んでいる子ども達が、自然物を模した展示物に触れてどのような反応を見せるか観察してみました。水の中や土の中の生き物が潜んでいるコーナーでは、ヘビやカエルが出てくると怖がる様子があったり、顕微鏡をひたすら覗く様子があったりと、なかなか面白い反応を見せてくれました。そして、子ども達が楽しみな工房の食では、たき火で温まりながら、焼き芋をしました。いつもながら、工房の食では、子ども達が自然そのままの味を、パクパクモグモグ喜んで食べています。毎回、自然の良さを五感(見る、触る、嗅ぐ、聞く、そして味わう)で感じてもらえるちこあそを作っています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。 <http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

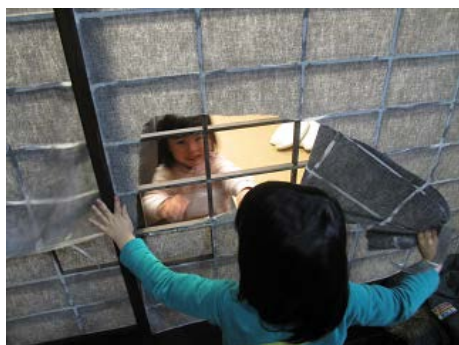
【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
12月	12月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ12月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験、注連縄づくりなど  メンバー2人、参加者幼児9人、大人6人、学生1名、はしかけ飛び入り1人
1月	1月19日(木) 10:00-14:00	ちこあそ1月	ループでの自然観察、焼き芋、雪遊び、ディスカバリールーム体験、一輪挿しづくりなど  メンバー1人、参加者幼児8人、大人7人、学生1名、はしかけ飛び入り1人

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
2月	2月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	寒さに負けずお外でいっぱい遊びます！

新しいメンバー也大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



バンダナおじさんが、工房の障子の張り替えのため、「破いていいよ」と言ってくれました。子ども達は大喜びで、障子をビリビリッ！（12月の様子）



縄文の森で、フイチゴを見つけ、ひたすら採っては食べ、採っては食べてました。お口の中が真っ赤っかの子もいました。（12月の様子）



たき火で焼き芋を焼く前の準備。火吹き竹で炭に空気を送り込んで、火を点けます。お母さんと一緒にフーフー。（1月の様子）



アトリウム前で雪遊び。シャリシャリの雪をなども踏んで音と感触を楽しんで、雪だるまを作って、雪を食べて、ほんの少しの雪でしたが、楽しい雪遊びができました。（1月の様子）



## 生活実験工房からのお知らせ

※寒い冬から、少しずつ春の気配が感じられる頃になりました。本年度の生活実験工房の行事も残すところ2回となりましたが、工房内にて作業を行います。時間を見つけて体験活動へのご参加をよろしくお願いいたします。

担当職員：下松 孝秀

### 【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

2月11日（土祝） わら細工

3月11日（土） 一年間のふりかえり

※一般参加者の受付は、9:30 からです。 わら細工の作業時には、「マスク」をご持参ください。

## 4. その他の事項

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの [hashi-adm@lbm.go.jp](mailto:hashi-adm@lbm.go.jp) まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成 28 年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。